令 和 ７ 年 ９ 月 ２ 日
民生文教常任委員会説明資料
こども福祉部福祉室高齢介護課

高齢者バス運賃助成事業の見直しについて

１　趣旨

高齢者人口の増加及びバス運賃の値上げによる事業費の増加が続く中、高齢者バス運賃助成事業を持続可能な事業とするために、助成割合を見直すもの。

２　見直しの内容

助成割合を現行の５割助成から３割助成に変更する。見直しにあたり乗車運賃の助成に加え、阪急グランドパス購入代金の助成を併せて開始する。

３　見直しの考え方

令和６年１２月２日（月）～令和７年１月１０日（金）に実施した、高齢者バス運賃助成事業に係るアンケートに基づき、高齢者バス運賃助成事業を見直すもの。

４　アンケート結果

資料 01_高齢者バス運賃助成事業に係るアンケート（報告書）
資料 02_高齢者バス運賃助成事業に係るアンケート（資料集）

５　見直し（案）

資料 03_高齢者バス運賃助成事業の見直し（案）についてのとおり。

６　変更時期

令和８年１０月１日（木）予定

７　その他

令和７年１１月～１２月に市内の全ての集会所において、高齢者バス運賃助成事業の見直しについての説明会を実施予定です。

８　今後のスケジュール

民生文教常任委員会への報告後、市内の集会所における市民への説明会を開催した後、令和８年３月議会にて説明結果について報告することを想定しています。

以上

資料 01_高齢者バス運賃助成事業に係るアンケート

（報告書）

令和７年８月

芦屋市こども福祉部福祉室高齢介護課

目次

Ⅰ　アンケートの実施について 3

Ⅱ　アンケートの前提となる市内のバス路線等の状況等について 4

Ⅲ　アンケート結果の回答集計と分析観点 8

Ⅳ　アンケート回答者の内訳

問　1　あなたの年齢（令和6年12月1日現在）は、以下のうちどれにあてはまりますか。1つだけ選んで数字に○をつけてください。（本アンケートは65歳以上の方を対象としています。65歳未満の方はお答えいただけません。ご了承ください） 11

問　2　あなたの性別は、以下のうちどれにあてはまりますか。1つだけ選んで数字に○をつけてください。 11

問　3　あなたは、現在どちらにお住まいですか。校区番号1～10から1つだけ選んで数字に○をつけてください。 12

問　8　あなたのバス利用回数について、1つだけ選んで数字に○をつけてください。 13

Ⅴ　分析の観点1　本事業は必要な事業なのか

問　4　あなたの介護度について、1つだけ選んで数字に○をつけてください。 15

問　5　外出することが介護予防につながると思いますか？1つだけ選んで数字に○をつけてください。 15

問　6　あなたが普段移動される際に利用される移動手段について、当てはまる数字すべてに○をつけてください。 16

問　7　あなたの普段の外出頻度について、1つだけ選んで数字に○をつけてください。 17

問　9　あなたがバスを利用して向かう外出先について、当てはまる数字すべてに○をつけてください。 18

問　10　バス運賃助成事業の割引証の所有について、1つだけ選んで数字に○をつけてください。 19

問 11 ア　割引証を所有することでの外出機会が増えたかについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。 20

問 11 イ 助成事業があることが免許の返納につながっているか、1つだけ選んで数字に○をつけてください。 21

問 12 70歳になったらバス運賃助成事業の割引証を申請されるかについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。 21

Ⅵ 分析の観点2 本事業における市民の割引証所有に対する意識

問 13 あなたが割引証を申請しない理由について、当てはまる数字すべてに○をつけてください。(複数回答可) 22

Ⅶ 分析の観点3 本事業を持続可能な事業とするには

問 14 バス運賃助成事業そのものについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。. 25

問 15 外出促進による介護予防の観点から、助成する考え方にバス利用頻度を考慮すべきかについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。 27

問 16 阪急グランドパスについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。 28

問 17 阪急グランドパス購入代金の助成をした場合、今よりあなた自身が外出する回数が増加するかについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。 29

問 18 阪急グランドパス購入代金の助成を施策として追加することについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。 30

Ⅷ 高齢者が充実させるべきと思う高齢者施策

問 19 あなたが充実させるべきと思う高齢者施策について、当てはまる数字すべてに○をつけてください。 32

Ⅸ まとめ 34

Ⅰ　アンケートの実施について

1 目的

高齢者施策、特に介護予防の観点から本助成事業が芦屋市民の皆さまにとって効果的な施策か、より高齢者の社会参加の機会を促進するためにはどうすれば良いかという視点をもって、利用実態等を把握するため。

2 実施方法

（1） 対象者

令和6年12月1日現在で65歳以上の者

（2） 無作為抽出者

令和6年11月1日現在住基登録者のうち、令和6年12月1日時点で65歳以上の者から1，500人を無作為で抽出しアンケートを実施。

その際、抽出者に偏りが出ないよう、下記の500名×3分類で対象者を分けて抽出を実施（市で把握できている「阪急バス利用実績データ」より判断）

分類	対象	抽出者数
分類1	70歳以上の者のうち、 バス運賃助成事業の割引証利用者	500名
分類2	70歳以上の者のうち バス運賃助成事業の割引証未利用者	500名
分類3	65歳以上70歳未満の者	500名

（3） その他

より多くの声を聞くために、65歳以上の市民の方は全員回答できるように、市内5カ所の高齢者生活支援センター等に用紙を準備したほか、インターネットでも回答できるようにし、広報、市内掲示板等で周知を図る。

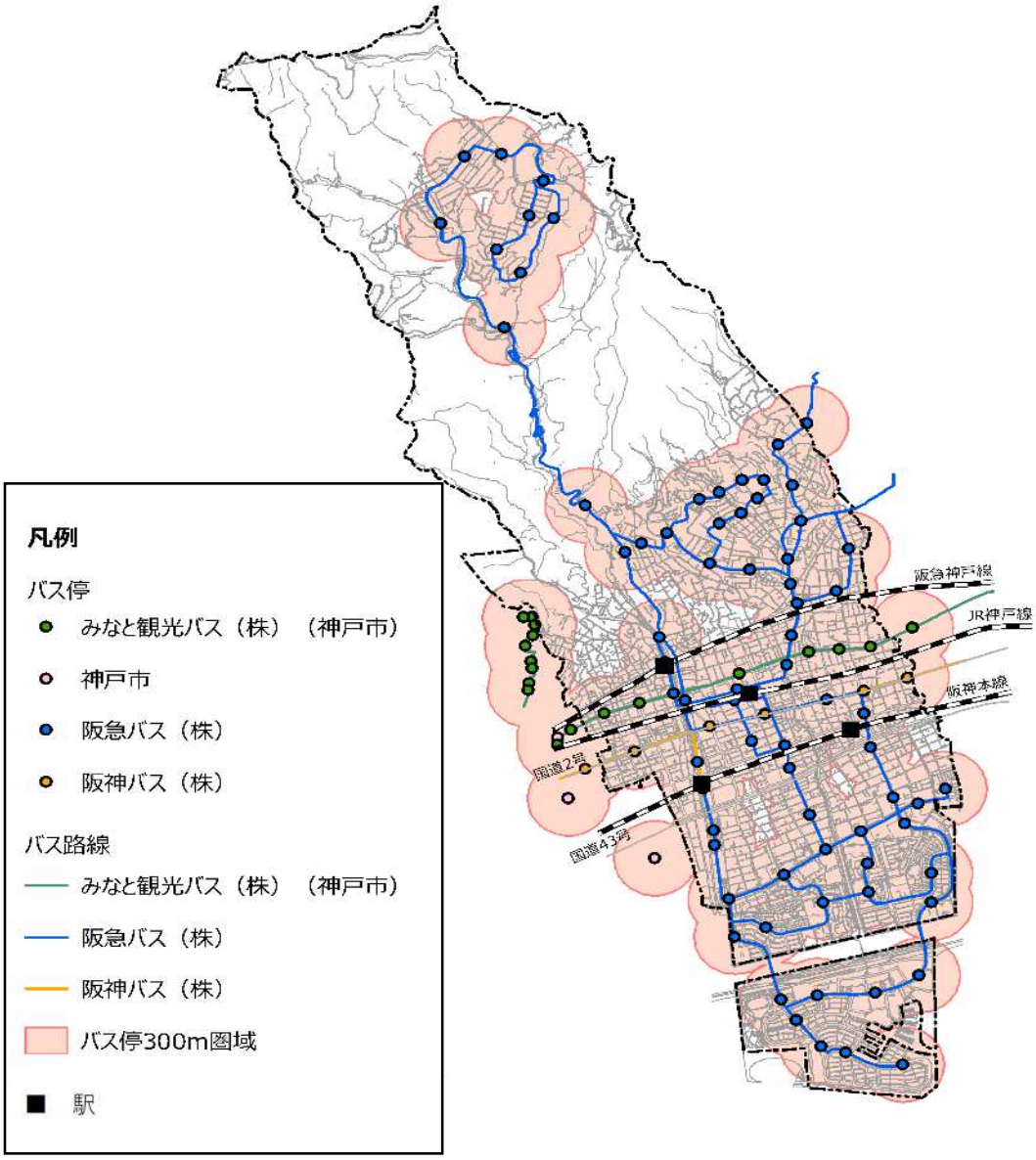
3 実施期間

令和6年12月2日（月）～令和7年1月10日（金）

Ⅱ　アンケートの前提となる市内のバス路線等の状況等について

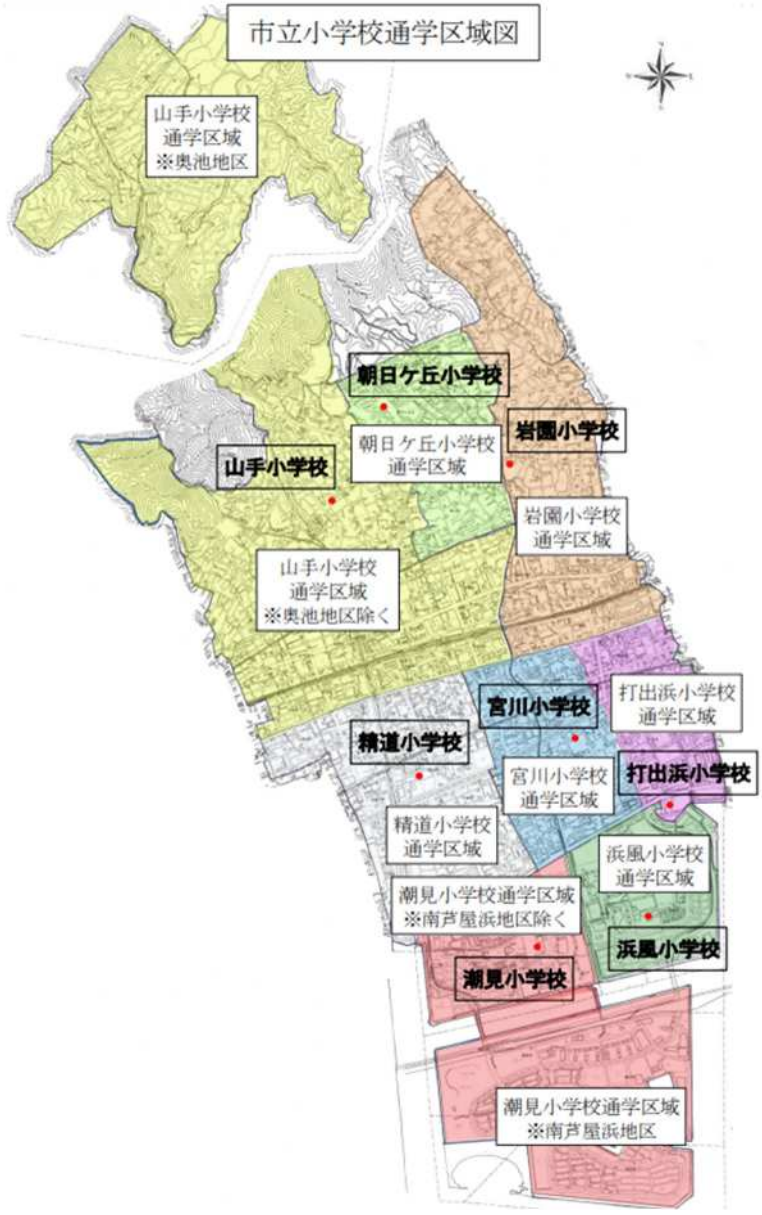
1　市内のバス路線について

　芦屋市内では、阪急バス、阪神バス、みなと観光バスの3路線が運行しており、市内のほぼ全域で居住地から 300mの範囲内にバス停がある。



2　市内の学校区について

アンケートの地域別の回答の区域は下記のとおりとする。



3 現行の事業について

（1） 事業概要

市内在住の70歳以上の希望者に対し、阪急バス、みなと観光バス、もしくは両方の割引証を発行している。乗車駅、降車駅の片方、もしくは両方が芦屋市内にあるバス停を利用した場合に運賃が半額になる。なお、利用者の多くが阪急バスの利用であり、阪神バスの乗車に関しては同事業自体を実施していない。

（2） 阪急バス乗車実績の推移 （回）

	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
利用人数(人)※1	10,048	9,385	9,634	10,102	10,314
年間利用回数(回)	756,547	555,436	623,415	733,620	809,929
1人平均年間乗車回数(回)	75.2	59.1	64.7	72.6	78.5
70歳以上の人数(人)※2	21,018	21,768	22,224	22,567	22,740

※1･･･1 回でも利用された方の人数

※2･･･各年度の 3 月末時点の人数

（3） 助成額総額の推移

現行事業は半額助成（10円未満切り捨て）のため、運賃が230円であれば助成額は110円となる。令和6年10月１日より運賃が 240 円に上昇したため、令和７年度は1億円以上の支出が見込まれる。

	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
助成額総額(円)	84,626,560	61,723,780	69,302,100	81,599,270	90,231,270
市内線運賃(円)※3	220 円	220 円	220 円	220 円	220 円
市内線市助成額(円)※4	110 円	110 円	110 円	110 円	110 円

※3･･･芦屋市内線の運賃　令和 5 年 9 月 1 日に 230 円に値上げ　令和 6 年 10 月 1 日より 240 円に値上げ

※4･･･半額助成のため、220 円～230 円の時は 110 円助成、令和 6 年 10 月 1 日より 120 円助成

（4） 運賃別利用回数実績

96%以上の方が市内線を利用している。

1 回当たり助成額	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
120 円以上(回)	12,943	8,082	9,740	11,581	13,527
110 円(回)	742,221	546,419	612,608	720,720	794,636
100 円以下(回)※5	1,383	935	1,067	1,319	1,766
計(回)	756,547	555,436	623,415	733,620	809,929

※5･･･助成額100円以下は奥池地区内のバス移動

4　市内の高齢者率（70歳以上）

令和6年11月末時点の高齢者率（70歳以上）は下記のとおりである。

	70 歳以上（人）	町人口（人）	高齢者率
1.奥池地区	436	1,273	34.2%
2.山手小学校区（奥池地区除く）	4,407	18,378	24.0%
3.岩園小学校区	2,966	13,179	22.5%
4.朝日ケ丘小学校区	2,172	8,854	24.5%
5.精道小学校区	2,925	13,029	22.4%
6.宮川小学校区	2,346	11,647	20.1%
7.打出浜小学校区	2,224	9,442	23.6%
8.浜風小学校区	2,102	6,968	30.2%
9.潮見小学校区（南芦屋浜地区除く）	1,916	5,076	37.7%
10.南芦屋浜地区	1,535	6,208	24.7%
計	23,029	94,054	24.5%

Ⅲ　アンケート結果の回答集計と分析観点

1　回答率

回答率は64．6%である。

対象	抽出数	回答数	回答率
無作為抽出者回答	1，500	969	64．6%

一般回答　573件

2　アンケートの回答集計

（1）分析手法

アンケートの回答にあたっては、下記の表の3グループごとの集計、無作為抽出者全体の集計、一般回答の集計の計5集計を利用するが、設問により要介護度、居住地域、バス乗車回数等も加味して分析を行う。

なお、分析におけるグループ　1～3においては設問の回答に基づき行う。

グループ名	対象	当該グループと判断したアンケートの回答項目	回答者数
グループ1 （70歳以上・バス運賃助成事業利用者）	70歳以上の高齢者バス運賃助成事業利用者	設問1で2～8かつ 設問8で1～8かつ 設問10で1～3 と回答した者	508名
グループ2 （70歳以上・バス運賃助成事業未利用者）	70歳以上の高齢者バス運賃助成事業未利用者	設問1で2～8と回答した中でグループ1に該当しない者	168名
グループ3 （65歳以上70歳未満）	65歳以上70歳未満のもの	設問1で1と回答した者	293名

※回答者の意思、認識に基づいた設問ごとの回答を根拠に分類しているため「阪急バス利用実績データ」を基にした無作為抽出時の人数と一部差が生じている。

例：高齢者バス運賃助成事業の割引証が IC カードを利用する方式であるため、他の IC カードの所有や阪急グランドパス等をもって割引証を所有していると回答されている可能性がある。

本アンケートは本事業を利用しバスに乗車されている実態をもとに分析するため、70歳以上で、割引証を所有していると認識されている方で、バスに乗車されている方をグループ1とする。

設問1で2～8･･･年齢が 70 歳以上と回答

設問8で1～8･･･バスを 1 年間に 1 度でも乗車していると回答

設問10で1～3･･･阪急バスもしくはみなと観光バスの割引証を所有していると回答

3 回答の標本誤差について

（1） 標本誤差とは

標本誤差は、全数調査ではなく標本調査を行うことで生じてしまう標本統計量の誤差のことである。標本調査での信頼水準(※)は、一般的に 95%が用いられている。この場合、標本誤差は次の式で計算できる。

今回調査の標本誤差については(2)の表の通りである。例えば65歳以上 70 歳未満(293人)が回答している設問について、ある選択肢に回答した比率が 50%であった場合、回答比率の誤差範囲は±5.6%(44.4%～55.6%)の間にあることが推測できる。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P \times (1-P)}{n}}$$

N：母集団数（令和 6 年 9 月末時点の 18 歳以上の男女 80,542 人）
n：標本数
P：測定値（回答の比率）

（※）信頼水準：母数が標本統計量を中心とした誤差の範囲内に含まれる確率

（2） 年齢別標本誤差

65歳以上70歳未満、70 歳以上と分けてみた場合は、標本誤差は最大でも 5.6%である。

年齢	母数（N）	回答数（n）	5%または95%	10%または90%	20%または80%	30%または70%	40%または60%	50%または50%
65歳以上70歳未満	5,702	293	±2.4%	±3.3%	±4.5%	±5.1%	±5.5%	±5.6%
70歳以上	23,029	676	±1.6%	±2.2%	±3.0%	±3.4%	±3.6%	±3.7%
全体	28,731	969	±1.3%	±1.9%	±2.5%	±2.8%	±3.0%	±3.1%

（3） 地区別標本誤差

回答数の少ない奥池地区において、標本誤差が大きくなっている。南芦屋浜地区も他の地区より少し高いが、他の地域は概ね同じぐらいの標本誤差となっている。

年齢	母数（N）	回答数（n）	5%または95%	10%または90%	20%または80%	30%または70%	40%または60%	50%または50%
1.奥池地区	537	15	±10.9%	±15.0%	±20.0%	±22.9%	±24.5%	±25.0%
2.山手小学校区（奥池地区除く）	5,524	166	±3.3%	±4.5%	±6.0%	±6.9%	±7.3%	±7.5%
3.岩園小学校区	3,794	124	±3.8%	±5.2%	±6.9%	±7.9%	±8.5%	±8.7%
4.朝日ケ丘小学校区	2,820	104	±4.1%	±5.7%	±7.5%	±8.6%	±9.2%	±9.4%
5.精道小学校区	3,663	120	±3.8%	±5.3%	±7.0%	±8.1%	±8.6%	±8.8%
6.宮川小学校区	2,976	86	±4.5%	±6.2%	±8.3%	±9.5%	±10.2%	±10.4%
7.打出浜小学校区	2,780	94	±4.3%	±6.0%	±7.9%	±9.1%	±9.7%	±9.9%
8.浜風小学校区	2,582	111	±4.0%	±5.5%	±7.3%	±8.3%	±8.9%	±9.1%
9.潮見小学校区（南芦屋浜地区除く）	2,272	107	±4.0%	±5.6%	±7.4%	±8.5%	±9.1%	±9.3%
10.南芦屋浜地区	1,783	47	±6.1%	±8.5%	±11.3%	±12.9%	±13.8%	±14.1%
11.全体	28,731	974	±1.3%	±1.9%	±2.5%	±2.8%	±3.0%	±3.1%

4 分析観点

アンケートの分析においては、下記3つの視点から行う

①本事業は必要な事業なのか

②本事業における市民の割引証所有に対する意識

③本事業を持続可能な事業とするにはどうすればよいか

5 分析における留意事項

年齢別で回答者が決まっている質問に、非該当の方が回答されている場合等は、その設問の回答のみ、無効回答として取り扱う。

Ⅳ アンケート回答者の内訳

問 1 あなたの年齢(令和6年12月1日現在)は、以下のうちどれにあてはまりますか。1つだけ選んで数字に○をつけてください。(本アンケートは65歳以上の方を対象としています。65歳未満の方はお答えいただけません。ご了承ください)

(資料集:P6、7)

各グループとも、どの年齢層からも回答がある。本事業を利用している70歳以上を1000人、65歳～69歳を500人、無作為で抽出していることもあり、1番回答が多いのは70代の方であるが、80歳以上の方の回答も一定数ある。

単位:人

グループ	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～	計
グループ1 (70 歳以上・バス運賃助成事業利用者)	0	151	205	152	508
グループ2 (70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者)	0	64	43	61	168
グループ3 (65歳以上 70 歳未満)	293	0	0	0	293
無作為抽出者全体	293	215	248	213	969
参考:一般回答者 (無作為抽出者以外)	152	139	133	149	573

問 2 あなたの性別は、以下のうちどれにあてはまりますか。1つだけ選んで数字に○をつけてください。

(資料集:P8, 9)

どのグループとも女性が男性を上回っていて、おおむね男性 40%、女性 60%となっている。

単位:%

グループ	男性	女性
グループ1 (70 歳以上・バス運賃助成事業利用者)	37.8	60.6
グループ2 (70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者)	42.3	56.5
グループ3 (65歳以上 70 歳未満)	41.0	58.0
無作為抽出者全体	39.5	59.1
参考:一般回答者 (無作為抽出者以外)	41.9	57.1

問 3　あなたは、現在どちらにお住まいですか。校区番号1～10から1つだけ選んで数字に○をつけてください。

（資料集：P10、11）

各地域別の回答数は異なるが、P9 の標本誤差より、奥池地区、南芦屋浜地区を除き、ほぼ人口に均一の回答がある。参考である一般回答者の回答数は、地域による差が見られる。

単位：人

小学校区	グループ1（70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）	グループ2（70歳以上・バス運賃助成事業未利用者）	グループ3（65歳以上 70 歳未満）	全体（無作為抽出者）	一般回答者（無作為抽出者以外）
1.奥池地区	7	4	4	15	31
2.山手小学校区（奥池地区除く）	67	40	58	165	64
3.岩園小学校区	61	23	37	121	60
4.朝日ケ丘小学校区	53	16	34	103	84
5.精道小学校区	61	19	40	120	114
6.宮川小学校区	33	21	32	86	69
7.打出浜小学校区	45	20	29	94	24
8.浜風小学校区	74	10	27	111	63
9.潮見小学校区（南芦屋浜地区除く）	79	9	19	107	37
10.南芦屋浜地区	28	6	13	47	27
計	508	168	293	969	573

単位：%

小学校区	グループ1（70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）	グループ2（70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者）	グループ3（65歳以上 70 歳未満）
1.奥池地区	46.7	26.7	26.7
2.山手小学校区（奥池地区除く）	40.6	24.2	35.2
3.岩園小学校区	50.4	19	30.6
4.朝日ケ丘小学校区	51.5	15.5	33.0
5.精道小学校区	50.8	15.8	33.3
6.宮川小学校区	38.4	24.4	37.2
7.打出浜小学校区	47.9	21.3	30.9
8.浜風小学校区	66.7	9.0	24.3
9.潮見小学校区（南芦屋浜地区除く）	73.8	8.4	17.8
10.南芦屋浜地区	59.6	12.8	27.7
回答者の平均構成率	52.4	17.3	30.2

問 8 あなたのバス利用回数について、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

（資料集：P20、21）

回答者のバスの利用回数は、各グループ間において異なる。

グループ1の中でも利用回数にバラつきがあり、1番多いのは「月 1～4 回」で 23.8%、2 番目は「月 5～9 回」で16．5%となっている。月10回未満（月5日以下）の方の回答を合わせると53．7%となり、半数を超える。

グループ2の中には、月 26 回以上（月 13 日以上）バスを乗る方が6．6%おり、本助成事業を利用せずにバスを利用されている方がいる。

無作為抽出者全体の月10回未満（月5日以下）の回答を合わせると63．4%となっている。

単位:%

乗車回数	グループ1（70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）	グループ2（70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者）	グループ3（65歳以上 70 歳未満）	無作為抽出者全体	一般回答者（無作為抽出者以外）
月 31 回以上	7.3	4.2	7.5	6.8	10.5
月26～30回	3.9	2.4	2.7	3.3	4.4
月21～25回	6.5	0	2.7	4.2	6.6
月15～20回	13.2	1.8	6.5	9.2	8.6
月10～14回	15.4	1.2	8.2	10.7	12.9
月5～9回	16.5	2.4	9.2	11.9	15.5
月 1～4回	23.8	8.9	15.0	18.6	15.0
年数回程度	13.4	20.2	21.2	16.9	13.8
バスに乗らない	0	47.6	25.6	16.0	11.9

Ⅴ　分析の観点1　本事業は必要な事業なのか

POINT

■問4：バス運賃助成事業利用者の9割以上の方が介護度の認定なしである。

■問5：高齢者の約 9 割が、外出は介護予防に関係があると認識しており、バス運賃助成事業未利用者の80%以上の方も、外出は介護予防に関係があると認識している。

■問6：高齢者の62．3%が阪急バスを利用。バス運賃助成事業未利用者の22．6%も阪急バスを利用しており、バスは市民の生活に欠かせないものとなっている。

■問7：バス運賃助成事業の利用の有無で、外出頻度に差がでており、特に「ほぼ外出しない～月2、3日しか外出しない」は、グループ2が突出して多く、バス運賃助成事業と外出頻度は一定関係性があると推測される。

■問9：日常的な生活に欠かせないことや、生きがいに関することにバスを利用されている。

■問10：小学校区によって割引証を所有していない割合が異なる。割引証の所有率は海側の地区が高くなっている。

■問11：割引証を所有することで、外出が「増えた」「どちらかと言えば増えた」もしくは「維持できている」が合わせて68．4%となり、割引証の所有が外出の維持、増加に役立っている。また、免許の返納や運転回数の減少にも影響があると回答している。

■問12：65歳以上 70 歳未満の 68.9%の方が本事業の利用を「申請する」、「どちらかと言えば申請する」と回答しており、高い割合で本事業の利用希望がある。

問 4 あなたの介護度について、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

（資料集：P12、13）

介護度「認定なし」は、グループ1が 91.7%、グループ2が 73.8%である。

また、バス運賃助成事業利用者よりバス運賃助成事業未利用者のほうが、要支援 1 以上の認定を受けている方が多い。

単位%

グループ	認定なし	要支援 1 以上
グループ1 （70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）	91.7	7.4
グループ2 （70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者）	73.8	19.4

問 5 外出することが介護予防につながると思いますか？1つだけ選んで数字に○をつけてください。

（資料集：P14、15）

外出が介護予防に「つながる」が、無作為抽出者全体で 72.8%、グループ1で 76.4%、グループ2で 56.5%であった。「どちらかと言えばつながる」も含めると、グループ1で 92.0%、グループ2で 80.3%あり、外出と介護予防はつながっていると考えている方が多い。

「つながる」の回答割合が最も高いのは、参考：一般回答者の 94.3%である。外出が介護予防につながると考えている方が、自発的にアンケートに答えていることが考えられる。

単位%

グループ	つながる	どちらかと言えばつながる	計
グループ1 （70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）	76.4	15.6	92.0
グループ2 （70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者）	56.5	23.8	80.3
グループ3 （65歳以上 70 歳未満）	75.8	14.7	90.5
無作為抽出者全体	72.8	16.7	89.5
参考：一般回答者 （無作為抽出者以外）	81.2	13.1	94.3

問 6　あなたが普段移動される際に利用される移動手段について、当てはまる数字すべてに○をつけてください。

（資料集：P16、17）

全てのグループで、「徒歩・自転車」の割合が圧倒的に高く、いずれも 60%台を超えている。「阪急バス」の利用は、グループ2で 22.6%、無作為抽出者全体で 62.3%と高く、多くの高齢者に利用されている。

「タクシー」の利用は、グループ2よりグループ1が多くなっている。

グループ3は「阪急バス」の利用が48．8%と低くなるが、「自家用車」の利用が43.3%と非常に高い。バス運賃助成事業の対象ではないことが、自家用車の運転と結びついていることが推測される。

単位：%

グループ	阪急バス	みなと観光バス	阪神バス
グループ1 （70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）	83.3	6.9	11.4
グループ2 （70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者）	22.6	1.8	8.3
グループ3 （65歳以上 70 歳未満）	48.8	7.2	10.9
無作為抽出者全体	62.3	6.1	10.7
参考：一般回答者 （無作為抽出者以外）	73.1	8.2	12.7

単位：%

グループ	徒歩・自転車	タクシー	自家用車 （自分で運転）	自家用車 （家族等が運転）
グループ1 （70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）	77.6	38.0	24.4	21.5
グループ2 （70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者）	63.7	32.1	29.2	25.0
グループ3 （65歳以上 70 歳未満）	80.9	29.4	43.3	28.0

「自家用車(自身で運転)」の利用はグループ3で43.3%に対し、グループ1で24.4%となっている一方、「阪急バス」の利用は、48.8%から83.3%と大きく増加している。

「徒歩・自転車」を移動手段として利用される方の割合は大きく変わらないため、「徒歩・自転車」以外の交通手段について、加齢による公共交通機関への利用転換が見られる。

単位:%

グループ	阪急バス	徒歩・自転車	自家用車 (自分で運転)
グループ1 (70 歳以上・バス運賃助成事業利用者)	83.3	77.6	24.4
グループ3 (65歳以上 70 歳未満)	48.8	80.9	43.3

問 7 あなたの普段の外出頻度について、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

(資料集:P18、19)

全てのグループにおいて「週 5 日以上」外出している方は50%を超えている。また、グループ1がグループ2より外出頻度が高い。「ほぼ外出しない～月2、3日しか外出しない」の割合は、グループ2が突出して高く、バス運賃助成事業と外出頻度は一定関係性があると推測される。

単位:%

グループ	週 5 日～ ほぼ毎日	週 1 日～ 週 4 日	ほぼ外出しない ～月2, 3日
グループ1 (70 歳以上・バス運賃助成事業利用者)	57.7	39.2	3.0
グループ2 (70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者)	50.6	31.6	7.2
グループ3 (65歳以上 70 歳未満)	74.4	23.6	0.3
無作為抽出者全体	61.5	33.1	2.9
参考:一般回答者 (無作為抽出者以外)	60.5	35.6	2.6

問 9 あなたがバスを利用して向かう外出先について、当てはまる数字すべてに○をつけてください。

（資料集：P22、23）

バスは、「日常的な買い物」「通院」「役所や銀行」といった生活に欠かせないことに利用されている。また「家族・友人・知人との交流」「趣味やスポーツ活動」等、生きがいに関することにもバスが利用されている。

今後事業を利用する見込みがあるグループ3も、生活に欠かせないことや生きがいに関することにバスを利用している。

単位：%

グループ	日常的な買い物	通院	通勤・通学	家族・友人・知人との交流	趣味やスポーツ活動	デイサービス等の利用	役所や銀行
グループ1（70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）	54.5	48.0	5.9	49.2	34.1	0.8	40.7
グループ2（70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者）	36.2	42.0	11.6	39.1	24.6	0	13.0
グループ3（65歳以上 70 歳未満）	50.0	30.8	16.4	52.3	36.4	0	31.3
無作為抽出者全体	51.7	42.9	9.2	49.2	33.9	0.5	35.8
参考：一般回答者（無作為抽出者以外）	55.2	45.0	11.4	54.6	48.6	1.8	40.2

問 10 バス運賃助成事業の割引証の所有について、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

（資料集：P24、25）

割引証を「どちらも所有していない」割合は70歳以上全体の 17.5%いる。

小学校区別に見ると割引証を「どちらも所有していない」割合は地区により異なる。浜風、潮見、南芦屋浜地区の「どちらも所有していない」割合は 10%未満であり、最大 23.9%の差がある。

70歳以上（グループ1、2）全体	件数	割合
阪急バスの割引証もみなと観光バスの割引証も所有している	52	7. 7%
阪急バスの割引証のみ所有している	484	71.6%
みなと観光バスの割引証のみ所有している	6	0.9%
どちらも所有していない	118	17.5%

単位：%

小学校区	割引証を所有していない人の割合	参考：70歳以上の割合
奥池地区	27.3%	34.2%
山手小学校区	29.9%	24.0%
岩園小学校区	17.9%	22.5%
朝日ケ丘小学校区	17.4%	24.5%
精道小学校区	17.5%	22.4%
宮川小学校区	29.6%	20.1%
打出浜小学校区	18.5%	23.6%
浜風小学校区	6.0%	30.2%
潮見小学校区	6.8%	37.7%
南芦屋浜地区	8.8%	24.7%
全体	17. 5%	24.5%

問 11 ア　割引証を所有することでの外出機会が増えたかについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

（資料集：P26）

割引証を所有することで外出が「増えた」「どちらかと言えば増えた」は41.4%である。増えたとまでは言えないが、「以前の外出回数を維持できている」を含めると、68.4%が割引証を所有することが外出の維持、増加に繋がっていると推測される。

参考：一般回答者のうち 70 歳以上でバス運賃助成事業利用者の方は、「以前の外出回数を維持できている」を含めると、76.7%が割引証を所有することが外出の維持、増加に繋がっていると推測される。

単位：%

グループ	増えた どちらかと言えば増えた	維持できている	バスにそこまで乗らないので 影響はない	どちらとも言えない
グループ1 （70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）	41.4	27.0	20.9	8.7%
参考：一般回答者 （70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）	58.2	18.5	13.9	8.2%

問 11 イ 助成事業があることが免許の返納につながっているか、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

（資料集：P27）

グループ1のうち免許を取得したことがある方の回答では、本事業が免許の返納に「つながった」が 31.1%、「返納はしていないが運転回数が減った」、「今後返納する際に本事業があることが大きい」を合わせると67.6%おり、本事業が免許の返納に役立っていると推測される。

一般回答者のうち 70 歳以上でバス運賃助成事業利用者の方は、「つながった」が31.9%で、「返納はしていないが運転回数が減った」や、「今後返納する際に本事業があることが大きい」を合わせると76.3%となる。

単位：%

グループ	つながった	今後返納を考えるときに影響は大きい	返納はしていないが運転回数が減った	計※
グループ1 （70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）	31.1	23.4	13.1	67.6
参考：一般回答者 （70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）	31.9	21.8	22.6	76.3

※免許を取得したことがある人の回答を集計した割合

問 12 70歳になったらバス運賃助成事業の割引証を申請されるかについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

（資料集：P28）

グループ3の 68.9%が、「申請する」、「どちらかと言えば申請する」と回答しており、高い割合で本事業を利用されようとしている。

一般回答者のうち65歳以上 70 歳未満の方でも、86.8%が「申請する」「どちらかと言えば申請する」と回答しており、高い割合で本事業を利用されようとしている。

単位：%

グループ	申請する	どちらかと言えば申請する	計
グループ3 （65歳以上 70 歳未満）	54.6	14.3	68.9
参考：一般回答者 （65歳以上 70 歳未満）	71.7	15.1	86.8

Ⅵ 分析の観点2 本事業における市民の割引証所有に対する意識

POINT

■問13：割引証を申請しない理由は、バス路線が近くに通っていないことよりも、徒歩や自転車で行ける範囲内に駅や商業圏があること等の地域特性や、自身で移動できることが大きい。

問 13 あなたが割引証を申請しない理由について、当てはまる数字すべてに○をつけてください。（複数回答可）

（資料集：P29、30）

割引証を申請しない理由では、多い順に「徒歩や自転車で十分だから」が 31.4%、「自分で運転しているから」が 25.4%、「事業を知らなかったから」が 17.8%、「家族等の運転で移動できているから」が 16.9%となっており、バス路線が近くを通っていないことよりも、バスの必要性を感じていないことの方が高い割合となっている。

また、阪急グランドパスの利用や、障がい者の割引制度などを利用されている方もおり、本事業を利用していないが、バスに乗車されている方がいることと整合性がとれている。

単位：%

申請しない理由	グループ2（70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者）	グループ3（65歳以上 70 歳未満）※
徒歩や自転車で十分だから	31.4	55.0
自分で運転しているから	25.4	40.0
事業を知らなかったから	17.8	6.3
家族等の運転で移動できているから	16.9	22.5
バス路線が近くを通っていないから	16.1	8.8
本数が少なくバスは不便だから	13.6	21.3
手続が面倒だと思ったから	9.3	5.0
バス路線はあるが、バス停が遠いから	8.5	6.3
外出すること自体が体力的に大変だから	5.9	1.3
阪急グランドパスを利用しているから	5.1	3.8
障がい者の割引証を利用しているから	4.2	2.5
バスに乗って外出するのがしんどいから	4.2	6.3
施設に入所しているから	2.5	0
会社から通勤定期代をもらっているから	0.8	2.5

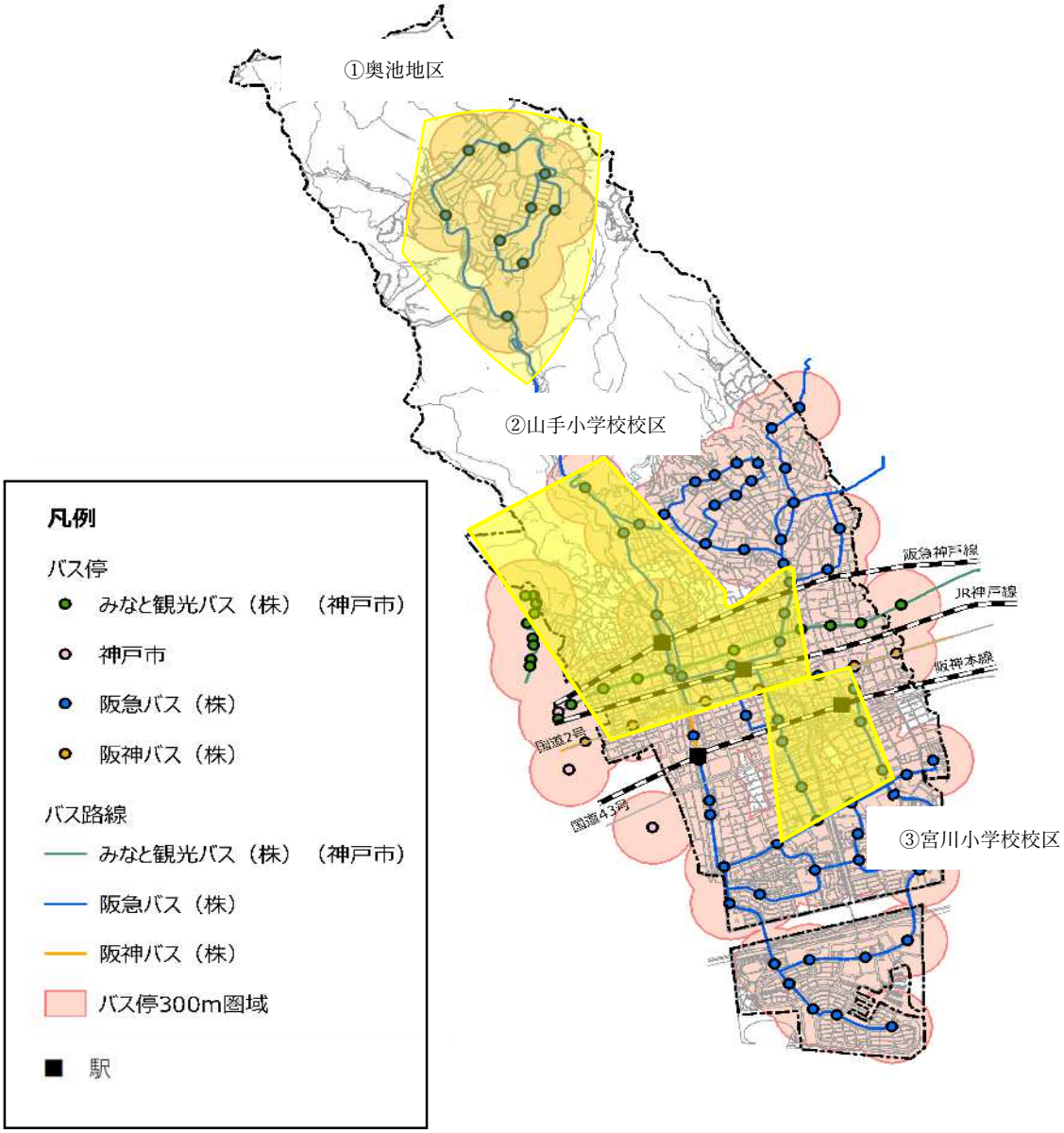
※問12 70歳になったらバス運賃助成事業の割引証を申請されるかという問で、どちらとも言えない、どちらかと言えば申請しない、申請しないを選ばれた 80 人を母数とした割合

なお、地域別の回答は、下記のとおりとなる。

問13(グループ2)×問3「お住まいの地区」とのクロス集計結果	1. 奥池地区	2. 山手小学校区(奥池地区除く)	3. 岩園小学校区	4. 朝日ケ丘小学校区	5. 精道小学校区	6. 宮川小学校区	7. 打出浜小学校区	8. 浜風小学校区	9. 潮見小学校区(南芦屋浜地区除く)	10. 南芦屋浜地区	合計
1. バス路線が近くを通っていないから	0	12	2	3	5	2	2	0	0	0	26
	(0.0%)	(22.2%)	(8.0%)	(18.8%)	(17.2%)	(6.7%)	(10.5%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(13.1%)
2. バス路線はあるが、バス停が遠いから	0	5	3	1	2	3	1	0	0	0	15
	(0.0%)	(9.3%)	(12.0%)	(6.3%)	(6.9%)	(10.0%)	(5.3%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(7.6%)
3. 本数が少なくバスは不便だから	1	6	7	2	2	7	6	2	0	0	33
	(33.3%)	(11.1%)	(28.0%)	(12.5%)	(6.9%)	(23.3%)	(31.6%)	(22.2%)	(0.0%)	(0.0%)	(16.7%)
4. 自分で運転しているから	1	20	11	3	8	7	6	1	4	1	62
	(33.3%)	(37.0%)	(44.0%)	(18.8%)	(27.6%)	(23.3%)	(31.6%)	(11.1%)	(50.0%)	(20.0%)	(31.3%)
5. 家族等の運転で移動できているから	0	8	7	5	5	7	3	1	1	1	38
	(0.0%)	(14.8%)	(28.0%)	(31.3%)	(17.2%)	(23.3%)	(15.8%)	(11.1%)	(12.5%)	(20.0%)	(19.2%)
6. 徒歩や自転車で十分だから	0	26	9	2	14	18	3	5	2	1	80
	(0.0%)	(48.1%)	(36.0%)	(12.5%)	(48.3%)	(60.0%)	(15.8%)	(55.6%)	(25.0%)	(20.0%)	(40.4%)
7. 阪急グランドパスを利用しているから	0	1	1	4	0	0	0	1	1	1	9
	(0.0%)	(1.9%)	(4.0%)	(25.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(11.1%)	(12.5%)	(20.0%)	(4.5%)
8. 障がい者の割引証を利用しているから	0	3	2	0	0	0	1	0	0	1	7
	(0.0%)	(5.6%)	(8.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(5.3%)	(0.0%)	(0.0%)	(20.0%)	(3.5%)
9. バスに乗って外出するのがしんどいから	0	5	0	1	2	0	1	0	0	1	10
	(0.0%)	(9.3%)	(0.0%)	(6.3%)	(6.9%)	(0.0%)	(5.3%)	(0.0%)	(0.0%)	(20.0%)	(5.1%)
10. 外出すること自体が体力的に大変だから	1	2	1	0	2	1	0	0	0	1	8
	(33.3%)	(3.7%)	(4.0%)	(0.0%)	(6.9%)	(3.3%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(20.0%)	(4.0%)
11. 施設に入所しているから	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	3
	(0.0%)	(1.9%)	(0.0%)	(6.3%)	(0.0%)	(3.3%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(1.5%)
12. 事業を知らなかったから	1	8	1	1	5	4	1	3	2	1	27
	(33.3%)	(14.8%)	(4.0%)	(6.3%)	(17.2%)	(13.3%)	(5.3%)	(33.3%)	(25.0%)	(20.0%)	(13.6%)
13. 手続が面倒だと思ったから	1	4	1	1	3	2	2	1	0	0	15
	(33.3%)	(7.4%)	(4.0%)	(6.3%)	(10.3%)	(6.7%)	(10.5%)	(11.1%)	(0.0%)	(0.0%)	(7.6%)
14. 会社から通勤定期代をもらっているから	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	3
	(0.0%)	(1.9%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(12.5%)	(20.0%)	(1.5%)
回答者数 計	3	54	25	16	29	30	19	9	8	5	198
標本誤差	±25.0	±7.5	±8.7	±9.4	±8.8	±10.4	±9.9	±9.1	±9.3	±14.1	±3.1

問10(P19)で割引証を所有していない人と回答した方が25%超える地区は、
①奥池地区　②山手小学校校区　③宮川小学校校区の3地区あるが、

奥池地区は、回答数が少なく標本誤差が大きいため理由の判断が難しいが、山手小学校区は阪急芦屋川駅、JR芦屋駅が校区内にあり、宮川小学校区は阪神打出駅があり、JR芦屋駅も近いため、徒歩や自転車で十分だからという回答と整合がとれており、割引証を所有していない理由は地域特性が影響している。



Ⅶ 分析の観点3 本事業を持続可能な事業とするには

POINT

■問14：全てのグループで、「助成額が減額等になっても本事業の継続を望む」が1番多い。地区別にみても全地区で同様となっている。乗車回数別にみても同様となっている。
■問15：乗車回数が多い方への助成に限定するのではなく、「1回でもバスに乗車している人への助成も望む」が多い。
■問16：高齢者の 6 割以上が阪急グランドパスを知らない。
■問17、18：阪急グランドパス購入代金への助成は、外出する回数の増加・維持につながる可能性があるが、助成を行う場合は、バスを1回でも乗車する方や、助成額について検討する必要がある。

■本事業を廃止すべきかどうか

問 14 バス運賃助成事業そのものについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

（資料集：P31～34）

①現行どおり継続 「他の施策を廃止してでも継続すべき」
②助成額を制限して継続 「継続は必要であるが、公平性の観点からも利用回数や助成額を設定すべき」、「継続は必要であるが、他の高齢者施策との兼ね合いで事業縮小すべき」、「継続するためであれば助成額の減額等もやむを得ない」の3回答
③本事業の廃止 「タクシー運賃の助成等、別の外出促進施策をすべき」、「現行の事業を廃止すべき」の2回答
に回答を分けた場合、各グループの回答は下記のとおりとなる。

単位：%

グループ	現行どおり継続	助成額を制限して継続	継続 計	本事業の廃止
グループ1（70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）	34.6	53.1	87.7	6.5
グループ2（70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者）	9.5	50.7	60.2	22.1
グループ3（65歳以上 70 歳未満）	14.7	62.8	77.5	20.1
無作為抽出者全体	24.3	55.6	79.9	13.3
参考：一般回答者（無作為抽出者以外）	33.5	56.0	89.5	8.7

お住まいの地区とのクロス集計では、全地区で「助成額を制限して継続」が1番多い。また、「本事業の廃止」が多いのは、精道小学校区、宮川小学校区である。

単位:%

小学校区	現行どおり継続	助成額を制限して継続	継続 計	本事業の廃止
奥池地区	40.0	46.7	86.7	0.0
山手小学校区	19.4	57.0	76.4	18.8
岩園小学校区	19.8	58.7	78.5	15.7
朝日ケ丘小学校区	30.1	57.2	87.3	5.9
精道小学校区	17.5	54.1	71.6	23.3
宮川小学校区	16.3	54.6	70.9	22.1
打出浜小学校区	19.1	54.2	73.3	12.8
浜風小学校区	32.4	55.8	88.2	3.6
潮見小学校区	39.3	51.4	90.7	4.7
南芦屋浜地区	23.4	59.5	82.9	10.6

バス利用回数とのクロス集計では、月21～25回(月11～12日程度利用)を除き、すべての回数別の利用者で「助成額を制限して継続」が１番多い。バスの利用回数が少ないほど、「本事業の廃止」が多くなるが、それ以上に「助成額を制限して継続」の回答が多い。

単位:%

乗車回数	現行どおり継続	助成額を制限して継続	継続 計	本事業の廃止
月 31 回以上	42.4	50.0	92.4	0.0
月26～30回	28.1	59.4	87.5	3.1
月21～25回	56.1	43.9	100.0	0.0
月15～20回	43.8	49.4	93.2	1.1
月10～14回	27.9	64.4	92.3	4.8
月5～9回	23.5	60.9	84.4	9.5
月 1～4回	27.2	57.8	85.0	9.4
年数回程度	12.2	60.3	72.5	23.2
バスに乗らない	7.1	51.6	58.7	34.8

■本事業の助成対象者を利用頻度に応じて限定すべきかどうか

問　15　外出促進による介護予防の観点から、助成する考え方にバス利用頻度を考慮すべきかについて、1つだけ選んで数字に〇をつけてください。

（資料集：P35～37）

グループ1及び一般回答者の約半数は、「現行額より少額になっても、1 回でも利用している方にも助成すべき」と考えており、バスの乗車回数が月10回未満と回答した方と同程度の割合である。

グループ2とグループ3の「現行より少額になっても、1 回でも利用している方にも助成すべき」はグループ1の約半数であり、バスを利用されないグループは、ある程度乗車している方に限定すべきという考えをもっている方が一定いる。

単位：%

グループ	ある程度乗車している方に限定して助成	現行より少額になっても 1 回でも利用している方にも助成
グループ1 （70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）	18.7	53.0
グループ2 （70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者）	24.4	25.0
グループ3 （65歳以上 70 歳未満）	32.8	30. 0
無作為抽出者全体	23.9	41. 2
参考：一般回答者 （無作為抽出者以外）	24.3	45.9

■阪急グランドパスへの助成を検討すべきかどうか

問 16 阪急グランドパスについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

（資料集：P38、39）

阪急グランドパスについては、どのグループも「知らない」が大半を占める。

一方、グループ2で「利用している」は7.1%であり、問8（P13）のバスの乗車回数の回答と合わせると、バスの乗車回数が多い人は本事業を利用せず、阪急グランドパスを利用していると推測できる。

阪急グランドパスとは

７０歳以上の方が使える定期券。（金額が異なる６５歳以上用も有り）。芦屋市内だけでなく、芦屋を通らない路線も利用できるうえ阪神バスも利用できます。

バスに乗られている回数によっては、現在の助成事業より本人負担及び芦屋市の補助額は減少します。

他の自治体では、阪急グランドパスの購入代金を助成しているところもあります。

参考 バスの乗車回数別、市民の方の自己負担額 １年定期代：53，600円（R6年12月1日現在）

１月あたりのバスの乗車回数	現行事業の場合の1年当たりの自己負担額	１月あたりのバスの乗車回数	現行事業の場合の1年当たりの自己負担額
60回（月30日）	86,400 円	25回（月12日）	36,000 円
50回（月25日）	72,000 円	20回（月10日）	28,800 円
40回（月20日）	57,600 円	15回（月 7日）	21,600 円
30回（月15日）	43,200 円	10回（月 5日）	14,400 円

例えば、定期代を 20,000 円助成するとすれば、市民の方は 33,600 円でグランドパスを購入できることになり、月24回（月 12日）以上乗られる方は、今より自己負担が減ることになります。

単位：%

グループ	利用している	知らない
グループ1（70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）	6.7	67.3
グループ2（70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者）	7.1	77.4
グループ3（65歳以上 70 歳未満）	5.1	78.8
無作為抽出者全体	6.3	72.5
参考：一般回答者（無作為抽出者以外）	9.4	62.8

問 17　阪急グランドパス購入代金の助成をした場合、今よりあなた自身が外出する回数が増加するかについて、1つだけ選んで数字に〇をつけてください。

（資料集：P40～43）

阪急グランドパスの購入代金を助成した場合、全グループで「今より外出回数が増加する」が10．2%～23．1%いるが、50%を超える方は「現行回数の維持」ができるか、もともとバスに乗車する回数が少ないので「影響はない」と考えられている。大幅とは言えなくても、助成することが外出する回数の増加・維持につながる可能性があると言える。

単位：%

グループ	増える どちらかと言えば増える	現行回数の維持 影響はない
グループ1 （70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）	12.2	53.0
グループ2 （70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者）	10.2	59.0
グループ3 （65歳以上 70 歳未満）	19.4	58.4
無作為抽出者全体	14.0	55.6
参考：一般回答者 （無作為抽出者以外）	23.1	48.3

問 18 阪急グランドパス購入代金の助成を施策として追加することについて、1つだけ選んで数字に〇をつけてください。

（資料集：P44～47）

グループ1は「購入代金助成の必要はない」が1番多い。本事業利用者のバス乗車回数がそれほど多くないことが影響していると思われる。

どのグループも「どちらとも言えない」が一定多いのは、問16（P28）にあるように、阪急グランドパスを知らない方が多いことが影響していると思われる。

どのグループも、「購入代金助成を優先」より「賛成であるが助成額は検討すべき」が、2～5倍程度となっている。また「1回の利用にも助成があれば賛成」が「購入代金助成を優先」より多いことも踏まえると、阪急グランドパス購入代金の助成を行う場合は、1回の利用に対する助成を残したうえで、助成額を検討する必要がある。

単位：%

グループ	購入代金助成を優先	1回の利用にも助成があれば賛成	賛成であるが助成額は検討すべき	どちらとも言えない	購入代金助成の必要はない	そもそも事業を廃止すべき
グループ1 （70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）	5.1	17.3	15.0	28.5	18.1	2.4
グループ2 （70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者）	3.6	13.1	20.8	29.2	10.1	8.9
グループ3 （65歳以上 70 歳未満）	10.6	15.4	28.7	24.6	10.2	5.1
無作為抽出者全体	6.5	16.0	20.1	27.5	14.3	4.3
参考：一般回答者 （無作為抽出者以外）	7.7	20.4	19.9	27.1	17.1	3.3

バス利用回数とのクロス集計では、「月 31 回以上バスに乗る」方でも「購入代金の助成を優先すべき」より「賛成であるが助成額は検討すべき」が多い。

「バスに乗らない」方も、「購入代金助成の必要はない」より「賛成であるが助成額は検討すべき」が多く、事業自体に理解を示してくださっていると推測できる。

「購入代金助成の必要はない」の割合が高いのは、乗車回数が月 21～30 回(月10～15日程度利用)の方であるが、助成される金額によっては、現行の助成方法より本人負担が少なくなる層であり、阪急グランドパスを知らない方が多いことが影響していると推測できる。

単位:%

グループ	購入代金助成を優先	1回の利用にも助成があれば賛成	賛成であるが助成額は検討すべき	どちらとも言えない	購入代金助成の必要はない	そもそも事業を廃止すべき
月 31 回以上	22.7	16.7	27.3	13.6	10.6	0.0
月26～30回	9.4	3.1	31.3	21.9	18.8	0.0
月21～25回	2.4	22.0	22.0	17.1	22.0	0.0
月15～20回	10.1	13.5	22.5	24.7	15.7	2.2
月10～14回	4.8	17.3	16.3	33.7	18.3	1.0
月5～9回	5.2	11.3	20.9	28.7	18.3	5.2
月 1～4回	7.8	25.0	16.1	25.0	12.8	2.8
年数回程度	3.7	15.2	20.7	31.1	13.4	4.3
バスに乗らない	1.9	11.0	21.9	32.9	11.6	13.5

Ⅷ　高齢者が充実させるべきと思う高齢者施策

POINT

■問19：全てのグループで、加齢に伴う高齢者特有の施策を望む回答が1番多い。

問 19　あなたが充実させるべきと思う高齢者施策について、当てはまる数字すべてに○をつけてください。

（資料集：P48～50）

グループ2、グループ3、無作為抽出者全体で 1 番求められているのは、「高齢者の見守り等安心に暮らせる対策」である。特にグループ3では、6割近くが求めている。他に要望が高いのが「認知症対策」「健康づくりに関する対策」「終活や身寄りのない高齢者に関する支援」「要介護度が高い方（バスに乗れない方）への移動支援」等、全体的に将来安心して暮らせる施策への回答が多い。

単位：%

選択肢	グループ1（70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）	グループ2（70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者）	グループ3（65歳以上 70 歳未満）	無作為抽出者全体	一般回答者（無作為抽出者以外）
認知症対策	47.0	42.3	53.9	48.3	51.0
健康づくりに関する対策	47.0	36.3	42.3	43.8	53.8
社会参加促進に関する対策	27.4	22.6	36.9	29.4	42.6
高齢者の見守り等安心に暮らせる対策	46.7	47.6	57.0	49.9	51.3
歩行具や車椅子の補助等歩行支援	26.8	29.2	33.4	29.2	26.5
要介護度が高い方（バスに乗れない方）への移動支援	32.7	31.0	37.9	34.0	35.6
おむつの補助等介護支援	19.5	23.8	29.7	23.3	20.2
高齢者のゴミ出し支援等生活支援	24.8	30.4	30.7	27.6	30.5
補聴器が必要な方への支援	24.8	21.4	22.9	23.6	24.8
スマートフォンの使い方教室等 IT に関する支援	23.6	16.7	18.4	20.8	20.6
終活や身寄りのない高齢者に関する支援	39.4	42.3	49.8	43.0	45.9
その他	4.9	8.3	3.4	5.1	5.4
標本誤差	±3.7		±5.6	±3.1	

単位:%

①無作為抽出者全体		②グループ１		③グループ２		④グループ３		⑤一般のみ	
高齢者の見守り等安心に暮らせる対策	49.9	認知症対策	47.0	高齢者の見守り等安心に暮らせる対策	47.6	高齢者の見守り等安心に暮らせる対策	57.0	健康づくりに関する対策	53.8
認知症対策	48.3	健康づくりに関する対策		認知症対策	42.3	認知症対策	53.9	高齢者の見守り等安心に暮らせる対策	51.3
健康づくりに関する対策	43.8	高齢者の見守り等安心に暮らせる対策	46.7	終活や身寄りのない高齢者に関する支援		終活や身寄りのない高齢者に関する支援	49.8	認知症対策	51.0
終活や身寄りのない高齢者に関する支援	43.0	終活や身寄りのない高齢者に関する支援	39.4	健康づくりに関する対策	36.3	健康づくりに関する対策	42.3	終活や身寄りのない高齢者に関する支援	45.9
要介護度が高い方(バスに乗れない方)への移動支援	34.0	要介護度が高い方(バスに乗れない方)への移動支援	32.7	要介護度が高い方(バスに乗れない方)への移動支援	31.0	要介護度が高い方(バスに乗れない方)への移動支援	37.9	社会参加促進に関する対策	42.6
標本誤差:±3.1		標本誤差:±3.7				標本誤差:±5.6			

Ⅸ まとめ

1 アンケートの妥当性

本アンケートは、自治会等の協力もあり、多くの回答（回答率64．6%）を得ることができた。また、無作為抽出者以外の回答数も573件と多く、高齢者にとって関心のある事業ということが言える。

標本誤差は、65歳以上70歳未満の回答が±2.4%～±5.6%、70歳以上の回答が±1.6%～± 3.7%、全体が±1.3%～±3.1%内に収まっている。

2 本事業は必要な事業なのか

約 9 割の高齢者が、外出は介護予防につながると認識しており、実際に本事業利用者の 9 割以上が「介護度：認定なし」と回答している。

外出頻度と割引証の関係では、割引証を所有することで外出が「増えた」「どちらかと言えば増えた」「維持できている」が合わせて 68.4%おられ、割引証所有の有無で外出頻度にも差がある。

外出の目的でみると、外出すること自体が日常的な生活の堅持、生きがい活動にもつながっている。

移動手段をみると、70歳を超えると阪急バスを利用する方の割合が高く、自分で運転することを移動手段としている方の割合が低いことも踏まえると、加齢に伴う公共交通機関への移動手段の転換が見られる。

それらの状況を踏まえると、本事業は介護予防に役立つ必要な事業と言える。

また、今後利用が予定される65歳～69歳の方の 68.9%が、本事業の利用を「申請する」「どちらかと言えば申請する」と回答しており本事業への期待も高い。

3 本事業における市民の割引証所有に対する意識

割引証を申請しない理由は、「バス路線が近くに通っていない」よりも、「徒歩や自転車で十分だから」等、 バスを利用しなくても移動できることの方が高い割合となっている。

割引証の所有率は地域差があるものの、地域によるバス路線の有無ではなく、地域内に駅や商業圏があるといった地域特性が大きい。

バス運賃の助成を受けている市民の 53.7%が、月の乗車回数が10回未満であることも踏まえると、移動の基本は徒歩や自転車であるが、週に1回程度バスに乗るために本事業を利用している方が多い。

4 本事業を持続可能な事業とするにはどうすればよいか

事業自体は必要であるが、本事業に対する支出という観点でとらえると、

①今後、高齢者が増加する

②バス運賃の値上げがあると支出額が増加する

といった状況を踏まえると、支出額は増加する一方であると予測される。令和7年度予算では、1億円を超える予算額となっており、支出額の抑制が課題となっている。

事業自体の必要性はP34に記載したとおりであるが、事業の存続に関する問いでは、全てのグループで、「助成額が減額等になっても本事業の継続を望む」が1番多い。地区別に見ても全地区で同様の回答となっており、バスに乗らない方も含めて乗車回数別に見ても同様である。

助成対象者を、乗車回数が多い方に限定するかについては、「助成額が減額等になっても、1回でもバスを利用している方へも助成を継続する」が多い。

そのため、事業は廃止せず、対象者を限定しない上で、事業費減額の方法について検討する必要がある。

助成額を減少した場合は、バスの乗車回数が多い市民ほど影響が大きい。駅から遠く、バスの利用が生活に必要な地域もあるため、阪急グランドパスの助成は有効な選択肢の一つと言える。ただし、乗車回数が少ない方への助成が継続できることが前提であるため、事業を存続させる上では、1回当たりの助成額及び阪急グランドパスへの助成額を十分に検討するとともに、阪急グランドパスの認知度が低いため、市民への周知が必要と考えられる。

なお、アンケートの結果から、阪神バスの利用者が市民の10%程度いること、現在、本事業による助成を受けずに阪急グランドパスの利用者がいることが分かる。

また、阪急グランドパスへの助成が外出促進になると考えている市民が一定いることを踏まえると、阪急グランドパス購入代金への助成が、さらなる高齢者の外出促進の向上につながる可能性がある。

5　今回のアンケート結果から見る市民の意識

今回のアンケート結果から、利用者が本事業を必要としているだけでなく、本事業の利用者以外の方も、本事業を必要と考えていることが見てとれる。また、乗車回数が多い方も「助成額が減額等になっても本事業の継続を望む」が 1 番多く、回数が少ない方への助成も併せて希望されている。これらの結果から、回答いただいた方々が、自分の立場以外の方のことも考慮して、高齢者施策として本事業を必要と考えられていると推測できる。

今後必要とされる施策については、加齢に伴う高齢者特有の施策が多く、特に65歳以上70歳未満の方でその傾向が高い。そのことは将来に対する不安の表れとも推測でき、介護予防として本事業を継続するための見直しを進めながら、バスに乗ることが難しくなる場合も視野に入れた施策を検討していく必要がある。

高齢者バス運賃助成事業に係るアンケート（報告書）

令和７年８月
発　　行　　芦屋市
〒659-8501　芦屋市精道町７番６号
TEL ： 0797-38-2044　　FAX ： 0797-38-2160
E-MAIL ： koureikaigo@city.ashiya.lg.jp
助言・協力　　流通科学大学　経済学部　地域まちづくりコース　三谷　哲雄　教授
編　　集　　芦屋市こども福祉部福祉室高齢介護課

資料 02_高齢者バス運賃助成事業に係るアンケート

（資料集）

令和７年８月

芦屋市こども福祉部福祉室高齢介護課

目次

アンケートの実施について.....1

アンケート結果の回答集計と分析観点 2

アンケートの回答者について

問 1 あなたの年齢（令和6年12月1日現在）は、以下のうちどれにあてはまりますか。1つだけ選んで数字に○をつけてください。（本アンケートは65歳以上の方を対象としています。65歳未満の方はお答えいただけません。ご了承ください） 6

問 2 あなたの性別は、以下のうちどれにあてはまりますか。1つだけ選んで数字に○をつけてください。.....8

問 3 あなたは、現在どちらにお住まいですか。校区番号1～10から1つだけ選んで数字に○をつけてください。.....10

問 4 あなたの介護度について、1つだけ選んで数字に○をつけてください。.....12

問 5 外出することが介護予防につながると思いますか？1つだけ選んで数字に○をつけてください。.....14

問 6 あなたが普段移動される際に利用される移動手段について、当てはまる数字すべてに○をつけてください。.....16

問 7 あなたの普段の外出頻度について、1つだけ選んで数字に○をつけてください。.....18

問 8 あなたのバス利用回数について、1つだけ選んで数字に○をつけてください。.....20

問 9 あなたがバスを利用して向かう外出先について、当てはまる数字すべてに○をつけてください。.....22

問 10 バス運賃助成事業の割引証の所有について、1つだけ選んで数字に○をつけてください。.....24

問 11 ア 割引証を所有することでの外出機会が増えたかについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。.....26

問 11 イ 助成事業があることが免許の返納につながっているか、1つだけ選んで数字に○をつけてください。 27

問 12 70歳になったらバス運賃助成事業の割引証を申請されるかについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。 28

問 13 あなたが割引証を申請しない理由について、当てはまる数字すべてに○をつけてください。 29

問 14 バス運賃助成事業そのものについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。 31

問 15 外出促進による介護予防の観点から、助成する考え方にバス利用頻度を考慮すべきかについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。 35

問 16 阪急グランドパスについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。 38

問 17 阪急グランドパス購入代金の助成をした場合、今よりあなた自身が外出する回数が増加するかについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。 40

問 18 阪急グランドパス購入代金の助成を施策として追加することについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。 44

問 19 あなたが充実させるべきと思う高齢者施策について、当てはまる数字すべてに○をつけてください。 48

アンケートの実施について

1 目的

高齢者施策、特に介護予防の観点から本助成事業が芦屋市民の皆さまにとって効果的な施策か、より高齢者の社会参加の機会を促進するためにはどうすれば良いかという視点をもって、利用実態等を把握するため。

2 実施方法

（1） 対象者

令和6年12月1日現在で65歳以上の者

（2） 無作為抽出者

令和6年11月1日現在住基登録者のうち、令和6年12月1日時点で65歳以上の者から1，500人を無作為で抽出しアンケートを実施。

その際、抽出者に偏りが出ないよう、下記の500名×3分類で対象者を分けて抽出を実施（市で把握できている「阪急バス利用実績データ」より判断）。

分類	対象	抽出者数
分類1	70歳以上の者のうち バス運賃助成事業の割引証利用者	500名
分類2	70歳以上の者のうち バス運賃助成事業の割引証未利用者	500名
分類3	65歳以上70歳未満の者	500名

（3） その他

より多くの声を聞くために、65歳以上の市民の方は全員回答できるように、市内5カ所の高齢者生活支援センター等に用紙を準備するほかに、インターネットでも回答できるようにし、広報、市内掲示板等で周知を図る。

3 実施期間

令和6年12月2日（月）～令和7年1月10日（金）

アンケート結果の回答集計と分析観点

1 回答率

対象	抽出数	回答数	回答率
無作為抽出者回答	1,500	969	64.6%

一般回答 573件

2 アンケートの回答集計

（1） 分析手法

アンケートの回答にあたっては、下記の表の3グループごとの集計、無作為抽出者全体の集計、一般回答の集計の計5集計を利用するが、設問により要介護度、居住地域、バス乗車回数等も加味して分析を行う。

なお、分析におけるグループ 1～3においては設問の回答に基づき行う。

グループ名	対象	当該グループと判断したアンケートの回答項目	回答者数
グループ1 （70 歳以上・バス運賃助成利用者）	70歳以上の高齢者バス運賃助成制度利用者	設問1で2～8かつ 設問8で1～8かつ 設問10で1～3 と回答した者	508名
グループ2 （70 歳以上・バス運賃助成未利用者）	70歳以上の高齢者バス運賃助成制度未利用者	設問1で2～8と回答した中でグループ1に該当しない者	168名
グループ3 （65 歳以上 70 歳未満）	65歳以上70歳未満の者	設問1で1と回答した者	293名

※回答者の意思、認識に基づいた設問ごとの回答を根拠に分類しているため「阪急バス利用実績データ」を基にした無作為抽出時の人数と一部差が生じている。

例:高齢者バス運賃助成事業の割引証が IC カードを利用する方式であるため、他の IC カードの所有や阪急グランドパス等をもって割引証を所有していると回答されている可能性がある。

本アンケートは本事業を利用しバスに乗車されている実態をもとに分析するため、70歳以上で、割引証を所有していると認識されている方で、バスに乗車されている方をグループ1とする。

設問1で2～8･･･年齢が 70 歳以上と回答

設問8で1～8･･･バスを 1 年間に 1 度でも乗車していると回答

設問10で1～3･･･阪急バスもしくは、みなと観光バスの割引証を所有していると回答

3 回答の標本誤差について

（1） 標本誤差とは

標本誤差は、全数調査ではなく標本調査を行うことで生じてしまう標本統計量の誤差のことである。標本調査での信頼水準（※）は、一般的に 95%が用いられている。この場合、標本誤差は次の式で計算できる。

今回調査の標本誤差については（2）の表の通りである。例えば65歳以上 70 歳未満（293人）が回答している設問について、ある選択肢に回答した比率が 50%であった場合、回答比率の誤差範囲は±5.6%（45.4%～55.6%）の間にあることが推測できる。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P \times (1-P)}{n}}$$

N：母集団数（令和 6 年 9 月末時点の 18 歳以上の男女 80,542 人）
n：標本数
P：測定値（回答の比率）

（※）信頼水準：母数が標本統計量を中心とした誤差の範囲内に含まれる確率

（2） 年齢別標本誤差

回答が少ない 90 歳以上において標本誤差は大きくなるが、本制度の対象である65歳以上70歳未満、70 歳以上と分けてみた場合は、標本誤差は最大でも 5.6%である。

年齢	母数（N）	回答数（n）	5%または95%	10%または90%	20%または80%	30%または70%	40%または60%	50%または50%
65~69	5,702	293	±2.4%	±3.3%	±4.5%	±5.1%	±5.5%	±5.6%
70~74	5,998	215	±2.9%	±3.9%	±5.3%	±6.0%	±6.4%	±6.6%
75~79	6,543	248	±2.7%	±3.7%	±4.9%	±5.6%	±6.0%	±6.1%
80~84	4,928	122	±3.8%	±5.3%	±7.0%	±8.0%	±8.6%	±8.8%
85~89	3,224	66	±5.2%	±7.2%	±9.6%	±10.9%	±11.7%	±11.9%
90~94	1,710	19	±9.7%	±13.4%	±17.9%	±20.5%	±21.9%	±22.4%
95~99	530	3	±24.6%	±33.9%	±45.2%	±51.8%	±55.3%	±56.5%
100~	96	3	±24.4%	±33.6%	±44.8%	±51.3%	±54.9%	±56.0%
65歳以上70歳未満	5,702	293	±2.4%	±3.3%	±4.5%	±5.1%	±5.5%	±5.6%
70歳以上	23,029	676	±1.6%	±2.2%	±3.0%	±3.4%	±3.6%	±3.7%
全体	28,731	969	±1.3%	±1.9%	±2.5%	±2.8%	±3.0%	±3.1%

（2） 地区別標本誤差

回答数の少ない奥池地区において、標本誤差が大きくなっている。南芦屋浜地区も他の地区より少し高いが、他の地域は概ね同じぐらいの標本誤差となっている。

年齢	母数（N）	回答数（n）	5%または95%	10%または90%	20%または80%	30%または70%	40%または60%	50%または50%
1.奥池地区	537	15	±10.9%	±15.0%	±20.0%	±22.9%	±24.5%	±25.0%
2.山手小学校区（奥池地区除く）	5,524	166	±3.3%	±4.5%	±6.0%	±6.9%	±7.3%	±7.5%
3.岩園小学校区	3,794	124	±3.8%	±5.2%	±6.9%	±7.9%	±8.5%	±8.7%
4.朝日ケ丘小学校区	2,820	104	±4.1%	±5.7%	±7.5%	±8.6%	±9.2%	±9.4%
5.精道小学校区	3,663	120	±3.8%	±5.3%	±7.0%	±8.1%	±8.6%	±8.8%
6.宮川小学校区	2,976	86	±4.5%	±6.2%	±8.3%	±9.5%	±10.2%	±10.4%
7.打出浜小学校区	2,780	94	±4.3%	±6.0%	±7.9%	±9.1%	±9.7%	±9.9%
8.浜風小学校区	2,582	111	±4.0%	±5.5%	±7.3%	±8.3%	±8.9%	±9.1%
9.潮見小学校区（南芦屋浜地区除く）	2,272	107	±4.0%	±5.6%	±7.4%	±8.5%	±9.1%	±9.3%
10.南芦屋浜地区	1,783	47	±6.1%	±8.5%	±11.3%	±12.9%	±13.8%	±14.1%
11.合計	28,731	974	±1.3%	±1.9%	±2.5%	±2.8%	±3.0%	±3.1%

4 分析観点

アンケートの分析においては、下記3つの視点から行う

①本制度は必要な事業なのか

②本制度における市民の割引証所有に対する意識

③本制度を持続可能な制度とするにはどうすればよいか

5 分析における留意事項

年齢別で回答者が決まっている質問に、非該当の方が回答されている場合等は、その設問の回答のみ、無効回答として取り扱う。

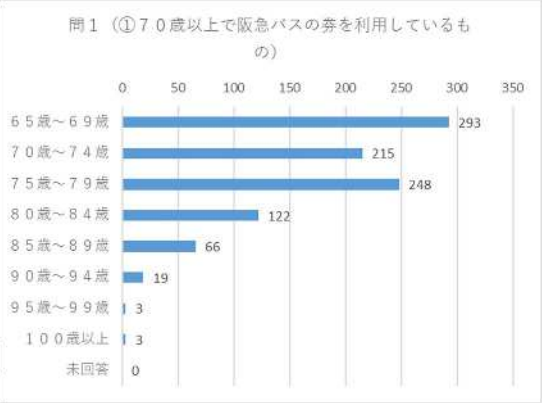
アンケートの回答者について

問　1　あなたの年齢(令和6年12月1日現在)は、以下のうちどれにあてはまりますか。1つだけ選んで数字に〇をつけてください。(本アンケートは65歳以上の方を対象としています。65歳未満の方はお答えいただけません。ご了承ください)

【回答対象：全体】

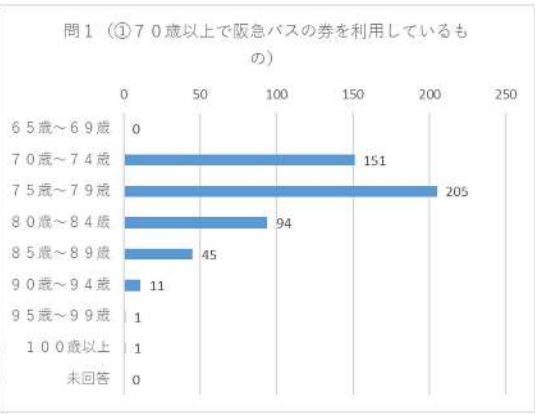
①無作為抽出者全体

選択肢	件数	割合
６５歳～６９歳	293	30.2%
７０歳～７４歳	215	22.2%
７５歳～７９歳	248	25.6%
８０歳～８４歳	122	12.6%
８５歳～８９歳	66	6.8%
９０歳～９４歳	19	2.0%
９５歳～９９歳	3	0.3%
１００歳以上	3	0.3%
未回答	0	0.0%
計	969	100.0%
有効回答率		100.0%



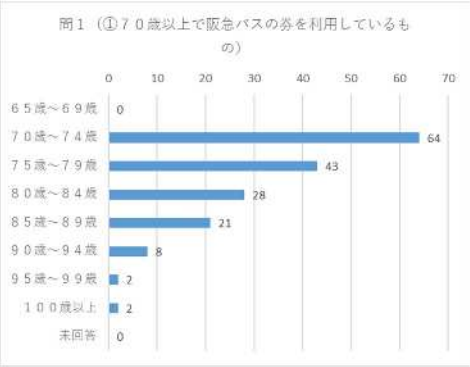
②グループ１（70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）

選択肢	件数	割合
６５歳～６９歳	0	0.0%
７０歳～７４歳	151	29.7%
７５歳～７９歳	205	40.4%
８０歳～８４歳	94	18.5%
８５歳～８９歳	45	8.9%
９０歳～９４歳	11	2.2%
９５歳～９９歳	1	0.2%
１００歳以上	1	0.2%
未回答	0	0.0%
計	508	100.0%
有効回答率		100.0%



③グループ２（70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者）

選択肢	件数	割合
６５歳～６９歳	0	0.0%
７０歳～７４歳	64	38.1%
７５歳～７９歳	43	25.6%
８０歳～８４歳	28	16.7%
８５歳～８９歳	21	12.5%
９０歳～９４歳	8	4.8%
９５歳～９９歳	2	1.2%
１００歳以上	2	1.2%
未回答	0	0.0%
計	168	100.0%
有効回答率		100.0%

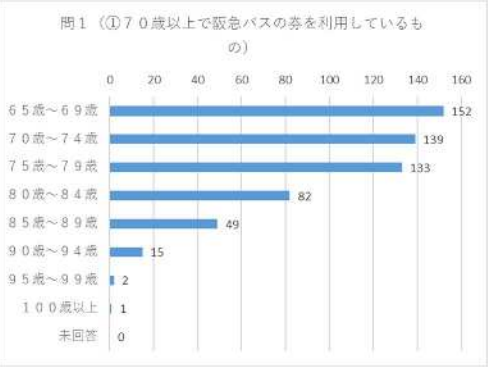


④グループ３（65 歳以上 70 歳未満）

選択肢	件数	割合
６５歳～６９歳	293	100.0%
７０歳～７４歳	0	0.0%
７５歳～７９歳	0	0.0%
８０歳～８４歳	0	0.0%
８５歳～８９歳	0	0.0%
９０歳～９４歳	0	0.0%
９５歳～９９歳	0	0.0%
１００歳以上	0	0.0%
未回答	0	0.0%
計	293	100.0%
有効回答率		100.0%

⑤参考：一般回答者（無作為抽出者以外）

選択肢	件数	割合
６５歳～６９歳	152	26.5%
７０歳～７４歳	139	24.3%
７５歳～７９歳	133	23.2%
８０歳～８４歳	82	14.3%
８５歳～８９歳	49	8.6%
９０歳～９４歳	15	2.6%
９５歳～９９歳	2	0.3%
１００歳以上	1	0.2%
未回答	0	0.0%
計	573	100.0%
有効回答率		100.0%

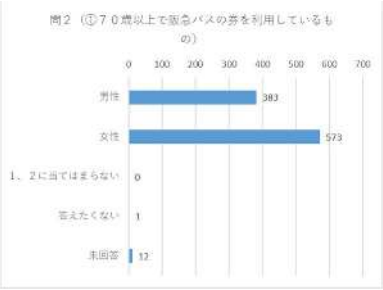


問　2　あなたの性別は、以下のうちどれにあてはまりますか。1つだけ選んで数字に○をつけてください。

【回答対象：全体】

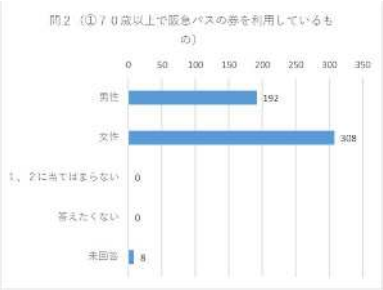
①無作為抽出者全体

選択肢	件数	割合
男性	383	39.5%
女性	573	59.1%
1、2に当てはまらない	0	0.0%
答えたくない	1	0.1%
未回答	12	1.2%
計	969	100.0%
有効回答率		98.8%



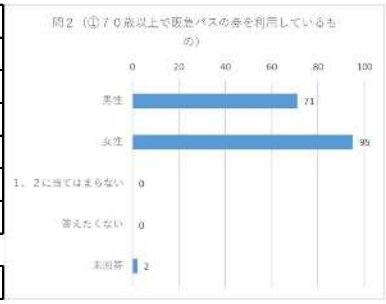
②グループ１（70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）

選択肢	件数	割合
男性	192	37.8%
女性	308	60.6%
1、2に当てはまらない	0	0.0%
答えたくない	0	0.0%
未回答	8	1.6%
計	508	100.0%
有効回答率		98.4%



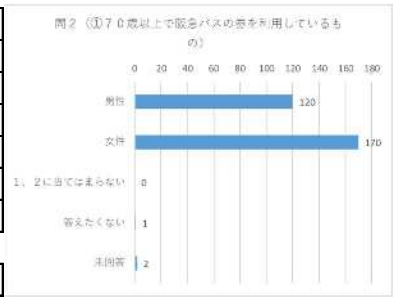
③グループ２（70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者）

選択肢	件数	割合
男性	71	42.3%
女性	95	56.5%
１、２に当てはまらない	0	0.0%
答えたくない	0	0.0%
未回答	2	1.2%
計	168	100.0%
有効回答率		98.8%



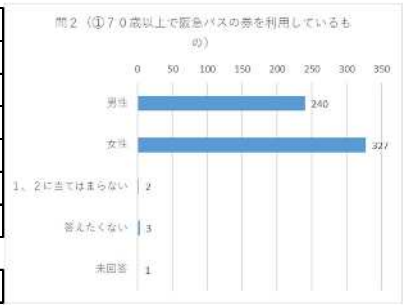
④グループ３（65 歳以上 70 歳未満）

選択肢	件数	割合
男性	120	41.0%
女性	170	58.0%
１、２に当てはまらない	0	0.0%
答えたくない	1	0.3%
未回答	2	0.7%
計	293	100.0%
有効回答率		99.3%



⑤参考：一般回答者（無作為抽出者以外）

選択肢	件数	割合
男性	240	41.9%
女性	327	57.1%
１、２に当てはまらない	2	0.3%
答えたくない	3	0.5%
未回答	1	0.2%
計	573	100.0%
有効回答率		99.8%



問 3　あなたは、現在どちらにお住まいですか。校区番号1～10から1つだけ選んで数字に○をつけてください。

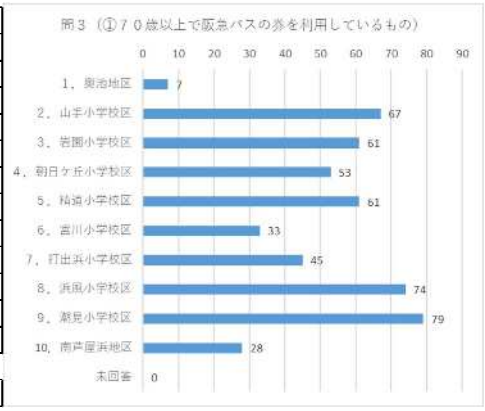
【回答対象：全体】

①無作為抽出者全体

選択肢	件数	割合
1．奥池地区	15	1.5%
2．山手小学校区	165	17.0%
3．岩園小学校区	121	12.5%
4．朝日ケ丘小学校区	103	10.6%
5．精道小学校区	120	12.4%
6．宮川小学校区	86	8.9%
7．打出浜小学校区	94	9.7%
8．浜風小学校区	111	11.5%
9．潮見小学校区	107	11.0%
10．南芦屋浜地区	47	4.9%
未回答	0	0.0%
計	969	100.0%
有効回答率		100.0%

②グループ１（70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）

選択肢	件数	割合
1．奥池地区	7	1.4%
2．山手小学校区	67	13.2%
3．岩園小学校区	61	12.0%
4．朝日ケ丘小学校区	53	10.4%
5．精道小学校区	61	12.0%
6．宮川小学校区	33	6.5%
7．打出浜小学校区	45	8.9%
8．浜風小学校区	74	14.6%
9．潮見小学校区	79	15.6%
10．南芦屋浜地区	28	5.5%
未回答	0	0.0%
計	508	100.0%
有効回答率		100.0%



③グループ２（70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者）

選択肢	件数	割合
1．奥池地区	4	2.4%
2．山手小学校区	40	23.8%
3．岩園小学校区	23	13.7%
4．朝日ケ丘小学校区	16	9.5%
5．精道小学校区	19	11.3%
6．宮川小学校区	21	12.5%
7．打出浜小学校区	20	11.9%
8．浜風小学校区	10	6.0%
9．潮見小学校区	9	5.4%
10．南芦屋浜地区	6	3.6%
未回答	0	0.0%
計	168	100.0%
有効回答率		100.0%

④グループ３（65 歳以上 70 歳未満）

選択肢	件数	割合
1．奥池地区	4	1.4%
2．山手小学校区	58	19.8%
3．岩園小学校区	37	12.6%
4．朝日ケ丘小学校区	34	11.6%
5．精道小学校区	40	13.7%
6．宮川小学校区	32	10.9%
7．打出浜小学校区	29	9.9%
8．浜風小学校区	27	9.2%
9．潮見小学校区	19	6.5%
10．南芦屋浜地区	13	4.4%
未回答	0	0.0%
計	293	100.0%
有効回答率		100.0%

⑤参考：一般回答者（無作為抽出者以外）

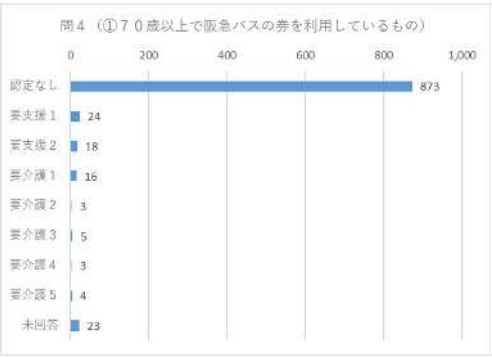
選択肢	件数	割合
1．奥池地区	31	5.4%
2．山手小学校区	64	11.2%
3．岩園小学校区	60	10.5%
4．朝日ケ丘小学校区	84	14.7%
5．精道小学校区	114	19.9%
6．宮川小学校区	69	12.0%
7．打出浜小学校区	24	4.2%
8．浜風小学校区	63	11.0%
9．潮見小学校区	37	6.5%
10．南芦屋浜地区	27	4.7%
未回答	0	0.0%
計	573	100.0%
有効回答率		100.0%

問 4 あなたの介護度について、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

【回答対象：全体】

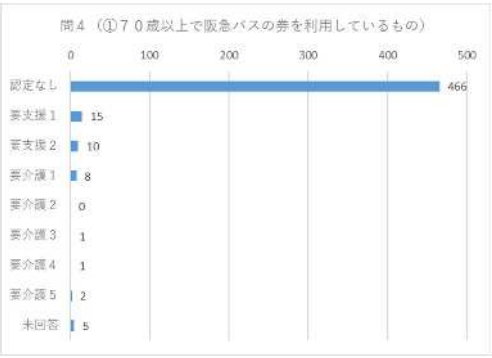
①無作為抽出者全体

選択肢	件数	割合
認定なし	873	90.1%
要支援１	24	2.5%
要支援２	18	1.9%
要介護１	16	1.7%
要介護２	3	0.3%
要介護３	5	0.5%
要介護４	3	0.3%
要介護５	4	0.4%
未回答	23	2.4%
計	969	100.0%
有効回答率		97.6%



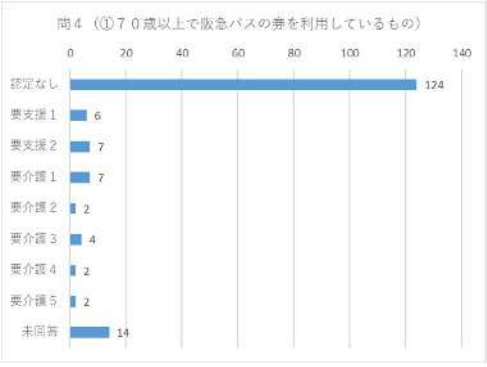
②グループ１（70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）

選択肢	件数	割合
認定なし	466	91.7%
要支援１	15	3.0%
要支援２	10	2.0%
要介護１	8	1.6%
要介護２	0	0.0%
要介護３	1	0.2%
要介護４	1	0.2%
要介護５	2	0.4%
未回答	5	1.0%
計	508	100.0%
有効回答率		99.0%



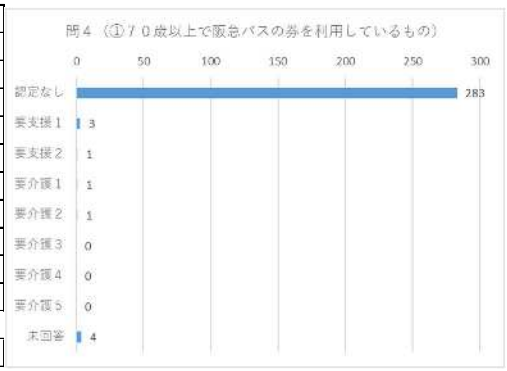
③グループ２（70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者）

選択肢	件数	割合
認定なし	124	73.8%
要支援１	6	3.6%
要支援２	7	4.2%
要介護１	7	4.2%
要介護２	2	1.2%
要介護３	4	2.4%
要介護４	2	1.2%
要介護５	2	1.2%
未回答	14	8.3%
計	168	100.0%
有効回答率		91.7%



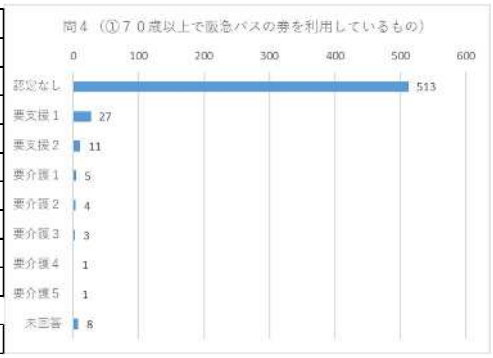
④グループ３（65 歳以上 70 歳未満）

選択肢	件数	割合
認定なし	283	96.6%
要支援１	3	1.0%
要支援２	1	0.3%
要介護１	1	0.3%
要介護２	1	0.3%
要介護３	0	0.0%
要介護４	0	0.0%
要介護５	0	0.0%
未回答	4	1.4%
計	293	100.0%
有効回答率		98.6%



⑤参考：一般回答者（無作為抽出者以外）

認定なし	513	89.5%
要支援１	27	4.7%
要支援２	11	1.9%
要介護１	5	0.9%
要介護２	4	0.7%
要介護３	3	0.5%
要介護４	1	0.2%
要介護５	1	0.2%
未回答	8	1.4%
計	573	100.0%
有効回答率		98.6%

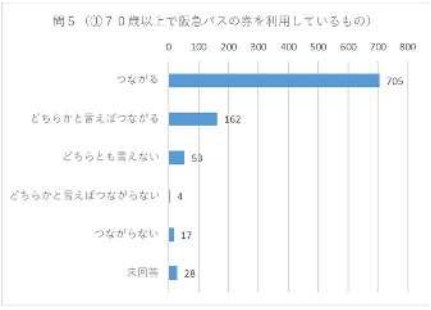


問　5　外出することが介護予防につながると思いますか？1つだけ選んで数字に○をつけてください。

【回答対象：全体】

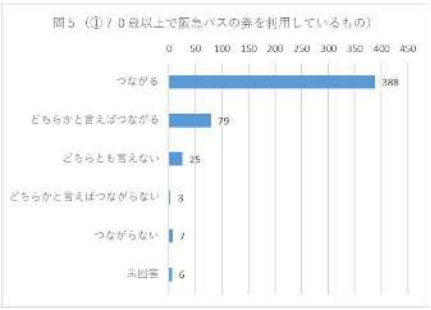
①無作為抽出者全体

選択肢	件数	割合
つながる	705	72.8%
どちらかと言えばつながる	162	16.7%
どちらとも言えない	53	5.5%
どちらかと言えばつながらない	4	0.4%
つながらない	17	1.8%
未回答	28	2.9%
計	969	100.0%
有効回答率		97.1%



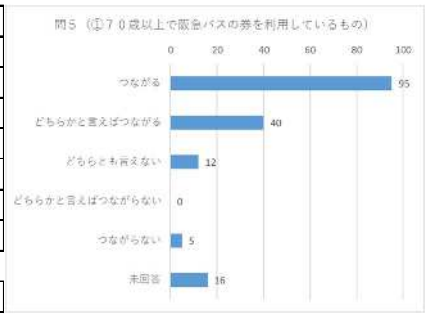
②グループ１（70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）

選択肢	件数	割合
つながる	388	76.4%
どちらかと言えばつながる	79	15.6%
どちらとも言えない	25	4.9%
どちらかと言えばつながらない	3	0.6%
つながらない	7	1.4%
未回答	6	1.2%
計	508	100.0%
有効回答率		98.8%



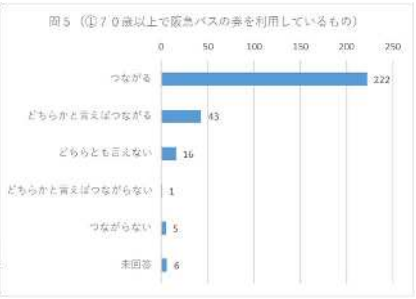
③グループ２（70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者）

選択肢	件数	割合
つながる	95	56.5%
どちらかと言えばつながる	40	23.8%
どちらとも言えない	12	7.1%
どちらかと言えばつながらない	0	0.0%
つながらない	5	3.0%
未回答	16	9.5%
計	168	100.0%
有効回答率		90.5%



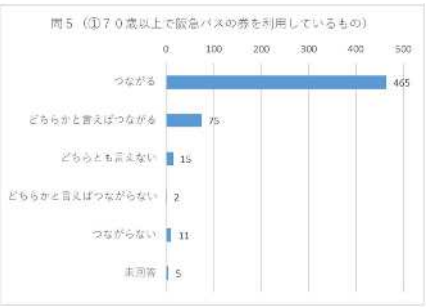
④グループ３（65 歳以上 70 歳未満）

選択肢	件数	割合
つながる	222	75.8%
どちらかと言えばつながる	43	14.7%
どちらとも言えない	16	5.5%
どちらかと言えばつながらない	1	0.3%
つながらない	5	1.7%
未回答	6	2.0%
計	293	100.0%
有効回答率		98.0%



⑤参考：一般回答者（無作為抽出者以外）

選択肢	件数	割合
つながる	465	81.2%
どちらかと言えばつながる	75	13.1%
どちらとも言えない	15	2.6%
どちらかと言えばつながらない	2	0.3%
つながらない	11	1.9%
未回答	5	0.9%
計	573	100.0%
有効回答率		99.1%



問 6　あなたが普段移動される際に利用される移動手段について、当てはまる数字すべてに○をつけてください。

【回答対象：全体】（複数回答可）

①無作為抽出者全体

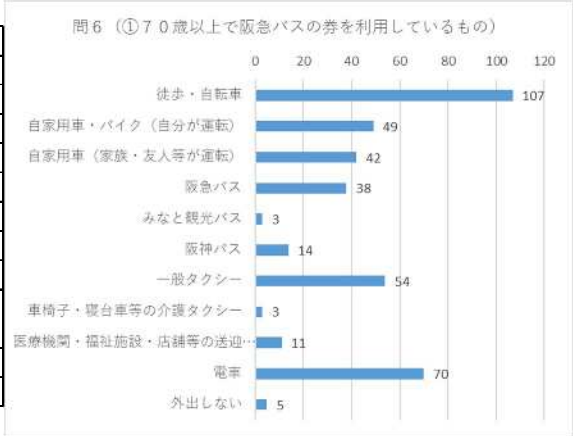
選択肢	件数	割合
徒歩・自転車	738	76.2%
自家用車・バイク（自分が運転）	300	31.0%
自家用車（家族・友人等が運転）	233	24.0%
阪急バス	604	62.3%
みなと観光バス	59	6.1%
阪神バス	104	10.7%
一般タクシー	333	34.4%
車椅子・寝台車等の介護タクシー	4	0.4%
医療機関・福祉施設・店舗等の送迎サービス	55	5.7%
電車	657	67.8%
外出しない	6	0.6%
回答者数	969	

②グループ１（70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）

選択肢	件数	割合
徒歩・自転車	394	77.6%
自家用車・バイク（自分が運転）	124	24.4%
自家用車（家族・友人等が運転）	109	21.5%
阪急バス	423	83.3%
みなと観光バス	35	6.9%
阪神バス	58	11.4%
一般タクシー	193	38.0%
車椅子・寝台車等の介護タクシー	0	0.0%
医療機関・福祉施設・店舗等の送迎サービス	36	7.1%
電車	374	73.6%
外出しない	1	0.2%
回答者数	508	

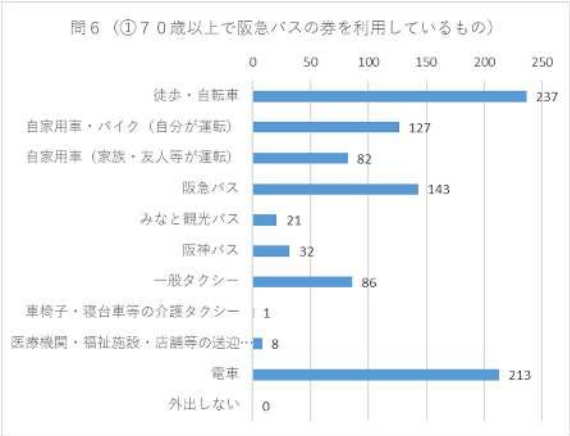
③グループ２（70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者）

選択肢	件数	割合
徒歩・自転車	107	63.7%
自家用車・バイク（自分が運転）	49	29.2%
自家用車（家族・友人等が運転）	42	25.0%
阪急バス	38	22.6%
みなと観光バス	3	1.8%
阪神バス	14	8.3%
一般タクシー	54	32.1%
車椅子・寝台車等の介護タクシー	3	1.8%
医療機関・福祉施設・店舗等の送迎サービス	11	6.5%
電車	70	41.7%
外出しない	5	3.0%
回答者数	168	



④グループ３（65 歳以上 70 歳未満）

選択肢	件数	割合
徒歩・自転車	237	80.9%
自家用車・バイク（自分が運転）	127	43.3%
自家用車（家族・友人等が運転）	82	28.0%
阪急バス	143	48.8%
みなと観光バス	21	7.2%
阪神バス	32	10.9%
一般タクシー	86	29.4%
車椅子・寝台車等の介護タクシー	1	0.3%
医療機関・福祉施設・店舗等の送迎サービス	8	2.7%
電車	213	72.7%
外出しない	0	0.0%
回答者数	293	



⑤参考：一般回答者（無作為抽出者以外）

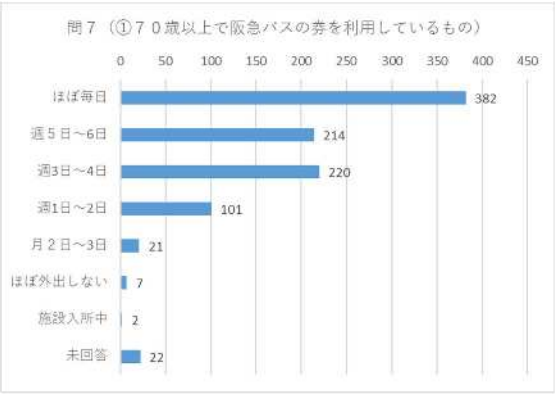
選択肢	件数	割合
徒歩・自転車	448	78.2%
自家用車・バイク（自分が運転）	204	35.6%
自家用車（家族・友人等が運転）	119	20.8%
阪急バス	419	73.1%
みなと観光バス	47	8.2%
阪神バス	73	12.7%
一般タクシー	178	31.1%
車椅子・寝台車等の介護タクシー	3	0.5%
医療機関・福祉施設・店舗等の送迎サービス	33	5.8%
電車	388	67.7%
外出しない	1	0.2%
回答者数	573	

問　7　あなたの普段の外出頻度について、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

【回答対象：全体】

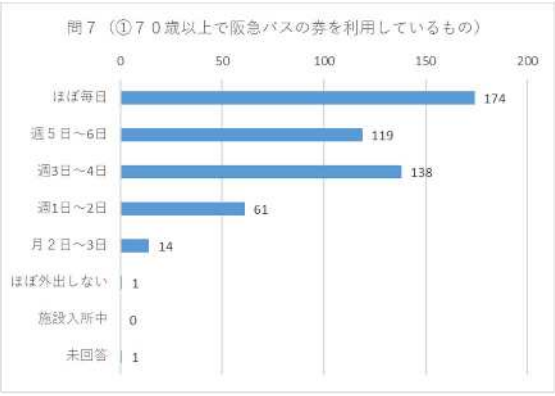
①無作為抽出者全体

選択肢	件数	割合
ほぼ毎日	382	39.4%
週５日～6日	214	22.1%
週3日～4日	220	22.7%
週1日～2日	101	10.4%
月２日～3日	21	2.2%
ほぼ外出しない	7	0.7%
施設入所中	2	0.2%
未回答	22	2.3%
計	969	100.0%
有効回答率		97.7%



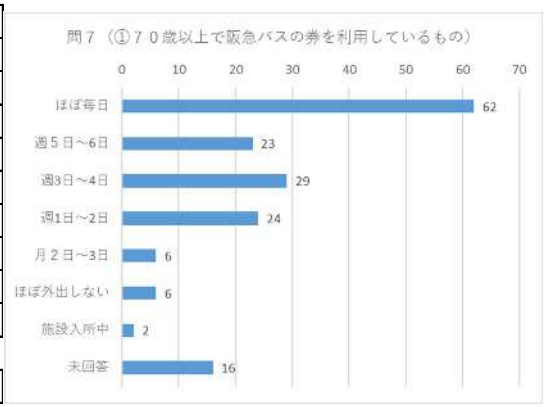
②グループ１（70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）

選択肢	件数	割合
ほぼ毎日	174	34.3%
週５日～6日	119	23.4%
週3日～4日	138	27.2%
週1日～2日	61	12.0%
月２日～3日	14	2.8%
ほぼ外出しない	1	0.2%
施設入所中	0	0.0%
未回答	1	0.2%
計	508	100.0%
有効回答率		99.8%



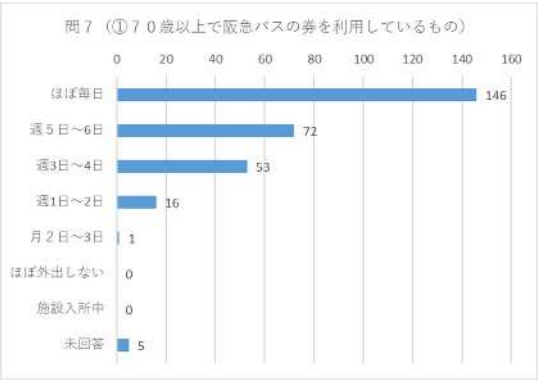
③グループ２（70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者）

選択肢	件数	割合
ほぼ毎日	62	36.9%
週５日～6日	23	13.7%
週3日～4日	29	17.3%
週1日～2日	24	14.3%
月２日～3日	6	3.6%
ほぼ外出しない	6	3.6%
施設入所中	2	1.2%
未回答	16	9.5%
計	168	100.0%
有効回答率		90.5%



④グループ３（65 歳以上 70 歳未満）

選択肢	件数	割合
ほぼ毎日	146	49.8%
週５日～6日	72	24.6%
週3日～4日	53	18.1%
週1日～2日	16	5.5%
月２日～3日	1	0.3%
ほぼ外出しない	0	0.0%
施設入所中	0	0.0%
未回答	5	1.7%
計	293	100.0%
有効回答率		98.3%



⑤参考：一般回答者（無作為抽出者以外）

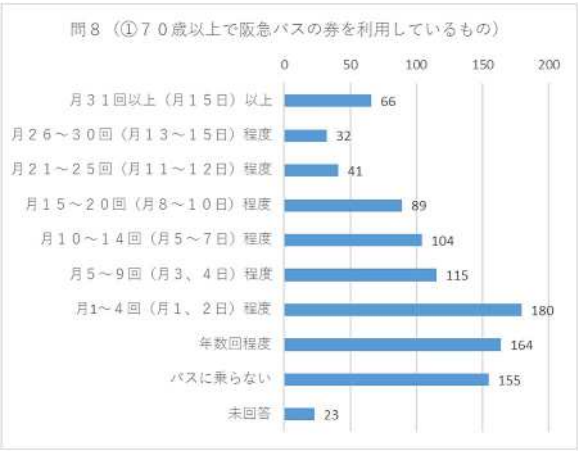
選択肢	件数	割合
ほぼ毎日	234	40.8%
週５日～6日	113	19.7%
週3日～4日	151	26.4%
週1日～2日	53	9.2%
月２日～3日	8	1.4%
ほぼ外出しない	7	1.2%
施設入所中	2	0.3%
未回答	5	0.9%
計	573	100.0%
有効回答率		99.1%

問 8 あなたのバス利用回数について、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

【回答対象：全体】

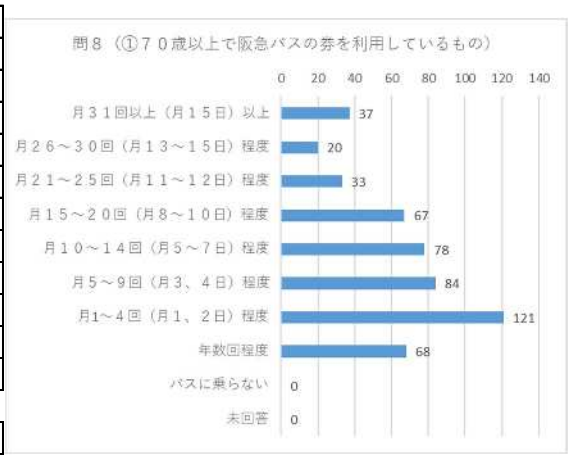
①無作為抽出者全体

選択肢	件数	割合
月３１回以上（月１５日）以上	66	6.8%
月２６～３０回（月１３～１５日）程度	32	3.3%
月２１～２５回（月１１～１２日）程度	41	4.2%
月１５～２０回（月８～１０日）程度	89	9.2%
月１０～１４回（月５～７日）程度	104	10.7%
月５～９回（月３、４日）程度	115	11.9%
月1～４回（月１、２日）程度	180	18.6%
年数回程度	164	16.9%
バスに乗らない	155	16.0%
未回答	23	2.4%
計	969	100.0%
有効回答率		97.6%



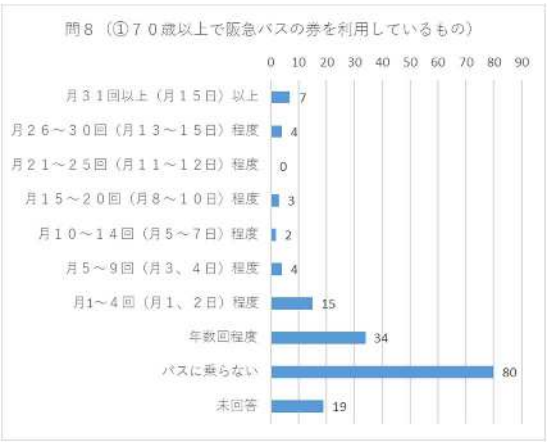
②グループ１（70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）

選択肢	件数	割合
月３１回以上（月１５日）以上	37	7.3%
月２６～３０回（月１３～１５日）程度	20	3.9%
月２１～２５回（月１１～１２日）程度	33	6.5%
月１５～２０回（月８～１０日）程度	67	13.2%
月１０～１４回（月５～７日）程度	78	15.4%
月５～９回（月３、４日）程度	84	16.5%
月1～４回（月１、２日）程度	121	23.8%
年数回程度	68	13.4%
バスに乗らない	0	0.0%
未回答	0	0.0%
計	508	100.0%
有効回答率		100.0%



③グループ２（70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者）

選択肢	件数	割合
月３１回以上（月１５日）以上	7	4.2%
月２６～３０回（月１３～１５日）程度	4	2.4%
月２１～２５回（月１１～１２日）程度	0	0.0%
月１５～２０回（月８～１０日）程度	3	1.8%
月１０～１４回（月５～７日）程度	2	1.2%
月５～９回（月３、４日）程度	4	2.4%
月1～４回（月１、２日）程度	15	8.9%
年数回程度	34	20.2%
バスに乗らない	80	47.6%
未回答	19	11.3%
計	168	100.0%
有効回答率		88.7%

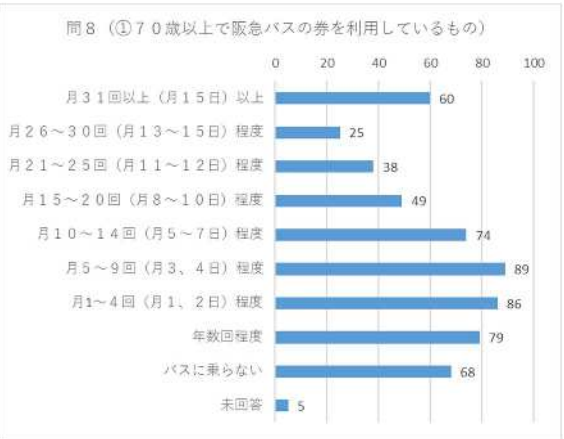


④グループ３（65 歳以上 70 歳未満）

選択肢	件数	割合
月３１回以上（月１５日）以上	22	7.5%
月２６～３０回（月１３～１５日）程度	8	2.7%
月２１～２５回（月１１～１２日）程度	8	2.7%
月１５～２０回（月８～１０日）程度	19	6.5%
月１０～１４回（月５～７日）程度	24	8.2%
月５～９回（月３、４日）程度	27	9.2%
月1～４回（月１、２日）程度	44	15.0%
年数回程度	62	21.2%
バスに乗らない	75	25.6%
未回答	4	1.4%
計	293	100.0%
有効回答率		98.6%

⑤参考：一般回答者（無作為抽出者以外）

選択肢	件数	割合
月３１回以上（月１５日）以上	60	10.5%
月２６～３０回（月１３～１５日）程度	25	4.4%
月２１～２５回（月１１～１２日）程度	38	6.6%
月１５～２０回（月８～１０日）程度	49	8.6%
月１０～１４回（月５～７日）程度	74	12.9%
月５～９回（月３、４日）程度	89	15.5%
月1～４回（月１、２日）程度	86	15.0%
年数回程度	79	13.8%
バスに乗らない	68	11.9%
未回答	5	0.9%
計	573	100.0%
有効回答率		99.1%

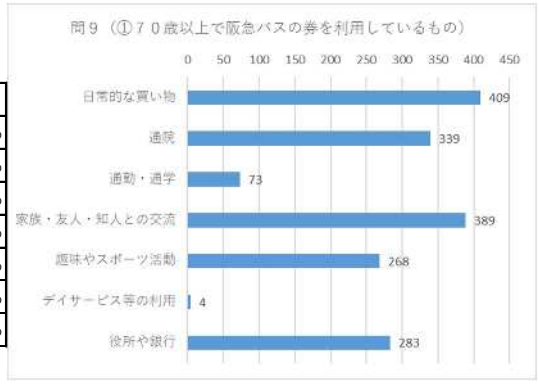


問　9　あなたがバスを利用して向かう外出先について、当てはまる数字すべてに○をつけてください。

【回答対象：全体】（複数回答可）

① 無作為抽出者全体

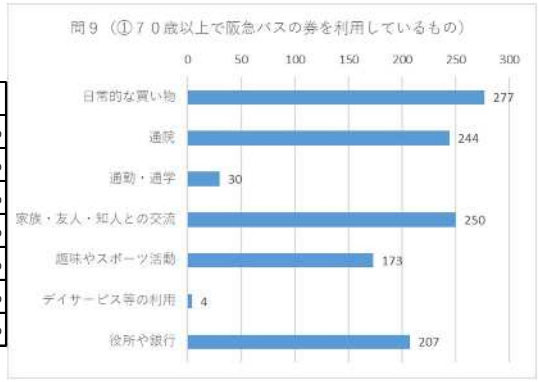
選択肢	件数	割合
日常的な買い物	409	51.7%
通院	339	42.9%
通勤・通学	73	9.2%
家族・友人・知人との交流	389	49.2%
趣味やスポーツ活動	268	33.9%
デイサービス等の利用	4	0.5%
役所や銀行	283	35.8%
回答者数	791	



（※回答者数 791 人：①無作為抽出者全体 969 人中、問 8 で「バスに乗らない」及び「未回答」以外を回答された方）

②グループ１（70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）

選択肢	件数	割合
日常的な買い物	277	54.5%
通院	244	48.0%
通勤・通学	30	5.9%
家族・友人・知人との交流	250	49.2%
趣味やスポーツ活動	173	34.1%
デイサービス等の利用	4	0.8%
役所や銀行	207	40.7%
回答者数	508	



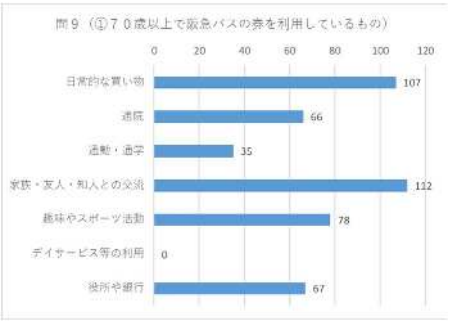
③グループ２（70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者）

選択肢	件数	割合
日常的な買い物	25	36.2%
通院	29	42.0%
通勤・通学	8	11.6%
家族・友人・知人との交流	27	39.1%
趣味やスポーツ活動	17	24.6%
デイサービス等の利用	0	0.0%
役所や銀行	9	13.0%
回答者数	69	

（※回答者数 69 人：③グループ２の 168 人中、問 8 で「バスに乗らない」及び「未回答」以外を回答された方）

④グループ３（65 歳以上 70 歳未満）

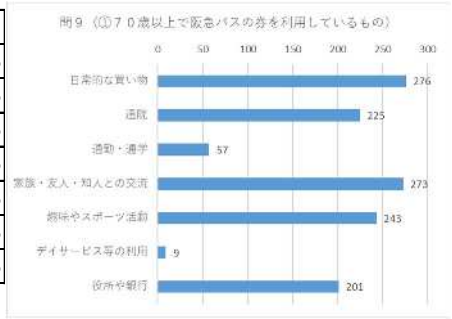
選択肢	件数	割合
日常的な買い物	107	50.0%
通院	66	30.8%
通勤・通学	35	16.4%
家族・友人・知人との交流	112	52.3%
趣味やスポーツ活動	78	36.4%
デイサービス等の利用	0	0.0%
役所や銀行	67	31.3%
回答者数	214	



（※回答者数 214 人：④グループ３の 293 人中、問 8 で「バスに乗らない」及び「未回答」以外を回答された方）

⑤参考：一般回答者（無作為抽出者以外）

選択肢	件数	割合
日常的な買い物	276	55.2%
通院	225	45.0%
通勤・通学	57	11.4%
家族・友人・知人との交流	273	54.6%
趣味やスポーツ活動	243	48.6%
デイサービス等の利用	9	1.8%
役所や銀行	201	40.2%
回答者数	500	



（※回答者数 500 人：⑤参考：一般回答者（無作為抽出者以外）の 573 人中、問 8 で「バスに乗らない」及び「未回答」以外を回答された方）

問 10 バス運賃助成事業の割引証の所有について、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

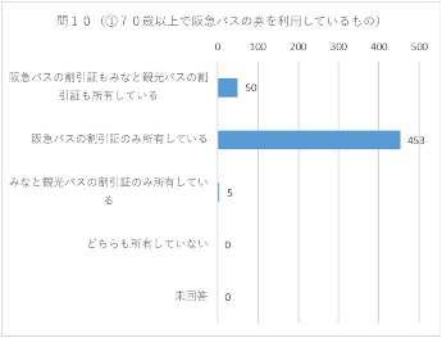
【回答対象：グループ１・グループ２】

問3「お住まいの地区」とのクロス集計結果	1. 奥池地区	2. 山手小学校区（奥池地区除く）	3. 岩園小学校区	4. 朝日ケ丘小学校区	5. 精道小学校区	6. 宮川小学校区	7. 打出浜小学校区	8. 浜風小学校区	9. 潮見小学校区（南芦屋浜地区除く）	10. 南芦屋浜地区	合計
阪急バスの割引証もみなと観光バスの割引証も所有している	1	11	16	6	5	0	2	3	6	2	52
	(9.1%)	(10.3%)	(19.0%)	(8.7%)	(6.3%)	(0.0%)	(3.1%)	(3.6%)	(6.8%)	(5.9%)	(7.7%)
阪急バスの割引証のみ所有している	6	61	43	50	60	38	48	75	75	28	484
	(54.5%)	(57.0%)	(51.2%)	(72.5%)	(75.0%)	(70.4%)	(73.8%)	(89.3%)	(85.2%)	(82.4%)	(71.6%)
みなと観光バスの割引証のみ所有している	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	6
	(0.0%)	(0.0%)	(7.1%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.9%)
どちらも所有していない	3	32	15	12	14	16	12	5	6	3	118
	(27.3%)	(29.9%)	(17.9%)	(17.4%)	(17.5%)	(29.6%)	(18.5%)	(6.0%)	(6.8%)	(8.8%)	(17.5%)
未回答	1	3	4	1	1	0	3	1	1	1	16
	(9.1%)	(2.8%)	(4.8%)	(1.4%)	(1.3%)	(0.0%)	(4.6%)	(1.2%)	(1.1%)	(2.9%)	(2.4%)
地区別 計	11	107	84	69	80	54	65	84	88	34	676

問8「バス利用回数」とのクロス集計結果	月31回以上（月15日以上）	月26～30回（月13～15日）程度	月21～25回（月11～12日）程度	月15～20回（月8～10日）程度	月10～14回（月5～7日）程度	月5～9回（月3、4日）程度	月1～4回（月1、2日）程度	年数回程度	バスに乗らない	未回答	合計
阪急バスの割引証もみなと観光バスの割引証も所有している	8	3	3	10	7	1	13	5	2	0	52
	(18.2%)	(12.5%)	(9.1%)	(14.3%)	(8.8%)	(1.1%)	(9.6%)	(4.9%)	(2.5%)	(0.0%)	(7.7%)
阪急バスの割引証のみ所有している	29	17	30	57	69	82	106	63	17	14	484
	(65.9%)	(70.8%)	(90.9%)	(81.4%)	(86.3%)	(93.2%)	(77.9%)	(61.8%)	(21.3%)	(73.7%)	(71.6%)
みなと観光バスの割引証のみ所有している	0	0	0	0	2	1	2	0	0	1	6
	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(2.5%)	(1.1%)	(1.5%)	(0.0%)	(0.0%)	(5.3%)	(0.9%)
どちらも所有していない	5	4	0	3	1	3	11	33	56	2	118
	(11.4%)	(16.7%)	(0.0%)	(4.3%)	(1.3%)	(3.4%)	(8.1%)	(32.4%)	(70.0%)	(10.5%)	(17.5%)
未回答	2	0	0	0	1	1	4	1	5	2	16
	(4.5%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(1.3%)	(1.1%)	(2.9%)	(1.0%)	(6.3%)	(10.5%)	(2.4%)
乗車回数別 計	44	24	33	70	80	88	136	102	80	19	676

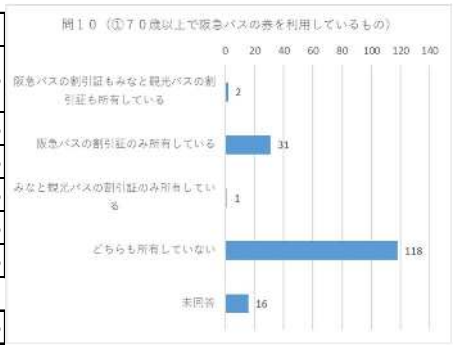
②グループ１（70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）

選択肢	件数	割合
阪急バスの割引証もみなと観光バスの割引証も所有している	50	9.8%
阪急バスの割引証のみ所有している	453	89.2%
みなと観光バスの割引証のみ所有している	5	1.0%
どちらも所有していない	0	0.0%
未回答	0	0.0%
計	508	100.0%
有効回答率		100.0%



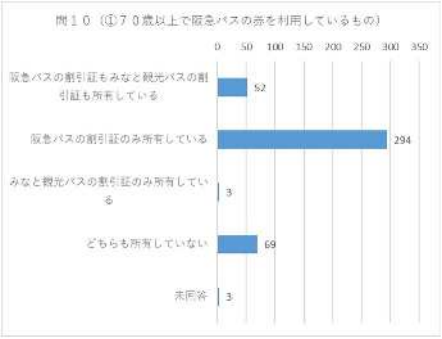
③グループ２（70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者）

選択肢	件数	割合
阪急バスの割引証もみなと観光バスの割引証も所有している	2	1.2%
阪急バスの割引証のみ所有している	31	18.5%
みなと観光バスの割引証のみ所有している	1	0.6%
どちらも所有していない	118	70.2%
未回答	16	9.5%
計	168	100.0%
有効回答率		90.5%



⑤参考：一般回答者（無作為抽出者以外）

選択肢	件数	割合
阪急バスの割引証もみなと観光バスの割引証も所有している	52	12.4%
阪急バスの割引証のみ所有している	294	69.8%
みなと観光バスの割引証のみ所有している	3	0.7%
どちらも所有していない	69	16.4%
未回答	3	0.7%
計	421	100.0%
有効回答率		99.3%



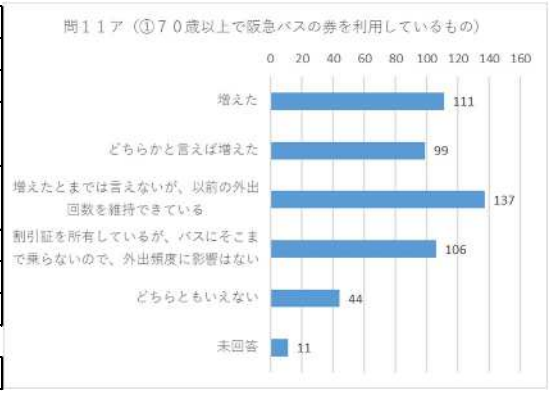
（※回答者数 421 人：⑤参考：一般回答者（無作為抽出者以外）の 573 人中、問 1 で「65 歳～69 歳」以外を回答された方）

問 11 ア　割引証を所有することでの外出機会が増えたかについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

【回答対象：グループ１】

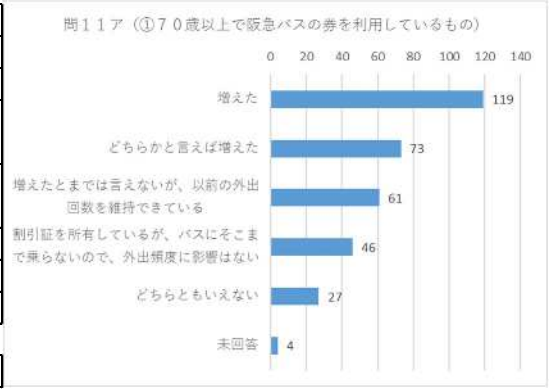
②グループ１（70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）

選択肢	件数	割合
増えた	111	21.9%
どちらかと言えば増えた	99	19.5%
増えたとまでは言えないが、以前の外出回数を維持できている	137	27.0%
割引証を所有しているが、バスにそこまで乗らないので、外出頻度に影響はない	106	20.9%
どちらともいえない	44	8.7%
未回答	11	2.2%
計	508	100.0%
有効回答率		97.8%



⑤参考：一般回答者（無作為抽出者以外）

選択肢	件数	割合
増えた	119	36.1%
どちらかと言えば増えた	73	22.1%
増えたとまでは言えないが、以前の外出回数を維持できている	61	18.5%
割引証を所有しているが、バスにそこまで乗らないので、外出頻度に影響はない	46	13.9%
どちらともいえない	27	8.2%
未回答	4	1.2%
計	330	100.0%
有効回答率		98.8%



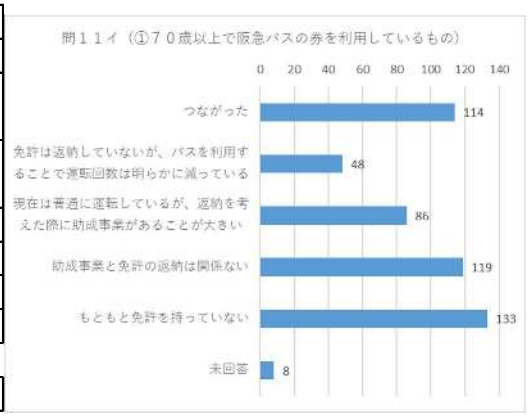
（※回答者数 349 人：⑤参考：一般回答者（無作為抽出者以外）の 573 人中、グループ１と同じ条件の方）

問　11　イ　助成事業があることが免許の返納につながっているか、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

【回答対象：グループ１】

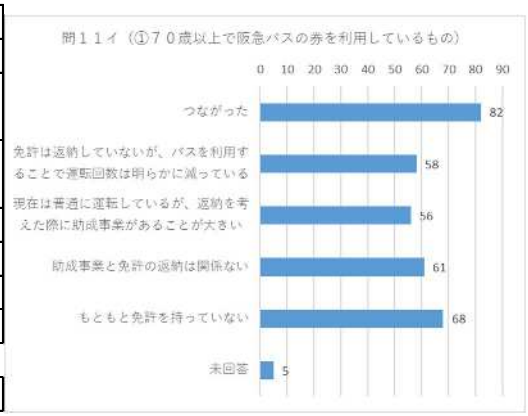
②グループ１（70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）

選択肢	件数	割合
つながった	114	22.4%
免許は返納していないが、バスを利用することで運転回数は明らかに減っている	48	9.4%
現在は普通に運転しているが、返納を考えた際に助成事業があることが大きい	86	16.9%
助成事業と免許の返納は関係ない	119	23.4%
もともと免許を持っていない	133	26.2%
未回答	8	1.6%
計	508	100.0%
有効回答率		98.4%



⑤参考：一般回答者（無作為抽出者以外）

選択肢	件数	割合
つながった	82	24.8%
免許は返納していないが、バスを利用することで運転回数は明らかに減っている	58	17.6%
現在は普通に運転しているが、返納を考えた際に助成事業があることが大きい	56	17.0%
助成事業と免許の返納は関係ない	61	18.5%
もともと免許を持っていない	68	20.6%
未回答	5	1.5%
計	330	100.0%
有効回答率		98.5%



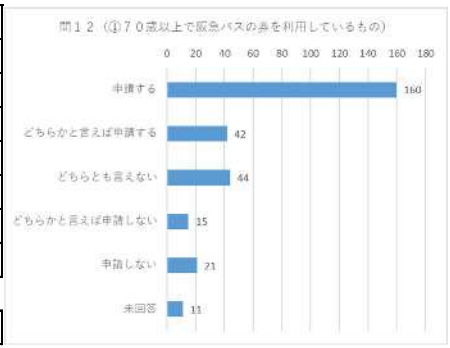
（※回答者数 330 人：⑤参考：一般回答者（無作為抽出者以外）の 573 人中、グループ１と同じ条件の方）

問　12　70歳になったらバス運賃助成事業の割引証を申請されるかについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

【回答対象：グループ３】

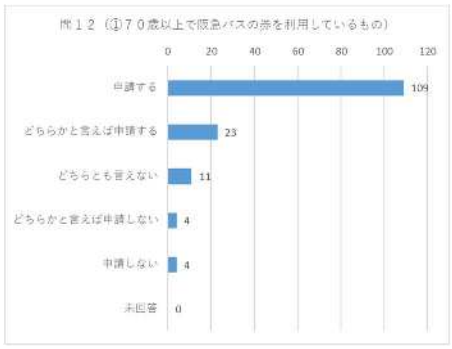
④グループ３（65 歳以上 70 歳未満）

選択肢	件数	割合
申請する	160	54.6%
どちらかと言えば申請する	42	14.3%
どちらとも言えない	44	15.0%
どちらかと言えば申請しない	15	5.1%
申請しない	21	7.2%
未回答	11	3.8%
計	293	100.0%
有効回答率		96.2%



⑤参考：一般回答者（無作為抽出者以外）

選択肢	件数	割合
申請する	109	71.7%
どちらかと言えば申請する	23	15.1%
どちらとも言えない	11	7.2%
どちらかと言えば申請しない	4	2.6%
申請しない	4	2.6%
未回答	0	0.0%
計	152	100.0%
有効回答率		99.3%



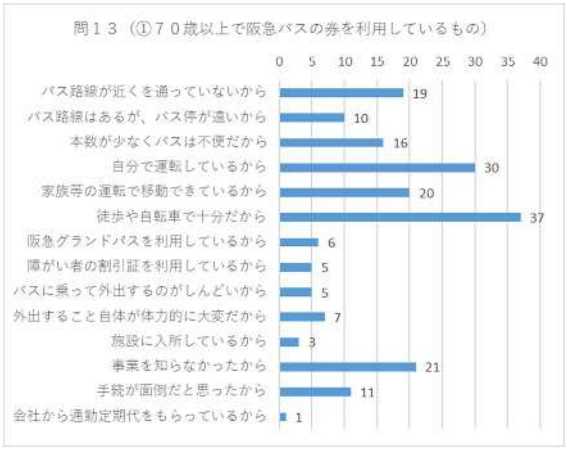
（※回答者数 152 人：⑤参考：一般回答者（無作為抽出者以外）の 573 人中、グループ３と同じ条件の方）

問 13 あなたが割引証を申請しない理由について、当てはまる数字すべてに○をつけてください。

【回答対象：グループ２・３】

③グループ２（70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者）

選択肢	件数	割合
バス路線が近くを通っていないから	19	16.1%
バス路線はあるが、バス停が遠いから	10	8.5%
本数が少なくバスは不便だから	16	13.6%
自分で運転しているから	30	25.4%
家族等の運転で移動できているから	20	16.9%
徒歩や自転車で十分だから	37	31.4%
阪急グランドパスを利用しているから	6	5.1%
障がい者の割引証を利用しているから	5	4.2%
バスに乗って外出するのがしんどいから	5	4.2%
外出すること自体が体力的に大変だから	7	5.9%
施設に入所しているから	3	2.5%
事業を知らなかったから	21	17.8%
手続が面倒だと思ったから	11	9.3%
会社から通勤定期代をもらっているから	1	0.8%
回答者数	118	



（※回答者数 118 人：③グループ２の 168 人中、問 10 で「どちらも所有していない」と回答された方）

④グループ３（65 歳以上 70 歳未満）

選択肢	件数	割合
バス路線が近くを通っていないから	7	8.8%
バス路線はあるが、バス停が遠いから	5	6.3%
本数が少なくバスは不便だから	17	21.3%
自分で運転しているから	32	40.0%
家族等の運転で移動できているから	18	22.5%
徒歩や自転車で十分だから	44	55.0%
阪急グランドパスを利用しているから	3	3.8%
障がい者の割引証を利用しているから	2	2.5%
バスに乗って外出するのがしんどいから	5	6.3%
外出すること自体が体力的に大変だから	1	1.3%
施設に入所しているから	0	0.0%
事業を知らなかったから	5	6.3%
手続が面倒だと思ったから	4	5.0%
会社から通勤定期代をもらっているから	2	2.5%
回答者数	80	

（※回答者数 80 人：④グループ３の 293 人中、問 12 で「どちらとも言えない」、「どちらかと言えば申請しない」、「申請しない」と回答された方）

⑤参考：一般回答者（無作為抽出者以外）

選択肢	件数	割合
バス路線が近くを通っていないから	13	14.8%
バス路線はあるが、バス停が遠いから	8	9.1%
本数が少なくバスは不便だから	14	15.9%
自分で運転しているから	31	35.2%
家族等の運転で移動できているから	8	9.1%
徒歩や自転車で十分だから	41	46.6%
阪急グランドパスを利用しているから	7	8.0%
障がい者の割引証を利用しているから	4	4.5%
バスに乗って外出するのがしんどいから	5	5.7%
外出すること自体が体力的に大変だから	4	4.5%
施設に入所しているから	1	1.1%
事業を知らなかったから	7	8.0%
手続が面倒だと思ったから	8	9.1%
会社から通勤定期代をもらっているから	2	2.3%
回答者数	88	

（※回答者数 89 人：下記ＡまたはＢに該当する方）

⑤参考：一般回答者（無作為抽出者以外）の 573 人中、

Ａ：問 1 で「65 歳～69 歳」以外を回答され、問 10 で「どちらも所有していない」と回答された方

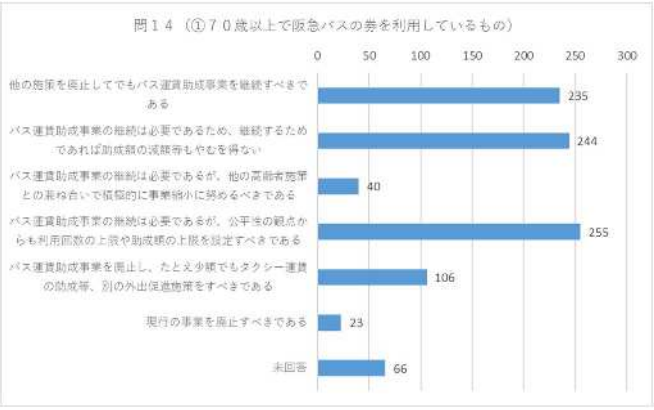
Ｂ：問 1 で「65 歳～69 歳」と回答され、問 12 で「どちらとも言えない」、「どちらかと言えば申請しない」、「申請しない」と回答された方

問 14 バス運賃助成事業そのものについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

【回答対象：全体】

①無作為抽出者全体

選択肢	件数	割合
他の施策を廃止してでもバス運賃助成事業を継続すべきである	235	24.3%
バス運賃助成事業の継続は必要であるため、継続するためであれば助成額の減額等もやむを得ない	244	25.2%
バス運賃助成事業の継続は必要であるが、他の高齢者施策との兼ね合いで積極的に事業縮小に努めるべきである	40	4.1%
バス運賃助成事業の継続は必要であるが、公平性の観点からも利用回数の上限や助成額の上限を設定すべきである	255	26.3%
バス運賃助成事業を廃止し、たとえ少額でもタクシー運賃の助成等、別の外出促進施策をすべきである	106	10.9%
現行の事業を廃止すべきである	23	2.4%
未回答	66	6.8%
計	969	100.0%
有効回答率		93.2%

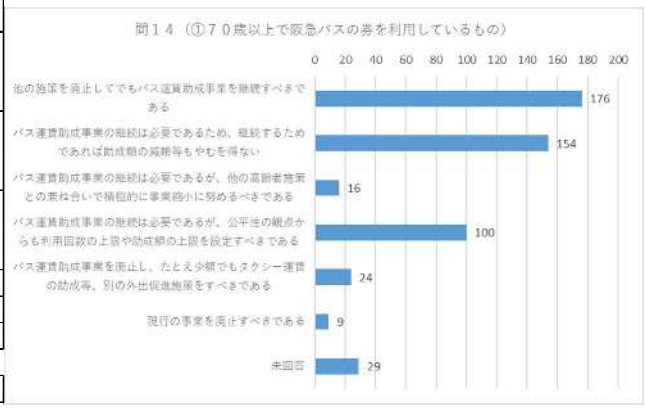


問3「お住まいの地区」とのクロス集計結果	1. 奥池地区	2. 山手小学校区（奥池地区除く）	3. 岩園小学校区	4. 朝日ケ丘小学校区	5. 精道小学校区	6. 宮川小学校区	7. 打出浜小学校区	8. 浜風小学校区	9. 潮見小学校区（南芦屋浜地区除く）	10. 南芦屋浜地区	合計
他の施策を廃止してでもバス運賃助成事業を継続すべきである	6	32	24	31	21	14	18	36	42	11	235
	(40.0%)	(19.4%)	(19.8%)	(30.1%)	(17.5%)	(16.3%)	(19.1%)	(32.4%)	(39.3%)	(23.4%)	(24.3%)
バス運賃助成事業の継続は必要であるため、継続するためであれば助成額の減額等もやむを得ない	4	32	31	33	28	16	24	28	32	16	244
	(26.7%)	(19.4%)	(25.6%)	(32.0%)	(23.3%)	(18.6%)	(25.5%)	(25.2%)	(29.9%)	(34.0%)	(25.2%)
バス運賃助成事業の継続は必要であるが、他の高齢者施策との兼ね合いで積極的に事業縮小に努めるべきである	0	9	4	3	6	7	3	4	3	1	40
	(0.0%)	(5.5%)	(3.3%)	(2.9%)	(5.0%)	(8.1%)	(3.2%)	(3.6%)	(2.8%)	(2.1%)	(4.1%)
バス運賃助成事業の継続は必要であるが、公平性の観点からも利用回数の上限や助成額の上限を設定すべきである	3	53	36	23	31	24	24	30	20	11	255
	(20.0%)	(32.1%)	(29.8%)	(22.3%)	(25.8%)	(27.9%)	(25.5%)	(27.0%)	(18.7%)	(23.4%)	(26.3%)
バス運賃助成事業を廃止し、たとえ少額でもタクシー運賃の助成等、別の外出促進施策をすべきである	0	27	17	5	22	15	11	2	3	4	106
	(0.0%)	(16.4%)	(14.0%)	(4.9%)	(18.3%)	(17.4%)	(11.7%)	(1.8%)	(2.8%)	(8.5%)	(10.9%)
現行の事業を廃止すべきである	0	4	2	1	6	4	1	2	2	1	23
	(0.0%)	(2.4%)	(1.7%)	(1.0%)	(5.0%)	(4.7%)	(1.1%)	(1.8%)	(1.9%)	(2.1%)	(2.4%)
未回答	2	8	7	7	6	6	13	9	5	3	66
	(13.3%)	(4.8%)	(5.8%)	(6.8%)	(5.0%)	(7.0%)	(13.8%)	(8.1%)	(4.7%)	(6.4%)	(6.8%)
地区別　計	15	165	121	103	120	86	94	111	107	47	969

問8「バス利用回数」とのクロス集計結果	月31回以上（月15日以上）	月26～30回（月13～15日）程度	月21～25回（月11～12日）程度	月15～20回（月8～10日）程度	月10～14回（月5～7日）程度	月5～9回（月3、4日）程度	月1～4回（月1、2日）程度	年数回程度	バスに乗らない	未回答	合計
他の施策を廃止してでもバス運賃助成事業を継続すべきである	28	9	23	39	29	27	49	20	11	0	235
	(42.4%)	(28.1%)	(56.1%)	(43.8%)	(27.9%)	(23.5%)	(27.2%)	(12.2%)	(7.1%)	(0.0%)	(24.3%)
バス運賃助成事業の継続は必要であるため、継続するためであれば助成額の減額等もやむを得ない	21	10	14	27	37	34	43	33	22	3	244
	(31.8%)	(31.3%)	(34.1%)	(30.3%)	(35.6%)	(29.6%)	(23.9%)	(20.1%)	(14.2%)	(13.0%)	(25.2%)
バス運賃助成事業の継続は必要であるが、他の高齢者施策との兼ね合いで積極的に事業縮小に努めるべきである	2	1	0	3	4	1	6	11	12	0	40
	(3.0%)	(3.1%)	(0.0%)	(3.4%)	(3.8%)	(0.9%)	(3.3%)	(6.7%)	(7.7%)	(0.0%)	(4.1%)
バス運賃助成事業の継続は必要であるが、公平性の観点からも利用回数の上限や助成額の上限を設定すべきである	10	8	4	14	26	35	55	55	46	2	255
	(15.2%)	(25.0%)	(9.8%)	(15.7%)	(25.0%)	(30.4%)	(30.6%)	(33.5%)	(29.7%)	(8.7%)	(26.3%)
バス運賃助成事業を廃止し、たとえ少額でもタクシー運賃の助成等、別の外出促進施策をすべきである	0	1	0	1	5	6	15	31	45	2	106
	(0.0%)	(3.1%)	(0.0%)	(1.1%)	(4.8%)	(5.2%)	(8.3%)	(18.9%)	(29.0%)	(8.7%)	(10.9%)
現行の事業を廃止すべきである	0	0	0	0	0	5	2	7	9	0	23
	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(4.3%)	(1.1%)	(4.3%)	(5.8%)	(0.0%)	(2.4%)
未回答	5	3	0	5	3	7	10	7	10	16	66
	(7.6%)	(9.4%)	(0.0%)	(5.6%)	(2.9%)	(6.1%)	(5.6%)	(4.3%)	(6.5%)	(69.6%)	(6.8%)
乗車回数別　計	66	32	41	89	104	115	180	164	155	23	969

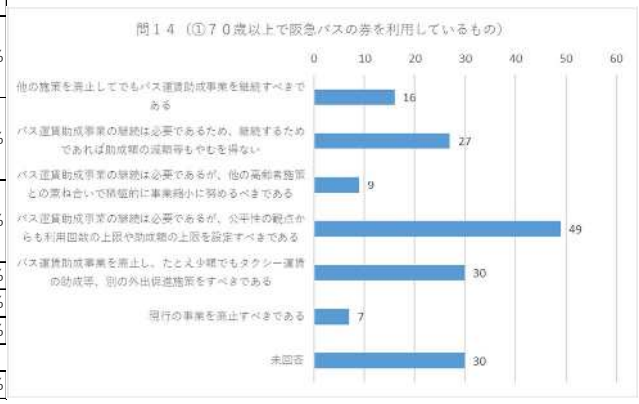
②グループ１（70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）

選択肢	件数	割合
他の施策を廃止してでもバス運賃助成事業を継続すべきである	176	34.6%
バス運賃助成事業の継続は必要であるため、継続するためであれば助成額の減額等もやむを得ない	154	30.3%
バス運賃助成事業の継続は必要であるが、他の高齢者施策との兼ね合いで積極的に事業縮小に努めるべきである	16	3.1%
バス運賃助成事業の継続は必要であるが、公平性の観点からも利用回数の上限や助成額の上限を設定すべきである	100	19.7%
バス運賃助成事業を廃止し、たとえ少額でもタクシー運賃の助成等、別の外出促進施策をすべきである	24	4.7%
現行の事業を廃止すべきである	9	1.8%
未回答	29	5.7%
計	508	100.0%
有効回答率		94.3%



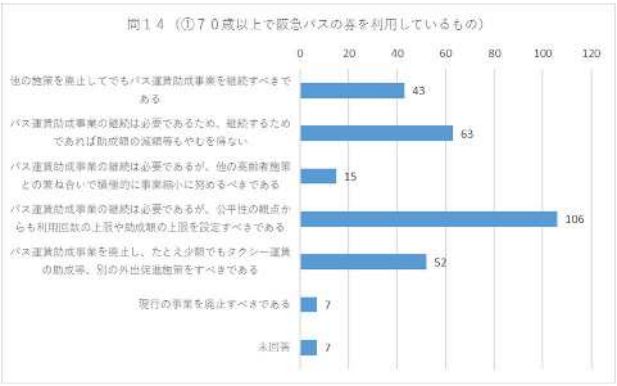
③グループ２（70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者）

選択肢	件数	割合
他の施策を廃止してでもバス運賃助成事業を継続すべきである	16	9.5%
バス運賃助成事業の継続は必要であるため、継続するためであれば助成額の減額等もやむを得ない	27	16.1%
バス運賃助成事業の継続は必要であるが、他の高齢者施策との兼ね合いで積極的に事業縮小に努めるべきである	9	5.4%
バス運賃助成事業の継続は必要であるが、公平性の観点からも利用回数の上限や助成額の上限を設定すべきである	49	29.2%
バス運賃助成事業を廃止し、たとえ少額でもタクシー運賃の助成等、別の外出促進施策をすべきである	30	17.9%
現行の事業を廃止すべきである	7	4.2%
未回答	30	17.9%
計	168	100.0%
有効回答率		82.1%



④グループ３（65 歳以上 70 歳未満）

選択肢	件数	割合
他の施策を廃止してでもバス運賃助成事業を継続すべきである	43	14.7%
バス運賃助成事業の継続は必要であるため、継続するためであれば助成額の減額等もやむを得ない	63	21.5%
バス運賃助成事業の継続は必要であるが、他の高齢者施策との兼ね合いで積極的に事業縮小に努めるべきである	15	5.1%
バス運賃助成事業の継続は必要であるが、公平性の観点からも利用回数の上限や助成額の上限を設定すべきである	106	36.2%
バス運賃助成事業を廃止し、たとえ少額でもタクシー運賃の助成等、別の外出促進施策をすべきである	52	17.7%
現行の事業を廃止すべきである	7	2.4%
未回答	7	2.4%
計	293	100.0%
有効回答率		97.6%



⑤参考：一般回答者（無作為抽出者以外）

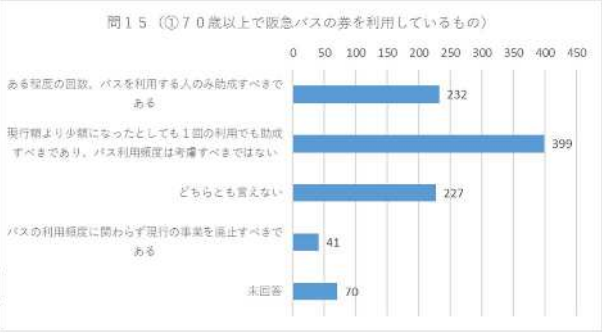
選択肢	件数	割合
他の施策を廃止してでもバス運賃助成事業を継続すべきである	192	33.5%
バス運賃助成事業の継続は必要であるため、継続するためであれば助成額の減額等もやむを得ない	149	26.0%
バス運賃助成事業の継続は必要であるが、他の高齢者施策との兼ね合いで積極的に事業縮小に努めるべきである	32	5.6%
バス運賃助成事業の継続は必要であるが、公平性の観点からも利用回数の上限や助成額の上限を設定すべきである	140	24.4%
バス運賃助成事業を廃止し、たとえ少額でもタクシー運賃の助成等、別の外出促進施策をすべきである	36	6.3%
現行の事業を廃止すべきである	14	2.4%
未回答	10	1.7%
計	573	100.0%
有効回答率		98.3%

問　15　外出促進による介護予防の観点から、助成する考え方にバス利用頻度を考慮すべきかについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

【回答対象：全体】

①無作為抽出者全体

選択肢	件数	割合
ある程度の回数、バスを利用する人のみ助成すべきである	232	23.9%
現行額より少額になったとしても１回の利用でも助成すべきであり、バス利用頻度は考慮すべきではない	399	41.2%
どちらとも言えない	227	23.4%
バスの利用頻度に関わらず現行の事業を廃止すべきである	41	4.2%
未回答	70	7.2%
計	969	100.0%
有効回答率		92.8%

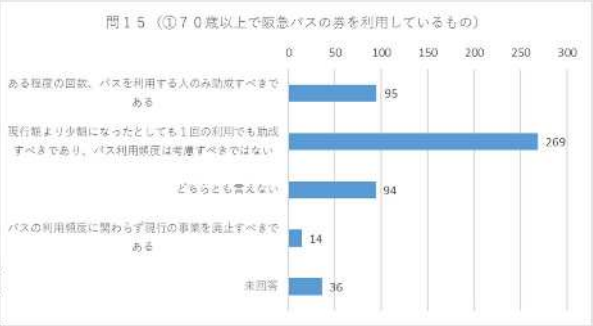


問3「お住まいの地区」とのクロス集計結果	1. 奥池地区	2. 山手小学校区（奥池地区除く）	3. 岩園小学校区	4. 朝日ケ丘小学校区	5. 精道小学校区	6. 宮川小学校区	7. 打出浜小学校区	8. 浜風小学校区	9. 潮見小学校区（南芦屋浜地区除く）	10. 南芦屋浜地区	合計
ある程度の回数、バスを利用する人のみ助成するべきである	4	51	26	24	26	23	18	22	26	12	232
	(26.7%)	(30.9%)	(21.5%)	(23.3%)	(21.7%)	(26.7%)	(19.1%)	(19.8%)	(24.3%)	(25.5%)	(23.9%)
現行額より少額になったとしても1回の利用でも助成すべきであり、バス利用頻度は考慮すべきではない	8	45	42	47	51	31	36	57	60	22	399
	(53.3%)	(27.3%)	(34.7%)	(45.6%)	(42.5%)	(36.0%)	(38.3%)	(51.4%)	(56.1%)	(46.8%)	(41.2%)
どちらとも言えない	3	49	33	21	27	20	29	24	14	7	227
	(20.0%)	(29.7%)	(27.3%)	(20.4%)	(22.5%)	(23.3%)	(30.9%)	(21.6%)	(13.1%)	(14.9%)	(23.4%)
バスの利用頻度に関わらず現行の事業を廃止すべきである	0	11	6	3	10	5	2	2	1	1	41
	(0.0%)	(6.7%)	(5.0%)	(2.9%)	(8.3%)	(5.8%)	(2.1%)	(1.8%)	(0.9%)	(2.1%)	(4.2%)
未回答	0	9	14	8	6	7	9	6	6	5	70
	(0.0%)	(5.5%)	(11.6%)	(7.8%)	(5.0%)	(8.1%)	(9.6%)	(5.4%)	(5.6%)	(10.6%)	(7.2%)
地区別　計	15	165	121	103	120	86	94	111	107	47	969

問8「バス利用回数」とのクロス集計結果	月31回以上（月15日以上）	月26～30回（月13～15日）程度	月21～25回（月11～12日）程度	月15～20回（月8～10日）程度	月10～14回（月5～7日）程度	月5～9回（月3、4日）程度	月1～4回（月1、2日）程度	年数回程度	バスに乗らない	未回答	合計
ある程度の回数、バスを利用する人のみ助成するべきである	25	11	10	28	18	24	38	34	37	7	232
	(37.9%)	(34.4%)	(24.4%)	(31.5%)	(17.3%)	(20.9%)	(21.1%)	(20.7%)	(23.9%)	(30.4%)	(23.9%)
現行額より少額になったとしても1回の利用でも助成すべきであり、バス利用頻度は考慮すべきではない	25	10	26	43	57	63	85	51	33	6	399
	(37.9%)	(31.3%)	(63.4%)	(48.3%)	(54.8%)	(54.8%)	(47.2%)	(31.1%)	(21.3%)	(26.1%)	(41.2%)
どちらとも言えない	9	10	2	11	24	16	41	56	52	6	227
	(13.6%)	(31.3%)	(4.9%)	(12.4%)	(23.1%)	(13.9%)	(22.8%)	(34.1%)	(33.5%)	(26.1%)	(23.4%)
バスの利用頻度に関わらず現行の事業を廃止すべきである	0	0	0	0	1	4	5	12	19	0	41
	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(1.0%)	(3.5%)	(2.8%)	(7.3%)	(12.3%)	(0.0%)	(4.2%)
未回答	7	1	3	7	4	8	11	11	14	4	70
	(10.6%)	(3.1%)	(7.3%)	(7.9%)	(3.8%)	(7.0%)	(6.1%)	(6.7%)	(9.0%)	(17.4%)	(7.2%)
乗車回数別　計	66	32	41	89	104	115	180	164	155	23	969

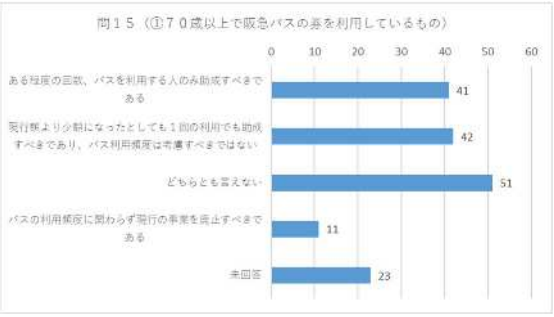
②グループ１（70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）

選択肢	件数	割合
ある程度の回数、バスを利用する人のみ助成すべきである	95	18.7%
現行額より少額になったとしても１回の利用でも助成すべきであり、バス利用頻度は考慮すべきではない	269	53.0%
どちらとも言えない	94	18.5%
バスの利用頻度に関わらず現行の事業を廃止すべきである	14	2.8%
未回答	36	7.1%
計	508	100.0%
有効回答率		92.9%



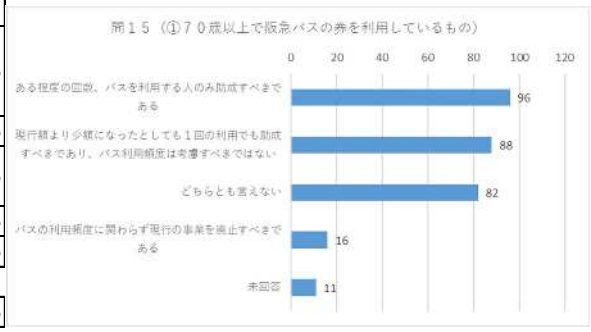
③グループ２（70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者）

選択肢	件数	割合
ある程度の回数、バスを利用する人のみ助成すべきである	41	24.4%
現行額より少額になったとしても１回の利用でも助成すべきであり、バス利用頻度は考慮すべきではない	42	25.0%
どちらとも言えない	51	30.4%
バスの利用頻度に関わらず現行の事業を廃止すべきである	11	6.5%
未回答	23	13.7%
計	168	100.0%
有効回答率		86.3%



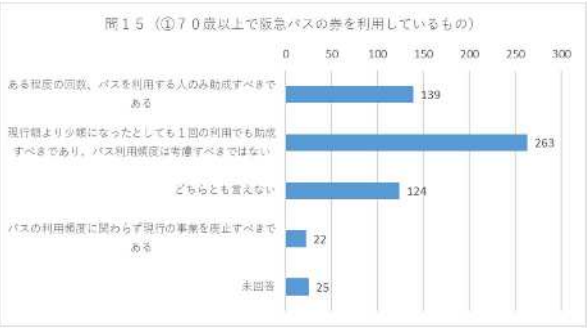
④グループ３（65 歳以上 70 歳未満）

選択肢	件数	割合
ある程度の回数、バスを利用する人のみ助成すべきである	96	32.8%
現行額より少額になったとしても１回の利用でも助成すべきであり、バス利用頻度は考慮すべきではない	88	30.0%
どちらとも言えない	82	28.0%
バスの利用頻度に関わらず現行の事業を廃止すべきである	16	5.5%
未回答	11	3.8%
計	293	100.0%
有効回答率		96.2%



⑤参考：一般回答者（無作為抽出者以外）

選択肢	件数	割合
ある程度の回数、バスを利用する人のみ助成すべきである	139	24.3%
現行額より少額になったとしても１回の利用でも助成すべきであり、バス利用頻度は考慮すべきではない	263	45.9%
どちらとも言えない	124	21.6%
バスの利用頻度に関わらず現行の事業を廃止すべきである	22	3.8%
未回答	25	4.4%
計	573	100.0%
有効回答率		95.6%

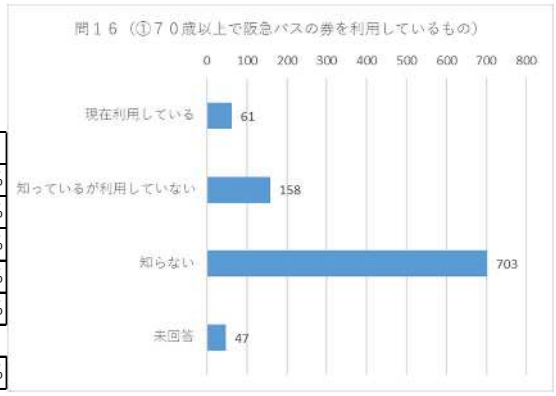


問　16　阪急グランドパスについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

【回答対象：全体】

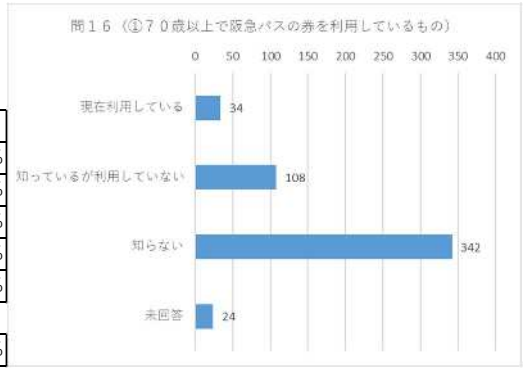
①無作為抽出者全体

選択肢	件数	割合
現在利用している	61	6.3%
知っているが利用していない	158	16.3%
知らない	703	72.5%
未回答	47	4.9%
計	969	100.0%
有効回答率		95.1%



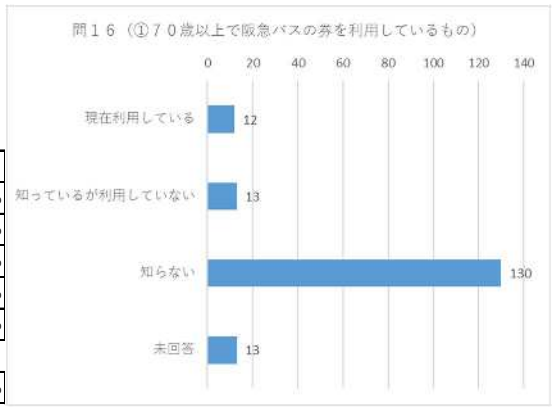
②グループ１（70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）

選択肢	件数	割合
現在利用している	34	6.7%
知っているが利用していない	108	21.3%
知らない	342	67.3%
未回答	24	4.7%
計	508	100.0%
有効回答率		95.3%



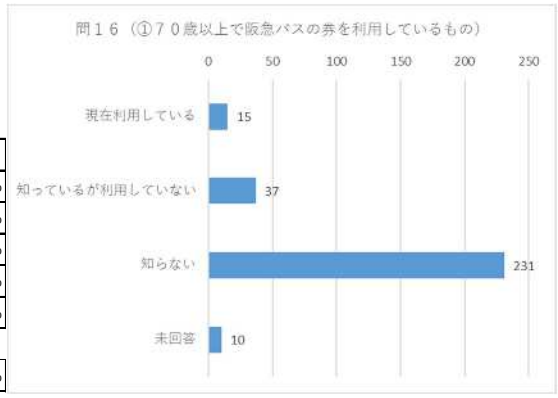
③グループ２（70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者）

選択肢	件数	割合
現在利用している	12	7.1%
知っているが利用していない	13	7.7%
知らない	130	77.4%
未回答	13	7.7%
計	168	100.0%
有効回答率		92.3%



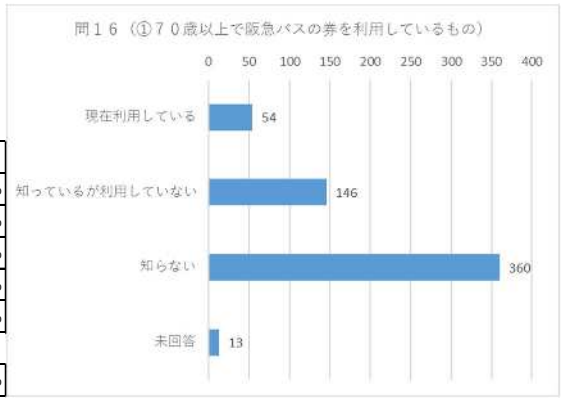
④グループ３（65 歳以上 70 歳未満）

選択肢	件数	割合
現在利用している	15	5.1%
知っているが利用していない	37	12.6%
知らない	231	78.8%
未回答	10	3.4%
計	293	100.0%
有効回答率		96.6%



⑤参考：一般回答者（無作為抽出者以外）

選択肢	件数	割合
現在利用している	54	9.4%
知っているが利用していない	146	25.5%
知らない	360	62.8%
未回答	13	2.3%
計	573	100.0%
有効回答率		97.7%



問 17　阪急グランドパス購入代金の助成をした場合、今よりあなた自身が外出する回数が増加するかについて、1つだけ選んで数字に〇をつけてください。

【回答対象：全体】

①無作為抽出者全体

選択肢	件数	割合
増える	62	6.4%
どちらかと言えば増える	74	7.6%
増えるまでは言えないが、以前の外出回数を維持できると思う	101	10.4%
バスにそこまで乗らないので、外出頻度に影響はない	438	45.2%
どちらともいえない	208	21.5%
既にグランドパスを所有している	23	2.4%
未回答	63	6.5%
計	969	100.0%
有効回答率		93.5%

問3「お住まいの地区」 とのクロス集計結果	1. 奥池地区	2. 山手小学校区（奥池地区除く）	3. 岩園小学校区	4. 朝日ケ丘小学校区	5. 精道小学校区	6. 宮川小学校区	7. 打出浜小学校区	8. 浜風小学校区	9. 潮見小学校区（南芦屋浜地区除く）	10. 南芦屋浜地区	合計
増える	2	9	5	10	5	3	4	9	10	5	62
	(13.3%)	(5.5%)	(4.1%)	(9.7%)	(4.2%)	(3.5%)	(4.3%)	(8.1%)	(9.3%)	(10.6%)	(6.4%)
どちらかと言えば増える	4	11	8	10	8	4	8	10	9	2	74
	(26.7%)	(6.7%)	(6.6%)	(9.7%)	(6.7%)	(4.7%)	(8.5%)	(9.0%)	(8.4%)	(4.3%)	(7.6%)
増えるまでは言えないが、以前の外出回数を維持できると思う	3	13	7	14	9	8	10	11	20	6	101
	(20.0%)	(7.9%)	(5.8%)	(13.6%)	(7.5%)	(9.3%)	(10.6%)	(9.9%)	(18.7%)	(12.8%)	(10.4%)
バスにそこまで乗らないので、外出頻度に影響はない	4	91	63	35	66	48	42	37	30	22	438
	(26.7%)	(55.2%)	(52.1%)	(34.0%)	(55.0%)	(55.8%)	(44.7%)	(33.3%)	(28.0%)	(46.8%)	(45.2%)
どちらともいえない	1	29	27	22	28	14	19	33	29	6	208
	(6.7%)	(17.6%)	(22.3%)	(21.4%)	(23.3%)	(16.3%)	(20.2%)	(29.7%)	(27.1%)	(12.8%)	(21.5%)
既にグランドパスを所有している	1	3	1	7	1	1	1	5	1	2	23
	(6.7%)	(1.8%)	(0.8%)	(6.8%)	(0.8%)	(1.2%)	(1.1%)	(4.5%)	(0.9%)	(4.3%)	(2.4%)
未回答	0	9	10	5	3	8	10	6	8	4	63
	(0.0%)	(5.5%)	(8.3%)	(4.9%)	(2.5%)	(9.3%)	(10.6%)	(5.4%)	(7.5%)	(8.5%)	(6.5%)
地区別　計	15	165	121	103	120	86	94	111	107	47	969

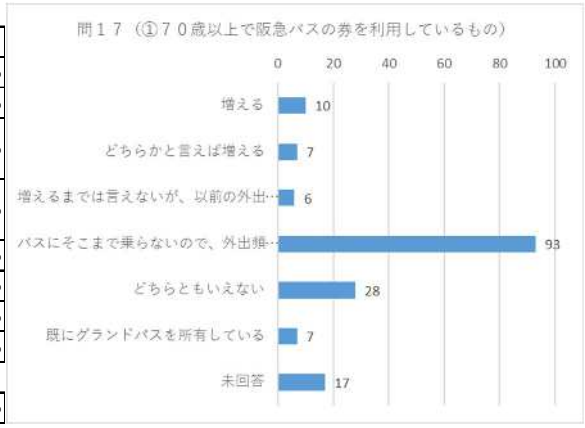
問8「バス利用回数」 とのクロス集計結果	月31回以上（月15日以上）	月26～30回（月13～15日）程度	月21～25回（月11～12日）程度	月15～20回（月8～10日）程度	月10～14回（月5～7日）程度	月5～9回（月3、4日）程度	月1～4回（月1、2日）程度	年数回程度	バスに乗らない	未回答	合計
増える	11	5	3	8	5	9	12	3	1	5	62
	(16.7%)	(15.6%)	(7.3%)	(9.0%)	(4.8%)	(7.8%)	(6.7%)	(1.8%)	(0.6%)	(21.7%)	(6.4%)
どちらかと言えば増える	10	2	5	11	8	5	18	10	4	1	74
	(15.2%)	(6.3%)	(12.2%)	(12.4%)	(7.7%)	(4.3%)	(10.0%)	(6.1%)	(2.6%)	(4.3%)	(7.6%)
増えるまでは言えないが、以前の外出回数を維持できると思う	12	9	14	15	13	11	15	5	5	2	101
	(18.2%)	(28.1%)	(34.1%)	(16.9%)	(12.5%)	(9.6%)	(8.3%)	(3.0%)	(3.2%)	(8.7%)	(10.4%)
バスにそこまで乗らないので、外出頻度に影響はない	3	3	4	18	35	56	97	105	112	5	438
	(4.5%)	(9.4%)	(9.8%)	(20.2%)	(33.7%)	(48.7%)	(53.9%)	(64.0%)	(72.3%)	(21.7%)	(45.2%)
どちらともいえない	11	10	11	28	40	23	28	28	23	6	208
	(16.7%)	(31.3%)	(26.8%)	(31.5%)	(38.5%)	(20.0%)	(15.6%)	(17.1%)	(14.8%)	(26.1%)	(21.5%)
既にグランドパスを所有している	13	3	0	3	1	1	1	0	1	0	23
	(19.7%)	(9.4%)	(0.0%)	(3.4%)	(1.0%)	(0.9%)	(0.6%)	(0.0%)	(0.6%)	(0.0%)	(2.4%)
未回答	6	0	4	6	2	10	9	13	9	4	63
	(9.1%)	(0.0%)	(9.8%)	(6.7%)	(1.9%)	(8.7%)	(5.0%)	(7.9%)	(5.8%)	(17.4%)	(6.5%)
乗車回数別　計	66	32	41	89	104	115	180	164	155	23	969

②グループ１（70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）

選択肢	件数	割合
増える	29	5.7%
どちらかと言えば増える	33	6.5%
増えるまでは言えないが、以前の外出回数を維持できると思う	69	13.6%
バスにそこまで乗らないので、外出頻度に影響はない	200	39.4%
どちらともいえない	129	25.4%
既にグランドパスを所有している	12	2.4%
未回答	36	7.1%
計	508	100.0%
有効回答率		92.9%

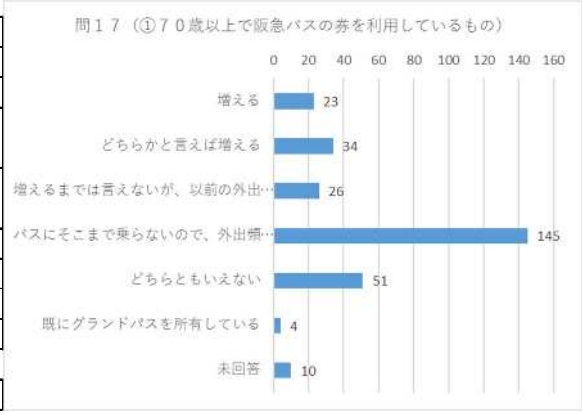
③グループ２（70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者）

選択肢	件数	割合
増える	10	6.0%
どちらかと言えば増える	7	4.2%
増えるまでは言えないが、以前の外出回数を維持できると思う	6	3.6%
バスにそこまで乗らないので、外出頻度に影響はない	93	55.4%
どちらともいえない	28	16.7%
既にグランドパスを所有している	7	4.2%
未回答	17	10.1%
計	168	100.0%
有効回答率		89.9%



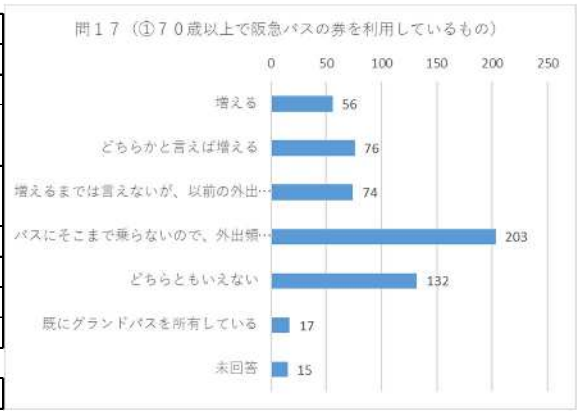
④グループ３（65 歳以上 70 歳未満）

選択肢	件数	割合
増える	23	7.8%
どちらかと言えば増える	34	11.6%
増えるまでは言えないが、以前の外出回数を維持できると思う	26	8.9%
バスにそこまで乗らないので、外出頻度に影響はない	145	49.5%
どちらともいえない	51	17.4%
既にグランドパスを所有している	4	1.4%
未回答	10	3.4%
計	293	100.0%
有効回答率		96.6%



⑤参考：一般回答者（無作為抽出者以外）

選択肢	件数	割合
増える	56	9.8%
どちらかと言えば増える	76	13.3%
増えるまでは言えないが、以前の外出回数を維持できると思う	74	12.9%
バスにそこまで乗らないので、外出頻度に影響はない	203	35.4%
どちらともいえない	132	23.0%
既にグランドパスを所有している	17	3.0%
未回答	15	2.6%
計	573	100.0%
有効回答率		97.4%

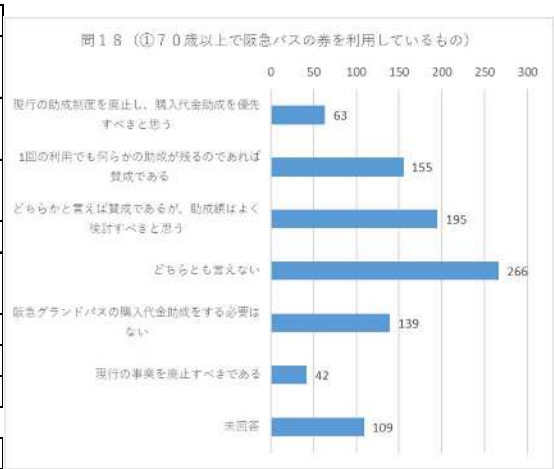


問　18　阪急グランドパス購入代金の助成を施策として追加することについて、1つだけ選んで数字に〇をつけてください。

【回答対象：全体】

①無作為抽出者全体

選択肢	件数	割合
現行の助成制度を廃止し、購入代金助成を優先すべきと思う	63	6.5%
1回の利用でも何らかの助成が残るのであれば賛成である	155	16.0%
どちらかと言えば賛成であるが、助成額はよく検討すべきと思う	195	20.1%
どちらとも言えない	266	27.5%
阪急グランドパスの購入代金助成をする必要はない	139	14.3%
現行の事業を廃止すべきである	42	4.3%
未回答	109	11.2%
計	969	100.0%
有効回答率		88.8%

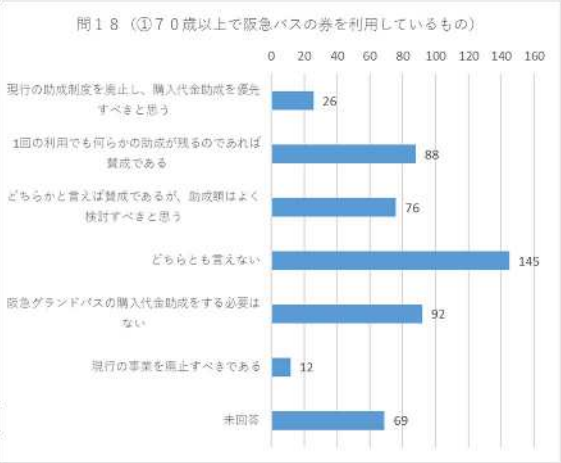


問3「お住まいの地区」 とのクロス集計結果	1. 奥池地区	2. 山手小学校区（奥池地区除く）	3. 岩園小学校区	4. 朝日ケ丘小学校区	5. 精道小学校区	6. 宮川小学校区	7. 打出浜小学校区	8. 浜風小学校区	9. 潮見小学校区（南芦屋浜地区除く）	10. 南芦屋浜地区	合計
現行の助成制度を廃止し、購入代金助成を優先すべきと思う	2	12	5	9	9	3	4	7	8	4	63
	(13.3%)	(7.3%)	(4.1%)	(8.7%)	(7.5%)	(3.5%)	(4.3%)	(6.3%)	(7.5%)	(8.5%)	(6.5%)
1回の利用でも何かしらの助成が残るのであれば賛成である	4	19	17	21	18	14	19	19	13	11	155
	(26.7%)	(11.5%)	(14.0%)	(20.4%)	(15.0%)	(16.3%)	(20.2%)	(17.1%)	(12.1%)	(23.4%)	(16.0%)
どちらかと言えば賛成であるが、助成額はよく検討すべきと思う	4	37	29	28	25	17	15	13	21	6	195
	(26.7%)	(22.4%)	(24.0%)	(27.2%)	(20.8%)	(19.8%)	(16.0%)	(11.7%)	(19.6%)	(12.8%)	(20.1%)
どちらとも言えない	2	54	30	16	32	22	27	38	34	11	266
	(13.3%)	(32.7%)	(24.8%)	(15.5%)	(26.7%)	(25.6%)	(28.7%)	(34.2%)	(31.8%)	(23.4%)	(27.5%)
阪急グランドパスの購入代金助成をする必要はない	2	19	17	12	19	16	13	15	20	6	139
	(13.3%)	(11.5%)	(14.0%)	(11.7%)	(15.8%)	(18.6%)	(13.8%)	(13.5%)	(18.7%)	(12.8%)	(14.3%)
現行の事業を廃止すべきである	0	10	5	4	8	5	4	2	1	3	42
	(0.0%)	(6.1%)	(4.1%)	(3.9%)	(6.7%)	(5.8%)	(4.3%)	(1.8%)	(0.9%)	(6.4%)	(4.3%)
未回答	1	14	18	13	9	9	12	17	10	6	109
	(6.7%)	(8.5%)	(14.9%)	(12.6%)	(7.5%)	(10.5%)	(12.8%)	(15.3%)	(9.3%)	(12.8%)	(11.2%)
地区別　計	15	165	121	103	120	86	94	111	107	47	969

問8「バス利用回数」 とのクロス集計結果	月31回以上（月15日以上）	月26～30回（月13～15日）程度	月21～25回（月11～12日）程度	月15～20回（月8～10日）程度	月10～14回（月5～7日）程度	月5～9回（月3、4日）程度	月1～4回（月1、2日）程度	年数回程度	バスに乗らない	未回答	合計
現行の助成制度を廃止し、購入代金助成を優先すべきと思う	15	3	1	9	5	6	14	6	3	1	63
	(22.7%)	(9.4%)	(2.4%)	(10.1%)	(4.8%)	(5.2%)	(7.8%)	(3.7%)	(1.9%)	(4.3%)	(6.5%)
1回の利用でも何かしらの助成が残るのであれば賛成である	11	1	9	12	18	13	45	25	17	4	155
	(16.7%)	(3.1%)	(22.0%)	(13.5%)	(17.3%)	(11.3%)	(25.0%)	(15.2%)	(11.0%)	(17.4%)	(16.0%)
どちらかと言えば賛成であるが、助成額はよく検討すべきと思う	18	10	9	20	17	24	29	34	34	0	195
	(27.3%)	(31.3%)	(22.0%)	(22.5%)	(16.3%)	(20.9%)	(16.1%)	(20.7%)	(21.9%)	(0.0%)	(20.1%)
どちらとも言えない	9	7	7	22	35	33	45	51	51	6	266
	(13.6%)	(21.9%)	(17.1%)	(24.7%)	(33.7%)	(28.7%)	(25.0%)	(31.1%)	(32.9%)	(26.1%)	(27.5%)
阪急グランドパスの購入代金助成をする必要はない	7	6	9	14	19	21	23	22	18	0	139
	(10.6%)	(18.8%)	(22.0%)	(15.7%)	(18.3%)	(18.3%)	(12.8%)	(13.4%)	(11.6%)	(0.0%)	(14.3%)
現行の事業を廃止すべきである	0	0	0	2	1	6	5	7	21	0	42
	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(2.2%)	(1.0%)	(5.2%)	(2.8%)	(4.3%)	(13.5%)	(0.0%)	(4.3%)
未回答	6	5	6	10	9	12	19	19	11	12	109
	(9.1%)	(15.6%)	(14.6%)	(11.2%)	(8.7%)	(10.4%)	(10.6%)	(11.6%)	(7.1%)	(52.2%)	(11.2%)
乗車回数別　計	66	32	41	89	104	115	180	164	155	23	969

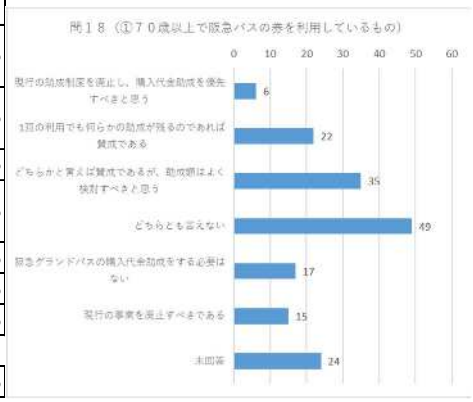
②グループ１（70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）

選択肢	件数	割合
現行の助成制度を廃止し、購入代金助成を優先すべきと思う	26	5.1%
1回の利用でも何らかの助成が残るのであれば賛成である	88	17.3%
どちらかと言えば賛成であるが、助成額はよく検討すべきと思う	76	15.0%
どちらとも言えない	145	28.5%
阪急グランドパスの購入代金助成をする必要はない	92	18.1%
現行の事業を廃止すべきである	12	2.4%
未回答	69	13.6%
計	508	100.0%
有効回答率		86.4%



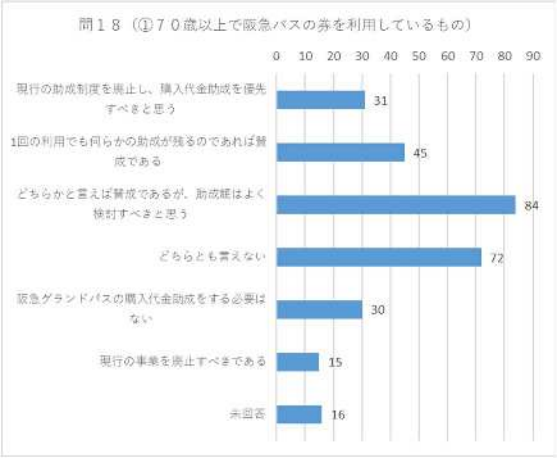
③グループ２（70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者）

選択肢	件数	割合
現行の助成制度を廃止し、購入代金助成を優先すべきと思う	6	3.6%
1回の利用でも何らかの助成が残るのであれば賛成である	22	13.1%
どちらかと言えば賛成であるが、助成額はよく検討すべきと思う	35	20.8%
どちらとも言えない	49	29.2%
阪急グランドパスの購入代金助成をする必要はない	17	10.1%
現行の事業を廃止すべきである	15	8.9%
未回答	24	14.3%
計	168	100.0%
有効回答率		85.7%



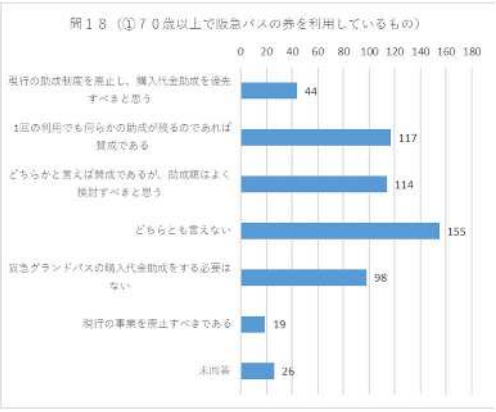
④グループ３（65 歳以上 70 歳未満）

選択肢	件数	割合
現行の助成制度を廃止し、購入代金助成を優先すべきと思う	31	10.6%
1回の利用でも何らかの助成が残るのであれば賛成である	45	15.4%
どちらかと言えば賛成であるが、助成額はよく検討すべきと思う	84	28.7%
どちらとも言えない	72	24.6%
阪急グランドパスの購入代金助成をする必要はない	30	10.2%
現行の事業を廃止すべきである	15	5.1%
未回答	16	5.5%
計	293	100.0%
有効回答率		94.5%



⑤参考：一般回答者（無作為抽出者以外）

選択肢	件数	割合
現行の助成制度を廃止し、購入代金助成を優先すべきと思う	44	7.7%
1回の利用でも何らかの助成が残るのであれば賛成である	117	20.4%
どちらかと言えば賛成であるが、助成額はよく検討すべきと思う	114	19.9%
どちらとも言えない	155	27.1%
阪急グランドパスの購入代金助成をする必要はない	98	17.1%
現行の事業を廃止すべきである	19	3.3%
未回答	26	4.5%
計	573	100.0%
有効回答率		95.5%



問 19　あなたが充実させるべきと思う高齢者施策について、当てはまる数字すべてに○をつけてください。

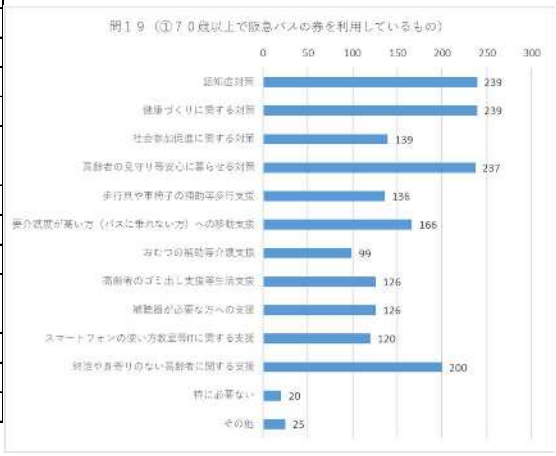
【回答対象：全体】（複数回答可）

①無作為抽出者全体

選択肢	件数	割合
認知症対策	468	48.3%
健康づくりに関する対策	424	43.8%
社会参加促進に関する対策	285	29.4%
高齢者の見守り等安心に暮らせる対策	484	49.9%
歩行具や車椅子の補助等歩行支援	283	29.2%
要介護度が高い方（バスに乗れない方）への移動支援	329	34.0%
おむつの補助等介護支援	226	23.3%
高齢者のゴミ出し支援等生活支援	267	27.6%
補聴器が必要な方への支援	229	23.6%
スマートフォンの使い方教室等ITに関する支援	202	20.8%
終活や身寄りのない高齢者に関する支援	417	43.0%
特に必要ない	30	3.1%
その他	49	5.1%
回答者数	969	

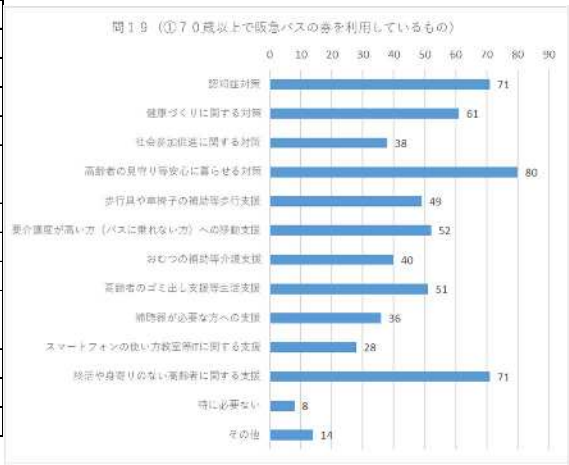
②グループ１（70 歳以上・バス運賃助成事業利用者）

選択肢	件数	割合
認知症対策	239	47.0%
健康づくりに関する対策	239	47.0%
社会参加促進に関する対策	139	27.4%
高齢者の見守り等安心に暮らせる対策	237	46.7%
歩行具や車椅子の補助等歩行支援	136	26.8%
要介護度が高い方（バスに乗れない方）への移動支援	166	32.7%
おむつの補助等介護支援	99	19.5%
高齢者のゴミ出し支援等生活支援	126	24.8%
補聴器が必要な方への支援	126	24.8%
スマートフォンの使い方教室等ITに関する支援	120	23.6%
終活や身寄りのない高齢者に関する支援	200	39.4%
特に必要ない	20	3.9%
その他	25	4.9%
回答者数	508	



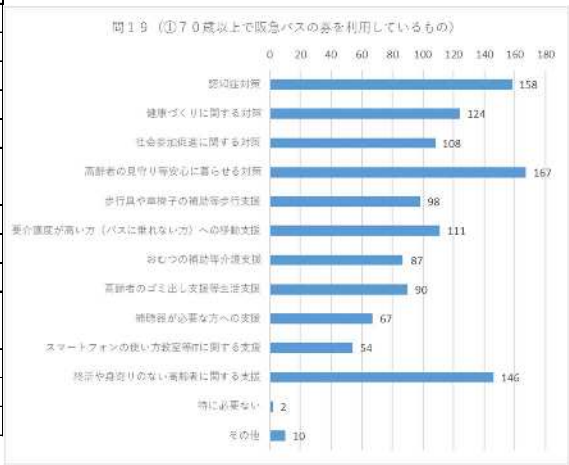
③グループ２（70 歳以上・バス運賃助成事業未利用者）

選択肢	件数	割合
認知症対策	71	42.3%
健康づくりに関する対策	61	36.3%
社会参加促進に関する対策	38	22.6%
高齢者の見守り等安心に暮らせる対策	80	47.6%
歩行具や車椅子の補助等歩行支援	49	29.2%
要介護度が高い方（バスに乗れない方）への移動支援	52	31.0%
おむつの補助等介護支援	40	23.8%
高齢者のゴミ出し支援等生活支援	51	30.4%
補聴器が必要な方への支援	36	21.4%
スマートフォンの使い方教室等ITに関する支援	28	16.7%
終活や身寄りのない高齢者に関する支援	71	42.3%
特に必要ない	8	4.8%
その他	14	8.3%
回答者数	168	



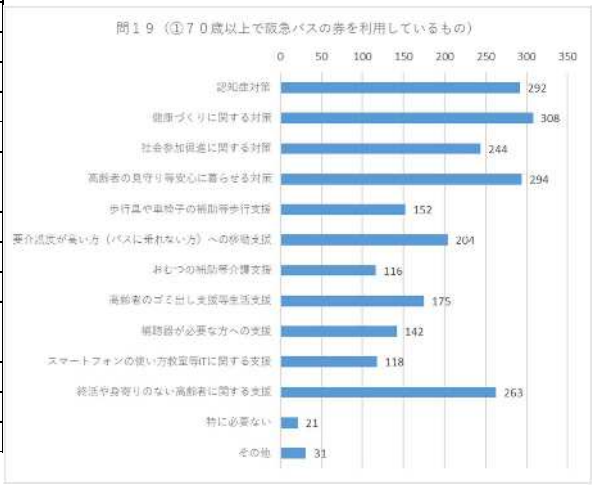
④グループ３（65 歳以上 70 歳未満）

選択肢	件数	割合
認知症対策	158	53.9%
健康づくりに関する対策	124	42.3%
社会参加促進に関する対策	108	36.9%
高齢者の見守り等安心に暮らせる対策	167	57.0%
歩行具や車椅子の補助等歩行支援	98	33.4%
要介護度が高い方（バスに乗れない方）への移動支援	111	37.9%
おむつの補助等介護支援	87	29.7%
高齢者のゴミ出し支援等生活支援	90	30.7%
補聴器が必要な方への支援	67	22.9%
スマートフォンの使い方教室等ITに関する支援	54	18.4%
終活や身寄りのない高齢者に関する支援	146	49.8%
特に必要ない	2	0.7%
その他	10	3.4%
回答者数	293	



⑤参考：一般回答者（無作為抽出者以外）

選択肢	件数	割合
認知症対策	292	51.0%
健康づくりに関する対策	308	53.8%
社会参加促進に関する対策	244	42.6%
高齢者の見守り等安心に暮らせる対策	294	51.3%
歩行具や車椅子の補助等歩行支援	152	26.5%
要介護度が高い方（バスに乗れない方）への移動支援	204	35.6%
おむつの補助等介護支援	116	20.2%
高齢者のゴミ出し支援等生活支援	175	30.5%
補聴器が必要な方への支援	142	24.8%
スマートフォンの使い方教室等ITに関する支援	118	20.6%
終活や身寄りのない高齢者に関する支援	263	45.9%
特に必要ない	21	3.7%
その他	31	5.4%
回答者数	573	



資料03_高齢者バス運賃助成事業の見直し（案）

令和　7　年　9　月　2　日
民生文教常任委員会説明資料
こども福祉部福祉室高齢介護課

高齢者バス運賃助成事業を長く安心して利用できる仕組みに

制度を続けながら、もっと外出しやすくなる工夫も加えます。

主な
ポイント

制度を安心して続けられるように助成割合を工夫します。

例　運賃250円の場合の本人負担

現行　　130円（5割助成）
見直し後　180円（3割助成）

現行どおり
1度の利用でも助成をします。

よくバスを利用される方は『阪急グランドパス購入代金の助成』で
今よりお得に外出できます。

・乗車回数が多い市民は、現行よりも負担が減少します。
・阪急グランドパス利用者は阪神バスも利用可能なため、阪神バス／市外利用の場合も助成が受けられます。

高齢者バス運賃助成事業の役割

窓口で乗車証（芦屋市専用のICカード）を作成すれば、そのICカードを利用することで阪急バスが半額で乗れる事業で、**外出支援を目的**としています。

年間乗車回数	人数
361～	284
301～360	214
241～300	333
181～240	535
121～180	930
61～120	1703
60	6315
	10,314

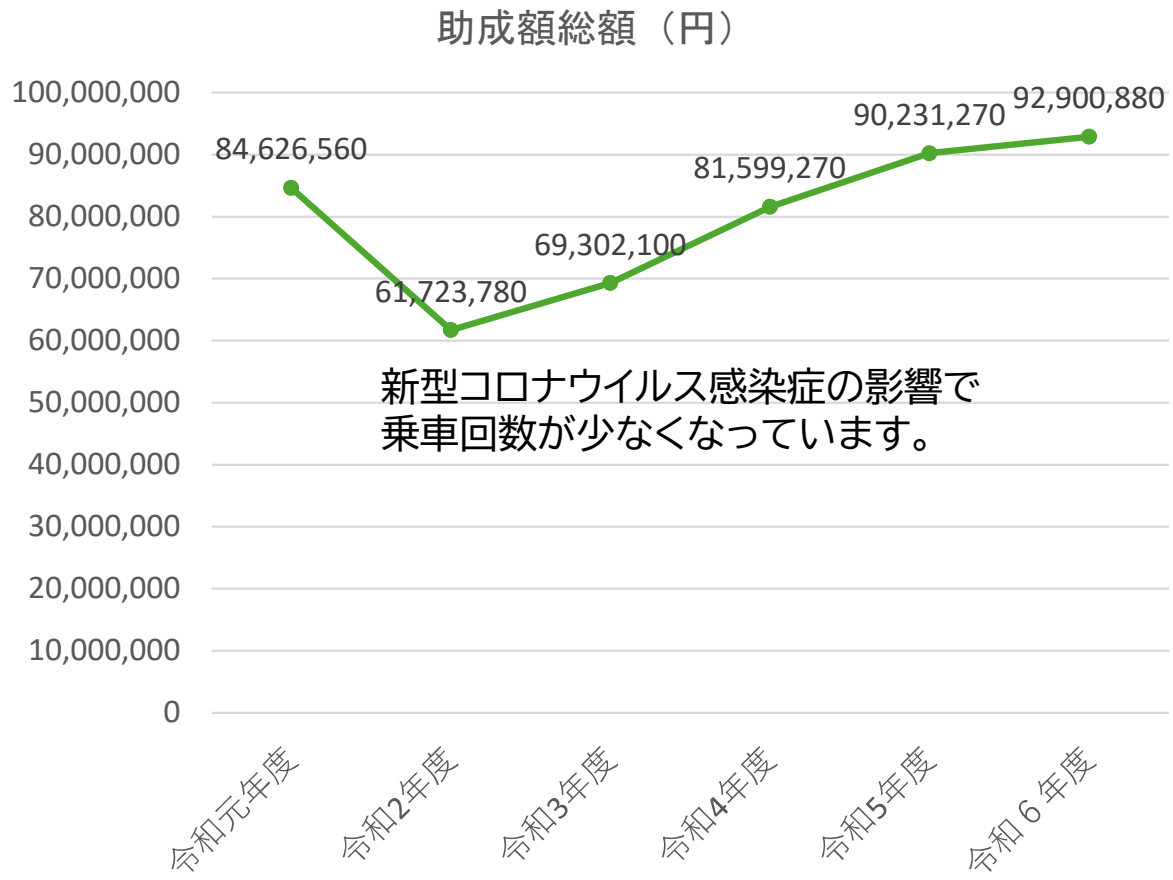
令和5年度実績

月数回の利用から毎日の利用まで、幅広い方が活用しています。外出促進に役立っています。

高齢者バス助成事業の支出額の推移

高齢者人口の増加と、阪急バスの運賃の改定等で支出が増えています。

■高齢者バス助成事業の支出額の推移



■阪急バス運賃の改定履歴

年度	運賃
～令和5年8月	220円
令和5年9月～	230円
令和6年10月～	240円
令和7年10月～	250円

■芦屋市の補助額

年度	運賃
～令和6年9月	110円
令和6年10月～	120円

高齢者バス助成事業見直しにおける市民の声①

多くの市民が「助成額を制限してでも制度を続けてほしい」と回答。
だからこそ、持続可能な制度に整えます。

■高齢者バス運賃助成事業に係るアンケートより

グループ	現行どおりの継続	助成額を制限して継続	継続　計	本事業の廃止
グループ1（70歳以上・バス運賃助成事業利用者）	34.6	53.1	87.7	6.5
グループ2（70歳以上・バス運賃助成事業未利用者）	9.5	50.7	60.2	22.1
グループ3（65歳以上70歳未満）	14.7	62.8	77.5	20.1
無作為抽出者全体	24.3	55.6	79.9	13.3
参考：一般回答者（無作為抽出者以外）	33.5	56.0	89.5	8.7

アンケート結果では、全小学校区でも助成額を制限して継続が1番多い

高齢者バス助成事業見直しにおける市民の声②

利用者を限定せずに多くの市民が利用できるように、制度を持続可能なものとします。

■高齢者バス運賃助成事業に係るアンケート

グループ	ある程度 乗車している方に限定して助成	現行より 少額になっても 1回でも利用している方にも助成
グループ1 （70歳以上・バス運賃助成事業利用者）	18.7	53.0
グループ2 （70歳以上・バス運賃助成事業未利用者）	24.4	25.0
グループ3 （65歳以上70歳未満）	32.8	30. 0
無作為抽出者全体	23.9	41. 2
参考：一般回答者 （無作為抽出者以外）	24.3	45.9

市民の声を活かした持続可能な方法の選択

誰もが利用できる『助成割合の工夫』を選びました。

助成額の制限案	案の内容	デメリット	可否
所得制限	所得制限を設けて、非課税の人のみ利用できる	ICカードは一度作成すれば永久に利用できるため、毎年発行するものではない。 制度の趣旨と異なる。	×
回数上限設定	月の回数を設定し、上限を超えた場合は、正規の料金となる。	回数のカウントは可能だが、上限を超えた場合の回数のリセットはシステム上不可であり、営業所にその都度行く必要がある。 利用者が上限を超えたことに気付きにくい。	×
対象者限定	運賃助成制度を廃止し、阪急グランドパス購入代助成のみにする	アンケート結果より1回でも乗車する方への助成の要望が多い。 8割以上の市民の方が対象外となるため、反響が大きく市民の声に反する。	×
助成割合変更	乗車運賃の助成割合を減少する	回数を乗れば乗るほど負担が大きくなるため、 生活にバスが必要な方ほど影響を受ける。	○

制度を長く続けるための工夫

制度を将来にわたり続けるため助成割合を工夫し3割助成とします。その結果、新しい支援にも取り組みます。

助成率	運賃助成額後の本人負担額(円)	芦屋市負担額計(円)	本人負担額計(円)	1人当たり本人負担額計(円)	負担総額計(円)
5割助成(現行)	130	97,191,480	105,290,770	851	202,482,250
4割助成	150	80,992,900	121,489,350	982	202,482,250
3割助成	180	56,695,030	145,787,220	1,178	202,482,250
2割助成	200	40,496,450	161,985,800	1,309	202,482,250

令和5年度の乗車回数の実績に、運賃を250円とし、本人負担額を置き換えて再計算し算出

現行制度と比較し、約4,000万円の支出削減効果を見込みます。

高齢者バス助成事業の助成割合見直しによる市民への影響①

バスに多く乗車する方の負担が大きくなるため対策が必要です。

乗車回数別本人負担額の比較(円)(全体比較)

年間乗車回数	人数	現行制度	見直し案	本人負担	本人負担
		本人負担額(円)	本人負担額(円)	平均月額増加額(円)	増加割合
361～	284	17,201,600	23,817,600	1,941	38.5%
301～360	214	9,147,970	12,666,420	1,370	38.5%
241～300	333	11,505,520	15,930,720	1,107	38.5%
181～240	535	14,446,900	20,003,400	866	38.5%
121～180	930	17,863,690	24,734,340	616	38.5%
61～120	1703	19,333,730	26,769,780	364	38.5%
60	6315	15,791,360	21,864,960	80	38.5%
計	10,314	105,290,770	145,787,220	327	38. 5%

市民負担軽減策（阪急グランドパス購入代金の助成）①

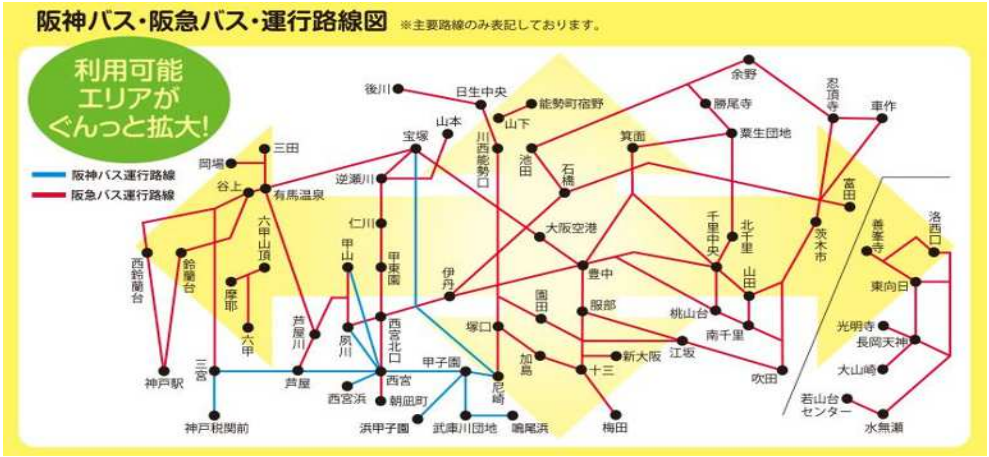
阪神バスも利用でき、活動範囲が広がります。市外にも出やすくなり、外出の楽しみが増えます。

70歳以上の方向けの阪急グランドパス70は現在も利用可

・阪神バスも乗れます

・芦屋市以外の路線も乗れます

外出促進の期待



現在バスに乗る回数が多いため、本事業を利用せずに阪急グランドパスを購入されている市民の方や、阪神バス利用者も対象となるため、利用者の拡大や外出支援につながります。

市民負担軽減策（阪急グランドパス購入代金の助成）②

購入代金の助成は3割とし、芦屋市が希望者に購入用の助成券を発行します。

助成額は3割助成とする（100円未満切り捨て）

期間	グランドパス料金	助成額	市民負担	月間乗車回数目安
1ヶ月	7,200	-	-	-
3ヶ月	15,700	-	-	-
6ヶ月	29,700	8,000	21,700	21
1年	53,600	16,000	37,600	18

・1年定期を基本とし、6か月定期の購入代金の助成はその半額とする。

・事務負担、外出促進の意図を考慮し、6か月以上から助成の対象とする。

阪神バス利用者は月に6～7日以上利用される方の場合、阪急グランドパス購入の方がおすすめです。

●市民の方が助成を受けたい場合の手続き

市民が芦屋市に購入代金の助成を申請

↓

芦屋市が助成券を作成し市民に送付

↓

市民が阪急バス芦屋浜営業所で
助成券を持参し購入手続き

手続きができる場所は決まっており、
芦屋市では芦屋浜営業所のみになります。

阪急グランドパス購入代金助成による市民負担への影響①

阪急グランドパス購入代金の助成を実施した方が、乗車回数が多い市民は現行制度よりも負担が軽減します。

乗車回数別本人負担額の比較(円)(個人比較)

年間 乗車回数	現行制度 (助成額5割)	見直し後 (助成額3割)	グランドパス 購入代金3割 助成あり
グランドパス 購入代金助成	なし	なし	あり
720	93,600	129,600	37,600
600	78,000	108,000	37,600
480	62,400	86,400	37,600
360	46,800	64,800	37,600
240	31,200	43,200	37,600
120	15,600	21,600	21,600
60	7,800	10,800	10,800
24	3,120	4,320	4,320

高齢者バス助成事業の助成割合見直しによる市民への影響②

阪急グランドパス購入代金の助成開始により、年間乗車回数が多い方は現行制度よりも負担が少なくなります。

乗車回数別本人負担額の比較(円)(全体比較)

年間乗車回数	人数	グランドパス移行人数	現行制度	見直し案	本人負担	本人負担
			本人負担額(円)	本人負担額(円)	平均月額増加額(円)	増加割合
361～	284	284	17,201,600	10,678,400	△1,914	△37.9%
301～360	214	214	9,147,970	8,046,400	△429	△12.0%
241～300	333	333	11,505,520	12,520,800	254	8.8%
181～240	535	243	14,446,900	19,339,200	762	33.9%
121～180	930	0	17,863,690	24,734,340	616	38.5%
61～120	1703	0	19,333,730	26,769,780	364	38.5%
60	6315	0	15,791,360	21,864,960	80	38.5%
合計	10,314	1,074	105,290,770	145,787,220	151	17.7%

阪急グランドパス購入代金の助成を含めた負担比較

阪急グランドパス購入代金助成も含めると、より持続可能な仕組みになります。

グランドパス購入代金助成なし

助成率	運賃助成額後の本人負担額(円)	芦屋市負担額計(円)	本人負担額計(円)	1人当たり本人負担額計(円)	負担総額計(円)
3割助成	180	56,695,030	145,787,220	1,178	202,482,250

グランドパス購入代金助成あり

助成率	グランドパス購入代金助成額	芦屋市負担額計(円)	本人負担額計(円)	新規追加額※(円)	負担総額計(円)
3割助成	130	49,684,020	123,953,880	9,600,000	183,237,900

※阪神バス利用者等、新規に本事業を利用し阪急グランドパス購入代金の助成を受ける市民を600人と見込む

市バスを所有していない自治体（阪神間）での同事業の比較

近隣自治体と比べても充実した外出支援制度です。

自治体	支援内容	助成額の上限 / 実質運賃	交通手段の範囲	対象条件／所得制限
芦屋市（見直し後）	①芦屋市専用ICカード②阪急バス「グランドパス70」定期券助成	①上限なし／3割引き②16,000円	バスのみ	70歳以上／なし
西宮市	バスICカード・回数券購入時に使える割引証	年間5,000円（1,000円券5枚）	バスのみ	70歳以上／なし
宝塚市	バス・指定タクシーで使える助成券	年間5,000円（500円券×10枚）	バス・タクシー	70歳以上／なし
三田市	バス・電車・タクシーで使える割引券	年間7,500円（500円券×15枚）	バス・鉄道・タクシー	70歳以上／なし
猪名川町	阪急バス「グランドパス70」定期券助成	区分1＝最大20,000円、区分2＝最大15,000円、区分3＝最大10,000円	バスのみ	70歳以上／あり（3区分制）
川西市	制度なし			

外出支援と暮らしの安心をさらに拡充

助成割合を工夫して、新しい支援を実現します。外出支援の拡充や、終活の相談窓口を新たに整える検討を開始します。

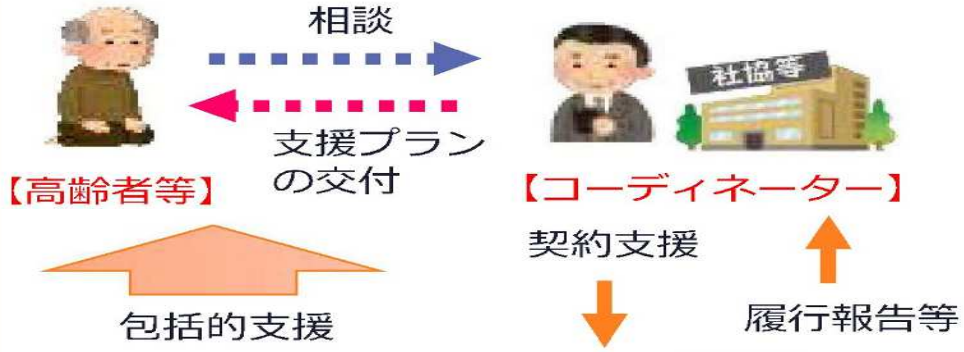
高齢者から要望の多い施策	高齢者から要望の多い施策への対応
高齢者の見守り等安心に暮らせる対策	令和7年8月より緊急通報システムの利用条件を緩和
認知症対策	令和5年度より認知症賠償保険制度を導入
健康づくりに関する対策	従来より介護予防の取組を実施中
終活や身寄りのない高齢者に関する支援	終活事業の検討開始
要介護度が高い方（バスに乗れない方）への移動支援	助成対象者の拡充を検討

終活事業の開始を検討

身寄りのない高齢者の増加に伴い、終活相談窓口の開設を検討します。

１．包括的な相談・調整窓口の整備

身寄りのない高齢者等の相談を受け止め、公的支援や民間事業者等が提供するサービスなど**地域の社会資源を組み合わせた包括的支援のマネジメント**や**各種支援・契約の履行状況の確認等を行うコーディネーターを配置**した相談・調整窓口を整備。



《業務内容》
意思決定支援を確保しながら以下の業務を実施
- 地域の社会資源を組み合わせた『包括的な支援プラン』の作成。
- プランに基づく支援のアレンジメントや各種契約支援、履行状況確認
- 様々な分野の活動や人と人とのつなぎ合わせなど地域づくりのコーディネート

など

－　単身高齢者等包括支援プラットフォーム　－

入居支援	見守り	法律相談	終活支援	死後対応
つながり支援	生活支援	財産管理	権利擁護	残置物処分
家賃債務保証など				

要援護高齢者外出支援事業の拡充

要介護3の方を対象に追加する等、身体上の理由でバスに乗れない方への支援の拡充を検討します。

■要援護高齢者外出支援サービス事業拡充案

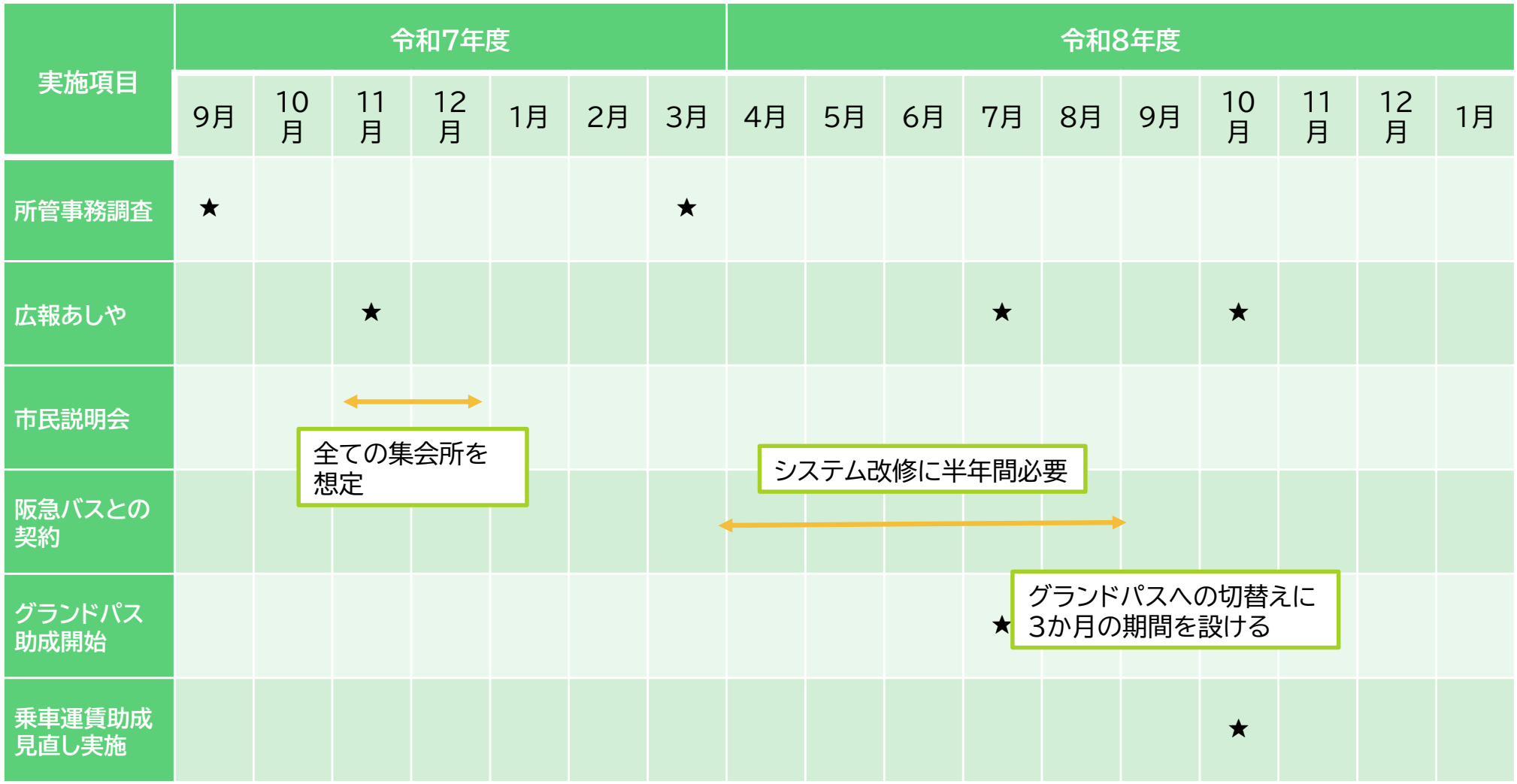
区分	対象者	金額
現行	60歳以上の在宅で 寝たきり又は認知症の高齢者 （障害高齢者の自立度、認知症高齢者自立度で判定）	500円券52枚
拡充分	上記に加え 要介護3以上の人を対象に追加	500円券52枚

■市内の要介護者の人数

認定度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
人数	1,407	1,031	1,357	750	740	681	471

スケジュール(案)

市民説明会も開催しながら進めます。グランドパス購入代金の助成を先行し、安心して切り替えられるよう準備します。



高齢者の暮らしをもっと安心・便利に

安心して暮らせるための高齢者バス運賃助成事業の見直し

01 事業継続

本事業に期待している市民が多く、**持続可能な制度となるよう運賃の助成割合を見直し事業を継続**します。現行事業どおり１度の利用でも引き続き利用可能とします。

02 充実

阪急グランドパス購入代金への助成を開始し、**バスに多く乗る市民の方の負担を現行よりも軽減**します。また、阪神バスを利用している市民の方が本事業を利用する等、事業利用者の増加を見込みます。

03 相談

高齢者が何でも相談できる高齢者生活支援センターの増設を令和6年度に実施。新たに身寄りのない方等の増加を考慮し、**終活の相談ができる窓口の開設を検討**します。

高齢者バス運賃助成事業の見直し__まとめ

市民の声を大切にした高齢者バス運賃助成事業の見直し

見直しの考え方

- アンケート結果による市民の意見を基に作成
- 制度が持続可能になるように助成割合を工夫します。
- 対象者は限定せず、70歳以上の誰もが使える事業とします。

見直しによる充実化

- 阪急グランドパス購入代金の助成を開始。負担の軽減だけでなく、新たな利用者や、外出支援につながります。
- 要援護者外出支援の対象者を拡充し、身体等の理由によりバスに乗れない方の安心を増やします。